

十四條私書偽造行使ノ點ハ同法第二百十條第一項第二百十二條ニ該當スルモ詐欺取財ノ罪ヲ犯スニ依リ文書ヲ偽造シタルモノナルヲ以テ右第三百九十條第二項ニ基キ其重キ私書偽造行使ノ法條ニ從ヒ云云ハ判決シタルニ拘ハラズ其第一審判決ヲ取消ツテ原判決ハ全部相當ニシテ控訴ハ理山ナシ云々ト判決シタルハ上告所論ノ如ク不法ニシテ破毀ヲ免カレズ

但本文ノ不法アリテ原判決ヲ破毀スル以上ハ餘ノ論旨ニ對シ説明ヲ付スルノ要ナシ

右ノ理山ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移送ス
 明治三十四年十月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○偽證ノ件 明治三十四年九月第一一六三號
 明治三十四年十月四日宣旨

○判決要旨

犯罪行為ノ繼續中豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯ナ

第一審 島取地方裁判所米子支部 第二審 大阪控訴院

被告人 高橋金次郎

右偽證被告事件ニ付明治三十四年七月八日大阪控訴院ニ於テ原判決ヲ取消ス被告金次郎ヲ無罪トス押收ノ證書ハ出村重次郎ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ原院檢事長大島貞敏ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ抑從犯罪ハ主犯ノ重要ナル實行々爲ニハ加效セサルモ間接行爲即チ幫助的行爲ヲ以テ其犯罪ヲ容易ナラシメタルニ因リ成立スヘキモノナレハ其幫助的行爲カ正犯ノ着手以前ニ於テ行ハレタル場合ニノミ限定スヘキモノニアラスシテ着手後則チ犯罪實行中ニ於テ行ハレタル場合ニ於テモ亦從犯罪ヲ以テ論スヘキハ當然ナリ何ントナレハ彼是共ニ犯罪實行ノ幫助者ニシテ犯意上ヨリ見ルモ結果上ヨリ論スルモ二者ノ間ニ敢テ軒輊スヘキ所ナキニ只其幫助カ有罪無罪ヲ區別スルカ如キハ立法ノ本志ニアラサルヲ以テナリ然ルニ原院ニ於テハ從犯罪ニ付テノ豫備ノ所爲云々ノ語ヲ以テ宛モ主犯者ニ付テノ主觀的觀察上ノ犯罪豫備其モノト同一意義ニ解釋セラレタルモノ、如ク即チ主犯者ノ着手以後ニハ豫備ナシトノ理山ヲ以テ罪トナラスト判定セラレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ正犯者カ犯罪行為ノ繼續中ナル場合ニ於テ之ヲ幫助シテ其犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ處分スヘキモノトス而シテ原判決ヲ查スルニ被告ハ官能英五郎ノ偽證ヲ爲スノ情ヲ知りテ之

チ遂クシムル爲ノ出村重次郎ノ荷車ヲ英五郎ニ貸與スルノ周旋ヲ爲シ續テ津山支部公延ニ於テ參考人トシテ該荷車ハ自己ノ貸與シテ荷車ナリト詐欺ノ陳述ヲ爲シタル事實ノ認定アルニ依レハ英五郎カ偽證ノ行爲繼續中被告ハ豫備ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助シタルコト明白ナルニモ拘ハラズ英五郎ノ證人トシテ證言ヲ爲シ初メタル已後ノ行爲ナレハ罪トナラスト判決シタルハ上告論旨ノ如ク擬テ錯誤ノ裁判ニシテ破毀ノ原山アルモノトス而シテ原判決ハ本件ニ付キ證據ノ明示ナキヲ以テ本院ニ於テ直チニ判決スルニ山ナシ故ニ他ノ裁判所ニ移付スルモノナリ

右ノ理山ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ本件ヲ廣島控訴院ニ移ス

明治三十四年十月四日於大審院第二刑事部公延檢事與宮正治立會宣告ス

○封印破毀ノ件

明治三十四年九月一〇三二號
明治三十四年十月七日宣告

○判決要旨

雇人(刑事訴訟法第二百二十三條)トハ一定ノ期間雇傭契約ニ依リ雇入

レラレタル者ヲ謂フ從テ雇主不在中ノ留守居ノ如キモノハ雇人ニ非ス

(參照) 左ニ記載シタル者ハ雇入ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得第四民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人(刑事訴訟法第二百二十三條第四號)

第一審 靜岡地方裁判所沼津支部 第二審 東京控訴院

被告人 勝又美代吉 辯護人 高木益太郎 佐々木直綱

右封印破毀被告事件ニ付明治三十四年六月二十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ本件ニ付上告人ハ利益ノ證據トシテ證人和田得道及證人勝又紋次郎ノ訊問ヲ申請シ上告人カ犯罪ヲ爲シタルモノニアラサルコトヲ立證セントシタルニ原院ハ此利益ノ立證方法ヲ絶對ニ排斥シ控訴ヲ棄却シタルハ不法ノ判決ナリト思料スト云フニ在レトモ○證據調ヘノ申請ヲ許容スルト否トハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ之ニ對スル不服ハ上告ノ理山トナラス○辯護人佐々木直綱擴張第一點ノ要旨ハ收稅官吏クル稅務屬カ司法警察官トシテ證據蒐集ヲナスニ際シテハ間稅官吏ノ證票ヲ携

帶スルコトヲ要スルハ間接國稅犯則處分法第一條第三項ノ規定スル所ナレハ原院カ稅務屬和田荷道ノナシタル行爲カ職務執行トシテ適法ナル證據蒐集ノ行爲即有效ナル差押ナリト認ムルカ爲メニハ先ツ以テ此證據ヲ携帶シタリヤ否ヤヲ證據ニヨリテ之ヲ明示セサル可カラズ然ルニ原院ハ其之ヲ認ムルニ付何等ノ理由ヲ付セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○官署ノ施シタル封印ナルコト及ヒ之ヲ破棄シタル事實ヲ認メ之レカ理由ヲ明示シタル以上ハ間稅官吏ノ證據携帶ノ如キハ犯罪事實ニ毫モ影響ナキナリテ特ニ其證據携帶ノ證據ヲ示スヲ要セス』同第二點ノ要旨ハ間稅官吏カ差押手續トシテ其物品ノ保管ヲ命スル場合ニ於テハ必ス預リ證據ヲ徵ス可キモノニシテ本件ノ如キ此規定ニ反シ單ニ和田收稅屬カ口頭保管ヲ命シタルニ過キサル違法手續ニ依リテナサレタル差押ハ差押トシテ效力ヲ有スルモノニアラス故ニ其物品ニ施シタル封印ノ如キモノ之ヲ官ノ特別ノ處分ニヨル封印ト云フヲ得サルナリ然ルニ原院ハ和田屬カ差押ヲナシタル變テ被告ニ保管ヲ命シタルニ被告ハ保管書ヲ差出サスト認ムルニ係ハラス封印破棄ノ所爲アリトシ刑法第七十四條ニ間擬シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○本件原院決ノ認ムル所ハ和田收稅官吏カ密造濁酒在中ノ變テ差押ヘ封印ヲ施シ被告ニ保管ヲ命シタルニ被告ハ保管書ヲ差出スコトヲ拒ミ同人ノ立去リタル後其封印ヲ破棄シタル事實ニシテ所謂預リ證據ヲ徵シ得ザリシハ被告ノ抗拒ニ出テ其手續ヲ行フ能ハザリシモノナレハ之レニ對シ保管書ヲ徵セサルカ爲メ差押ノ效ナシ又ハ封印破棄ノ行爲ニアラスト論難スル如キハ太々謂レナシ』同第三點ノ要旨ハ原院決ノ理

由ニ於テハ「前署同日夕刻自宅ニ於テ該封印二個所ノ中其一個所ヲ破毀シタリ」トアリ其證據ノ部ニハ「被告カ當公廷ニ於テ明治三十三年十月十六日晚自宅ニ於テ云云差押ヘラレタルコトヲ認ムルトニ依リ之ヲ認定スルニ充分ナリ」トアリテ被告カ晚ニ差押ヘラレタリトノ供述ヲ斷罪ノ證據ニ採リナカラ判決理由ニ夕刻ニ封印ヲ破棄シタリト認メタルハ理由齟齬ノ違法アリ加之間接國稅犯則者處分法第五條ニヨレハ日出前日沒後ニハ物件差押ヲ禁スル所ニシテ本件ニ付稅務屬和田荷道カ差押ヲナシタル日即明治三十三年十月十六日ハ同年ノ曆ニヨレハ日沒ハ午後四時五十四分ナリ收稅屬和田荷道カ同日午後四時四十五分後ニ差押ヲ爲シタリトセハ其差押ハ無効ニシテ從テ其封印モ亦無効ナルヲ以テ之ヲ破棄スルモ犯罪成立ス可キモノニアラス故ニ判決ニ於テ日沒前ニ差押ヲナシタリヤ日沒後ニ差押ヲナシタリヤハ斷罪ニ重要ナル點ナルニ係ハラス之ヲ明示セス漠然午後四時過キニ出張シテ差押ヲ爲シタル旨ヲ掲記シタルハ理由不備ノ違法アリト云フニ在レトモ○原院決ハ稅務屬和田荷道ノ告發書等各證據ヲ掲ケ之ヲ綜合シ以テ事實ヲ認定シタルモノナレハ本論難ハ畢竟證據ノ取捨ヲ批難スルニ外ナラス又明治三十三年ノ曆ニ依レハ其十月十六日ノ日沒ハ五時〇四分ナルヲ以テ原院文ノ十月十六日ノ午後四時過ハ日沒後ニアラスルコト明カナレハ是レ亦理由不備ノ違法ナシ』辯護人高木益太郎辯明第一點ハ本件公訴ノ要旨ハ豫審終結決定書中犯罪事實ノ部ニ「(前署)保管ヲ命セラレ其保管中同日夕方自宅ニ於テ其封印ヲ破毀シ在中ノ濁酒全部ヲ取出シタルモノトス」ト掲ケ檢事モ亦右決定書ニ基キ公訴ノ

趣旨ヲ演述シタルコトハ第一審公判始末再ノ證明スル所ナリ則チ被告ニ官ノ封印破棄ノ所爲ト差押物件竊取ノ點ニ判斷下サ、リシハ請求ヲ受ケタル事項ヲ判セサルノ違法アリト云フニアリ」同第二點ハ第一審判決ノ事實理山ヲ熟視スルニ同判決ハ被告カ官ノ封印破棄ノ事實ヲ認メケル上「(前略)在中ノ濁酒ヲ取捨ナタルモノナリ」トノ事實ヲ斷定セリ果シテ然ラハ被告ニ刑法第七十四條ヲ適用スル外尙ホ同法第七十五條ヲ適用スヘキ筈ナルニ之レカ適用チ欠キタルハ法律ノ理山ヲ具セサル瑕疵アルヲ免カレヌ從テ被告カ右判決ニ對スル控訴ノ申立ハ相當ナルニモ不拘原院ニ於テ漫然之ヲ棄却シタルハ不法ノ措置タリト云フニ在レトモ○原記録豫審終結決定書ヲ見ルニ「前略濁酒全部ヲ取出シタルモノトス以上ノ事實ハ云々濁酒密造ノ所爲ハ云々官ノ封印ヲ破毀シタル所爲ハ刑法第七十四條ニ該當スル輕罪犯ナリト思料スルヲ以テ當支部ノ輕罪公判ニ付ス」トアリテ差押物件竊取ノ所爲アリトシテ共ニ公判ニ付シタルモノニアラサルコト明カナリ又第一審判決、在中ノ濁酒ヲ取捨タルモノナリトノ文詞ハ濁酒竊取ノ事實ヲ認定シタルニ非サルコト該判文全體ニ依リ明カナルヲ以テ原判決カ右ト同シキ認定ナ下シ控訴ヲ棄却シタルハ相當ニシテ毫モ所論ノ如キ不法ナシ」同第三點ハ證人勝又紋次郎ノ豫審訊問調書ヲ視ルニ同人ト被告トノ間ニ刑事訴訟法第二百二十三條各項ノ身分關係ナキコトヲ確定シアラヌ故ニ同人ノ陳述ハ證言ノ效ナキモノナルニ原院カ其效アルモノトシテ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ノ

裁判ナリト云フニ在レトモ○該調書ニハ「問民事原告人又ハ被告人勝又美代吉ノ親族後見人被後見人雇人同居人ニ非ルヤ答別ニ血筋テハアリマセンカ私カ養子ニ這入ツタ時ノ世話ヲシテ與レマシタノテ假ノ親ニナツテ居ル丈テス」トアリ即チ此關係丈ケノミニシテ問ノ如キ關係ナキコトヲ答エタルモノナルコト明カナレハ刑事訴訟法第二百二十三條ノ身分關係ヲ確定セストノ論難ハ謂ハレナシ乃チ原判決ハ所論ノ如キ不法ナキモノトス」被告美代吉辯明第一點ノ要旨ハ原院カ第一審公判ニ於テ直接訊問ヲ爲サ、ル即チ豫審ノ證人ノ證言ヲ採リ判決ノ憑據トナシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○豫審ニ於ケル證人ノ訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供スル法律上何等ノ禁スル所ニアラサルヲ以テ原判決カ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニアラス」同第二點ノ要旨ハ豫審ノ證人タル勝又紋次郎ハ和田收稅屬ノ告發書等ニ依レハ被告ノ留守居ニ雇ヒタルモノナルコト明カナリ即チ留守居ハ被告家ノ雇人ナルヲ以テ之ヲ證人トシテ取調ヘタル豫審調書ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二十三條ハ雇人トハ一定ノ期出雇傭契約ニ依リ雇入レラレタル者ノ謂ニシテ本件戸主不在中ノ留守居ノ如キハ同條ハ所謂雇人ニアラス乃チ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ

右ノ理山ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官吏侮辱ノ件 明治三十四年九月一六二號
明治三十四年十月七日宣告

○判決要旨

營林主事補ハ刑事訴訟法第四十七條ニ所謂林務官ナリ故ニ其森林ノ保護上司法警察官トシテ常ニ犯罪搜索ノ職權ヲ有ス

(參照) 左ニ記載シタル官吏公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜索ス可シ第五林務官(刑事訴訟法第四十條第二項第五號)

第一審 羅島地方裁判所平支部 第二審 宮城控訴院
被告人 矢内猛夫 外一名

右官吏侮辱被告事件ニ付明治三十四年七月十三日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣意書ハ原判決ニ「千葉政右衛門ノ營林主事補タル職務ニ對シ云々侮辱シタルモノトス」云々トア

リ其職務ニ對スル侮辱ノ事實トシテ列舉セラレタル各條ヲ視ルニ一モ營林主事補タル職務ニ對スルトスヘキモノナシ林區署官制第八條ニ「營林主事補ハ云々上官ノ指揮ヲ受ケ森林ノ保護ニ從事シ營林事務及森林調査ヲ分擔ス」トアリ而シテ被告等カ侮辱シタリトスル各條ハ一モ此職務ニ對スルモノニアラスシテ其職務外ナル犯罪捜査ニ關スル事柄ナリトス即チ被告製造ハ森林竊盜ノ嫌疑ニ因リ營林主事補千葉政右衛門ノ取調ヲ受ケ云々トアレトモ營林主事補ハ犯罪捜査ノ職務ナキカ故ニ被告ヲ訊問スルハ已ニ違法ナルノミナラス縱令林務官ト雖モ檢事ノ指揮ナシテ犯罪ヲ捜査スルノ權ナシ況ンヤ營林主事補ヲ今被告ノ發シタル侮辱ノ言語ナリトシテ原院ノ舉示シタルモノニ就テ之ヲ檢スルニ「七八圓ノ木葉官吏ニ愚圖々々云ハル、コトハナイ云々」我々ハ青天白日ノ身テアル處分ヲ着セルナラ者セテ見ロ云々」等都テ政右衛門カ被告ヲ森林竊盜被告人トシテ取調タル其所爲ニ對シテ發シタル言語舉動ニシテ營林主事補タル職務ニ對シタルモノニアラス然ルニ官吏侮辱ノ罪トシテ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ全ク營林主事補タル職務ヲ誤解シタル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○營林主事補ハ刑事訴訟法第四十七條ノ所謂林務官ナルヲ以テ司法警察官トシテ其從事スル森林ノ保護上常ニ犯罪搜索ノ職權ヲ有ス而シテ原判決ノ認定スル所ニ依レハ被告等ハ富岡小林區署ニ於テ營林主事補千葉政右衛門ノ取調ヲ受ケ同列車ノ一室ニ同乗シ千葉君今日ハ御苦勞七八圓ノ木葉官吏ニ愚圖々々言ハル、コトハナイ我々ハ青天白日ノ身テアル處分ヲ着セルナラ者セテ見ロア、野郎毆殺セト云ヒ千葉政右衛門ノ

營林主事補タル職務ニ關シ各目前ニ於テ侮辱シタルモノナレハ即チ原判決カ此事實ニ對シ營林主事補タル官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノトシテ處斷シタルハ相當ニシテ毫モ所論ノ如キ不法ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○酒造税法違犯ノ件

明治三十四年九月第一二六號
明治三十四年十月七日宣告

○判決要旨

收税官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ終リタル後證憑湮滅ノ虞アルトキハ直ニ之ヲ告發スルノ職權ヲ有ス而シテ證憑湮滅ノ虞アリヤ否ヤハ當時ノ情況ニ徴シ當該官吏ノ査定スヘキモノトス

(參照) 收税官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務管理局長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ三、證憑湮滅ノ虞アルトキ(同條國稅犯則者處分)法第十三條第三號)

第一審 千葉地方裁判所八日市場支部 第二審 東京控訴院

被告人 菅生謙藏 辯護人 石原毛登馬

右酒造税法違犯事件ニ付明治三十四年七月二十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル控訴棄却ノ判決ニ對シ辯護人石原毛登馬ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

辯護人石原毛登馬上告趣意書ノ第一點ハ上告人ニ對スル酒造税法違犯事件ハ稅務屬カ濫リニ證據湮滅ノ虞アリトノ理由ヲ以テ直チニ司法裁判所ヘ告發シタルモノニシテ明治三十三年法律第六十三號第十三條ニ違反スル告發ナルヲ以テ之ニ由リテ公訴ヲ提起シタルハ不法ナリ然ルチ原判決カ控訴ヲ却下セラレタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法アリト云フニ在リ○然レトモ收税官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキ證據湮滅ノ虞アルトキハ直ニ之レヲ告發スヘシトハ間接國稅犯則者處分法第十三條第三號ノ規定スル所ニシテ其證據湮滅ノ虞アリト認ムヘキモノナルヤ否ヤハ一ニ當該官吏カ當時ノ情況ニ徴シ之ヲ査定スヘキモノトス故ニ今本件ニ於テ當該官吏カ證據湮滅ノ虞アリト認メ之ヲ告發シタルモノナレハ之レニ由リテ提起セラレタル公訴ハ素ヨリ適法ノモノナリトス故ニ原院ニ於テ第一審裁判所カ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決ヲ是認シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ毫モ不法ニアラス

明治三十四年十月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○國立銀行條例違反委託金費消等ノ件

明治三十四年十一月四日號
明治三十四年十月八日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 銀行ノ損失ヲ隱蔽センカ爲メ銀行備附ノ帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ハ國立銀行條例第八十五條ニ該リ刑法第二百一十條第一項ノ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シタルモノトス
(判旨第六點) 銀行ノ損失ヲ隱蔽センカ爲メ銀行帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ニ對シ刑法第二百一十條第一項ヲ適用シタル上ハ別ニ國立銀行條例(第八十五條)ヲ適用スルヲ要セス

(參照) 此條例ヲ違奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸證書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スハカラス又頭取取締役ノ

承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ證書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ證書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形爲換手形諸證書質物及ヒ公裁ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載スヘカラス若右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシ(國立銀行條例第八十五條)

賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二百一十條第一項)

(同) 上 國立銀行條例第一百十條ハ同條例中罰金ヲ以テ處罰スヘキ犯罪又ハ罰金ノ明文ナキ箇條ノ犯罪ニ適用スヘキ法條ニシテ刑法ニ明文アル犯罪ニ適用スヘキ法條ニ非ス

(參照) 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ廳斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スコトアルトキハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ廳斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他銀行帳簿ノ虛偽的記載○國立銀行條例ノ適用

右重義外二名ニ對スル國立銀行條例違犯委託金費消及被告重義重壽ニ對スル私書偽造行使事件ニ付明治三十四年六月二十八日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告三名ハ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

重義上告趣意第一點ハ第百十一國立銀行ノ損失ヲ隱蔽センカ爲メ明治三十年六月三十日其銀行ニ於テ當座預金元帳ニ二千六百五十三圓十錢八厘ヲ小西有勳ニ云々(中略)貸越シタル如ク以上孰レモ虚偽ノ事實ヲ記載シ同年十二月二十八日現金有高七十二圓六十二錢ニ過キサルニ銀行ニ於テ惣勘定元帳ニ金十二万九千二百二十九圓七錢三厘現在スルモノ、如ク虚偽ノ記載ヲ爲シ云々(以下略)トノ事實ニ對シテ刑法第二百十條ヲ適用シテ私書偽造行使ノ刑ヲ以テ處罰セラレタルモ右ハ國立銀行條例第八十五條第百十條ヲ以テ處罰スヘキモノナレハ擬律ノ錯誤アルモノナリト云フニ在レトモ○銀行ノ損失ヲ隱蔽セシカ爲メ當座預金元帳及惣勘定元帳ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ハ國立銀行條例第八十五條ニ國法ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシトアルニ該リ刑法第二百十條第一項ノ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シタルモノナレハ原院カ同條項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス」其第二點ハ被告辻重義ニ銀行資本金二十万

判例第一點

圓ノ十分ノ一以上ノ金三万九千四百九十圓三十錢ヲ貸渡シタリトアルモ辻重義ハ金一万七千四百四十一圓(二口ニテ)ヨリ借り受ケ居ラサルニ島中喜多雄辻重一等ノ借用金迄ヲ重義ノ借り分ト認メ銀行資本金ノ十分ノ一以上ノ貸高トシテ罪トナラサル事實ヲ有罪トシテ罰セラレタルハ不當ニ法則ヲ適用シタルモノナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ認メサル事實ヲ掲ケ原判決ノ事實認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス」其第三點ハ堀田法律事務所ノ請取證ヲ偽造シタルモノトシテ刑法第二百十條ヲ以テ私書偽造行使罪トシテ處罰セラレタルモ堀田法律事務所トハ法人ニアラスシテ人格ヲ具備セサルモノナレハ假令其證書ヲ偽造シタルハトテ罪トナルヘキ事理ナク又人格ヲ具ヘタルモノトスルモ其請取證ナルモノハ銀行ノ金庫内ニアリタルヲ跡引請人ニ於テ銀行へ出張ノ大藏屬ニ示シタルモノニシテ被告人カ行使シタルモノニアラサレハナリ因テ罪トナルヘキモノニアラサルニ有罪トセラレタルハ不當ニ法則ヲ適用セラレタルモノナリト云フニ在レトモ○堀田法律事務所ノ法人ナラサルハ勿論ナリト雖モ其名義ハ即チ原判決説明ノ通り辯護士堀田康人ヲ表示シタルモノニシテ同人ノ請取證ヲ偽造行使シタルモノナレハ其私書偽造行使罪ヲ構成スルハ勿論原判決文ニハ被告兩名カ其偽造請取證ヲ銀行備付ノ領收綴込書類中ニ編綴シ置キ其後之ヲ大藏屬花房正亮ニ示シ且ツ銀行跡引受人河原林義雄ニ交付シタル旨判示シアルヲ以テ後段ノ論旨ハ原院ノ判旨ニ副ハス」其第四點ハ岩田常七櫻田武次郎ニ公債及株券ヲ賣却セシトテ委託物費消罪トシテ處罰セラレタルモ右ハ銀行カ行務上一時抵當ニ差

入レタルモノニシテ賣却セシニアラサルコトハ岩田常七ノ返リ證(廣島控訴院公廷ニテ提出)ニヨリテ明ナリ況ンヤ其公債及ヒ株券中ニハ已ニ銀行ノ所得トナリタルモノ數多アルニ夫レナ區別セヌシテ皆有罪トセラレタルカ如何ナル理由ニテ已ニ銀行ノ所得トナリタルモノヲ賣却シテ有罪トナルヤ其理由ヲ附加セサルハ不當ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告重義ハ元第一百十一國立銀行頭取被告重壽ハ同銀行支配人トシテ其業務ニ從事シ他人ヨリ根抵當貸金擔保又ハ保護ノ爲メ公債及ヒ株券ヲ預リ又ハ同銀行支店ニ於テ預リタルヲ取寄セ保管中擅ニ岩田常七魯田武次郎ニ賣却費消シタルモノニシテ其委託物費消罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス畢竟本論旨ハ原院ノ認メサル事實ヲ掲ケ原判決ノ事實認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス」其第五點ハ被告カ所有ノ日本撫系株券一千百株ヲ第一百十一國立銀行伏見支店ニ擔保ニ差入タルヲ本店ニ取寄セ保管中六百株ヲ自己ノ金融ノ爲メ岸本傳吉ニ擔保ニ差入レ之レヲ賣却セシトノ言渡シナルモ廣島控訴院ニ差出シタル計算書ノ如ク株券ノ價格高クナリシ爲メ重役ニ相談ノ上其承諾ヲ得テ擔保物ヲ取出シタルモノノ故固ヨリ罪トナルヘキ事實ニアラサレハ不法ニ法則ヲ適用セラレタルモノナリト云ヒ」其第六點ハ近江興業銀行株券ヲ山口重祿ニ賣却セシハ銀行頭取ノ資格ニテ銀行ノ業務上銀行内ニテ爲シタルコトハ山口重祿ノ書面等ニテ明白ナルニ被告自宅即チ京都市上京區聖護院町ニテ被告一己ノ取引ヲ爲シタル如ク判定シ有罪ノ判決セラレタルハ不法ニ法則ヲ適用セラレタルモノナリト云フニ在レトモ○右ハ何レモ

原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス重壽奉徴上告趣意ハ何レモ原院ハ被告カ元第一百十一國立銀行ノ損失ヲ隱蔽センカ爲メ同銀行備付ノ當座預金元帳日記帳及貸付金記入帳引手形記入帳當座預金貸越元帳惣勘定元帳並ニ實際報告表ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ大藏屬花房正亮ノ檢査ノ檢閱ニ供シタリト認メ而シテ其所爲ハ國立銀行條例第八十五條第一百十條ニ該當スルモノニアラスシテ刑法第二百十條第一項ニ該當スル所爲ナリト判斷シタルハ法律ノ適用ヲ誤リ且ツ理由不備ノ判決ナリト信ス何トナレハ假リニ被告カ以上ノ所爲ヲナシタルモノト認定スルコト原院判決ノ如クスルモ被告ハ元第一百十一國立銀行ノ支配人タリシモノナレハ支配人トシテ其遵守スヘキ國立銀行條例ノ成規ニ違背シ其帳簿類其他實際報告表ニ虚偽ノ記載ヲナシタリト云フニ歸着スレハ同條例第八十五條第一百十條ノ規定ニ因リ其所爲ハ原院ノ認定シタル私書偽造行使罪ヲ構成スルト同時ニ國立銀行條例ニモ違背シタルモノニシテ被告ニ斯ル所爲アリトセンカ宜シク國立銀行條例並ニ刑法ヲ適用スヘキモノナルニ唯ダ單ニ刑法第二百十條第一項ノミヲ適用シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不法ノ判決ナルヘク且ツ被告カ帳簿類實際報告表ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルハ何故ニ刑法第二百十條第一項ノ犯罪ニ該當スルヤニ至リテハ毫モ其理由ヲ付セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○銀行ノ損失ヲ隱蔽センカ爲メ支配人カ銀行備付ノ帳簿實際報告表等ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルハ則チ刑法第二百十條第一項ノ私書偽造罪ニシテ刑法ニ明文アルモノナレハ原院カ該法條ヲ適用シタル上ハ

國、法、ニ、從、ヒ、テ、之、ヲ、罰、ス、ヘ、シ、ト、規、定、シ、タ、ル、國、立、銀、行、條、例、ノ、法、條、ハ、必、ス、シ、モ、之、ヲ、適、用、ス、ル、ニ、及、ハ、ス、又、國、立、銀、行、條、例、第、十、條、ハ、同、條、例、中、罰、金、ヲ、以、テ、處、罰、ス、ヘ、キ、犯、罪、又、ハ、罰、金、ノ、明、文、ナ、キ、箇、條、ノ、犯、罪、ニ、適、用、ス、ヘ、キ、法、條、ニ、シ、テ、本、件、ノ、如、キ、同、條、例、第、八、十、五、條、ニ、國、法、ニ、從、ヒ、テ、罰、ス、ヘ、シ、ト、ア、リ、テ、刑、法、ニ、明、文、ア、ル、犯、罪、ニ、適、用、ス、ヘ、キ、法、條、ニ、ア、ラ、サ、ル、ヲ、以、テ、該、法、條、ヲ、適、用、セ、サ、ル、モ、原、判、決、ハ、法、律、ノ、適、用、ヲ、誤、リ、タ、ル、モ、ニ、ア、ラ、ス、又、被、告、等、カ、銀、行、ノ、損、失、ヲ、隱、蔽、セ、ン、爲、メ、銀、行、備、付、ノ、帳、簿、實、際、報、告、表、等、ニ、虚、偽、ノ、記、載、ヲ、爲、シ、置、キ、大、藏、屬、ノ、檢、査、ヲ、受、ケ、ル、際、之、ヲ、提、出、シ、テ、其、檢、閲、ニ、供、シ、タ、ル、事、實、ヲ、明、示、シ、刑、法、第、二、百、十、條、第、一、項、ヲ、適、用、シ、タ、ル、以、上、ハ、其、權、利、義、務、ニ、關、ス、ル、證、書、ヲ、偽、造、行、使、シ、タ、ル、モ、ノ、ナ、ル、カ、故、ニ、該、條、ニ、該、當、ス、ト、趣、旨、ナ、ル、コ、ト、ハ、自、ラ、明、カ、ナ、ル、ヲ、以、テ、原、判、決、ハ、其、理、由、ニ、於、テ、缺、ク、ル、所、ナ、シ、

辯護人高木益太郎第一辯明書趣旨第一點ハ本案ハ被告ノミノ控訴事件ナルニ原院ニ於テ第一審判決カ上告人ノ第一及第十一ノ所爲ヲ國立銀行條例違犯ト認メタル點ヲ失當ナリトシ之ヲ變更シテ私書偽造行使ノ所爲ナリト判斷シタルハ則チ刑事訴訟法第二百六十五條ニ違反セリト云フニ在レトモ○同條ノ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ判決主文ノ刑ヲ重キニ變更セストノ法意ナルカ故ニ原院カ第一審ニ於テ國立銀行條例違犯トシテ罰金ノ刑ニ處シタルモノヲ私書偽造行使ノ所爲ナリト判斷シタルハトテ主文ノ刑ヲ第一審判決ノ刑ヨリ重クセサル限リハ同條ニ違反シタルモノナリト云フヲ得ス○第二ハ原判決第九ノ事實ニ關スル證據上ノ理由ニ「大阪控訴院ノ第一回公判始末

書ニ被告重義及重壽ハ第一審判決第二十四項ニ掲ケシ事實ノ如ク公債證書及株券等ヲ他ノ有價證券ト共ニ前記ノ代金ヲ告ケ賣却シタルコトヲ自認セシ旨記載アリトアレトモ該始末書ニ依レハ被告ニ於テ賣却云々ノ自認ヲナシタル事跡ナシ則チ原院ハ虚無ノ記載事項ヲ採ツテ證據ニ採用シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○證據ノ解釋ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院ハ被告重義重壽等カ第一審公判始末書ニ於ケル供述ハ公債證書株券等ヲ賣却セシコトヲ自認シタルモノナリト解釋シ之ヲ斷證ニ供シタルモノニシテ虚無ノ記載ヲ採テ證據ト爲シタルモノニアラス

同辯護人第二辯明書ハ偽造證書ヲ銀行備置ノ簿冊中ニ編綴シ置キタルトキハ當然刑法ノ所謂偽造證書行使ノ所爲アルモノト看做スヘキコトハ御院明治三十三年二〇五號及同三十年八六一號事件等ノ判旨ニ徴シ頗ル明確ナリ而シテ原判決事實理由第五ノ私書偽造行使事件即チ被告重義重壽カ堀田法律事務所ノ領收證ヲ偽造シ明治三十一年二月中右銀行ニ於テ備置ノ領收證綴込書類中ニ編綴シ置キタルトノ點ニ付キテハ同判決證據說明ノ部ニ「被告重義ハ當公廷ニ於テ前顯判示ノ通り自白スル所ナルヲ以テ毫モ疑ナキ明瞭ノ事實ナリ」トアレトモ第一審判決事實認定ノ部第十九ヲ熟閱セラレシコト冀フニハ寸毫モ右ノ領收證ヲ備付書類中ニ編綴シ置キタルトノ事實ヲ認定シアラサルノミナラス原院公判始末書ニ依ルモ裁判長ハ只第一審判決第十九ニ掲ケタル事項ニ付キ被告ト問答シタルノミニシテ偽造證書ヲ備付書類ニ編綴シタルトノ事項ニ對シ寸毫モ訊問供述シタル事跡ナシ(二四〇一枚目ノ裏参照)而シ

テ裁判上ノ自白ハ證據法上偏強ノ效力ヲ有スルモノナレハ其存否ハ記錄上明白ニ錄取セサルヘカラサルハ素ヨリ論ヲ竣タス然ルニ前掲ノ自白タルヤ原公判始末書中全ク存在セサルニモ不拘原院ハ此點ニ付尙ホ被告ノ自白アルモノト看做シテ之ヲ證據ニ採用シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○第一審判決第十九項ハ原判文ノ如ク詳カナラスト雖モ被告重義重壽等カ明治三十一年二月二十七日銀行ノ欠損金ヲ隱蔽スル爲メ辯護士堀田廉人ヲ表示セル堀田法律事務所ノ請取證ヲ偽造シ置キ同年三月三十一日ヨリ四月二日マテノ間ニ銀行ニ於テ花房大藏屬ニ示シ且ツ銀行跡引受人ニ交付シタリトノ趣旨ニシテ該偽造證ヲ銀行ニ備置キタルコトハ自ラ明カナレハ原院公判始末書第五ノ裁判長ト被告重義トノ問答中ニ此點ニ關スル事實ノ訊問供述ヲ包含スルヤ論ヲ竣タサルヲ以テ原院カ證據理由ノ部ニ「被告重義ハ當公廷ニ於テ前顯判示ノ通り自白スル所云々」ト掲ケタルハ存在セサル自白ヲ採テ斷證ニ供シタルモノニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十四年十月八日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○監守盜收賄及詐欺取財ノ件

明治三十四年第一一七〇號
 明治三十四年十月八日宣告

○判決要旨

判文上收賄ノ金員現存ノ事實ヲ認メスシテ單ニ追徵ヲ言渡シアル以上ハ被告カ既ニ該金員ヲ費用セシコト自ラ明カナリトス從テ特ニ費用ノ事實ヲ示スノ要ナシ

第一審 長崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 小田原萬輔

右監守盜收賄詐欺取財被告事件ニ付明治三十四年七月十日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シテ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書第一點ハ林務官タルカ故ニ刑事訴訟法第四十七條ノ規定ニ依リ司法警察官トシテ其職務ヲ執リシコトアルモ本來警察官吏ニアラス若シ上告人ニ收賄罪ノ行爲アリトセンカ刑法第二百八十四條ヲ以テ處斷セサルヘカラス然ルニ原院カ第七第八第十ノ收賄曲庇罪アリト認メ之レニ對シ刑法第二百八十六條ヲ以テ上告申立人ヲ處斷シタルハ違法ナリト云フニアレトモ○林務官ニシテ刑事訴訟法第四十七條ノ規定ニ從ヒ司法警察官ノ職務ニ從事シタルトキハ即チ警察官タルコト勿論ニシテ其職務上ノ

事項ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ被告人ヲ曲庇シタル罪ヲ犯シタルモノハ刑法第二百八十六條ニ依リ處斷セラルヘキモノナレハ原判決ハ違法ニアラス

第二點ハ原院檢事ノ附帶控訴ハ唯第一審裁判所ノ刑期ヲ以テ輕キニ失ストノ一點ナリシ然ルニ原院ハ刑期ノ輕キ點ト且第一ノ所爲ヲ收賄罪ト認メタル點即チ二點ヲ以テ原院檢事ノ附帶控訴ナリシカ如ク誤認シ「原裁判所ニ於テ被告ヲ輕懲役六年ニ處セシハ以上ノ犯情ニ恰當セサル失輕ノ刑期ニシテ且ツ第一ノ事實ヲ收賄罪ト誤認シタル不當ノ判決ニ付當院檢事附帶ノ控訴ハ之ヲ採用ス可キモノトス」ト判決シタルハ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○右二點ノ理由ハ檢事ノ附帶控訴ノ理由ニアラスシテ第一審判決ノ瑕瑾ヲ示シタルモノナリ故ニ原判決ハ附帶控訴ノ理由ヲ誤認シタルモノト謂フヲ得ズ而シテ控訴ハ第一審判決ノ更正ヲ求ムルモノナレハ控訴ノ理由如何ニ拘ハラズ該判決ニ瑕瑾アルコト於テハ之ヲ取消スヘキモノトス故ニ原院カ附帶控訴ノ理由以外ニ於テ原判決ノ不當ヲ認メタルカ爲メ之ヲ取消シ以テ附帶控訴ヲ理由アリトセシハ相當ナリトス

第三點ハ原院文中第九ノ所爲ヲ按スルニ「官有ニ屬スル椎皮四千六百五十四斤餘ヲ費用スルノ目的ヲ以テ遭ニ代金十五圓ヲ以テ之ヲ田口市兵衛ニ賣渡シ」云々トノ記載アリ該椎皮カ官有ニ屬スルヤ否ヤニ付之ヲ證據ノ部ニ徵スルニ毫モ椎皮ノ官有タルコトヲ明示シタル記載アルヲ見ス之レ即チ原判決ハ犯罪事實ヲ認メタル證據ヲ明示セサル違法アリト云フニ在レトモ○椎皮カ官ノ所有物タルコトハ判決

ニ舉示シタル各證據ニ依リ之ヲ認メタルコト判文上明瞭ナレハ本論旨ハ其理由ナシ辯護人擴張書第一ハ原判決ノ認メタル第一ノ事實ハ上告人カ林務官トシテ職務執行中ニ犯罪ヲ發見シ刑罰ヲ輕クスルトノ條件ヲ以テ金圓ヲ收受シタリト云フニ在リ而シテ之レカ刑罰ヲ輕減ナラシムルト否トニ付テハ上告人ノ意思行動ノ如何ニ依リ之レヲ左右シ得可ク恰モ普通ノ警察官カ輕罪以上ノ犯罪ヲ罰スルノ權限ヲ有セサルモ猶犯罪ノ曲庇ヲ爲シ得ヘキモノト同一也而カモ此行爲タル原判決ノ認メタル第三第七第八第十ノ收賄行爲ト全ク同一ナルコト拘ハラズ原判決カ詐僞ノ行爲アルコトヲ認メ獨リ此所爲ノミナ詐欺取財トシテ問擬シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑罰ヲ輕減スルト否ハ裁判官ノ職權ニ在リテ被告ハ林務官ナレハ刑罰ヲ左右スル職權ヲ有セサルモノナリ然ルニ刑罰ヲ輕クスルトノ辭柄ヲ設ケタルハ畢竟欺罔ノ手段ニシテ之レニ依リ金員ヲ騙取シタルモノナレハ原院カ詐欺取財罪ニ問擬セシハ相當ナリ又原判決ノ第三第七第八第十ノ行爲ハ被告ノ職務權内ニ於テ犯罪者ヲ曲庇センカ爲メ收賄シタルモノナレハ原判決ノ第一ノ行爲トハ全ク別異ナルコトハ判文上明瞭ナリトス

第二ハ原判決ノ認メタル第二ノ事實ハ上告人カ虎次郎及一部ノ鄉民ヲ威嚇シタリト云フニ在リ然レトモ恐喝取財ノ被害者ハ必スヤ或ル確定ノ人タルコトヲ要スルカ故ニ何人カ恐喝ニ遭ヒタルヤ否不明ナル場合ニ恐喝取財ナルモノ成立スヘキ謂ハレナシ故ニ原判決カ或ル地域ヲ限リタル區劃内即チ烏加鄉民一同恐喝シタリト云フナレハ格別其鄉内ニ居住スル一部ノ人民而カモ不確定ナル員數ニ於ケル不確

定ノ人ヲ恐喝シタリト認定シタルハ獨リ法律ノ適用ヲ誤リタルノミナラス理由不備ナル缺點アリトス
 況ンヤ原判決ハ其事實認定ノ部ニ於テ(云々燒損木アルヲ認メ虎次郎ニ對シニ云々トアリ)上告人カ恐喝
 ノ意ヲ示シタルハ虎次郎ニ對シテナシタルモノ、如キニ拘ラス證據理由ノ說明ノ部ニ於テハ(證人松
 本末平ニ對スル同調書ニ云々證人ハ山總代タルヲ以テ其立會ヲ命セラレ其時鄉民一同ヲ懲役ニ遣ル然
 ラサレハ千八百圓ノ金ヲ出セト申サル、ヨリ虎次郎等ニ相談ノ上云々)トアリ上告人ノ恐喝ニ遭ヒタ
 ルハ松本末平ナル如ク說明シタルハ認メタル事實ト之レニ對スル理由トカ矛盾セル不法アリト云フニ
 在レトモ○前段ハ原判決ニ虎次郎其他一部ノ鄉民ヲ威嚇シ之ヲ畏怖セシメ以テ金員ヲ騙取シタリト揭
 ケアルニ依レハ恰モ何ノ誰外何名ト畧記セシ場合ト同一ニシテ其確定ノ人タルコト自カラ知り得ルヲ
 以テ特ニ其人名ヲ記セサルモ之ヲ以テ理由不備ト云フヲ得ヌ後段ハ證據ノ趣旨ヲ判斷スルハ原院ノ職
 權ニ在リ而シテ本論旨ハ其趣旨ノ解釋ヲ異ニシテ原院ノ認メタル事實ヲ攻撃スルニ過キサレハ上告ノ
 理由トナラス

第三ハ原判決ノ認メタル第四第七ノ事實モ被告カ官林盜伐ナル犯罪ヲ捜査スル職務執行中ニ金圓ヲ收
 受シタリト云フニ在リテ偶々威嚇的ノ言動アリトスルモ何レモ職務執行上ノ事柄ナルニ外ナラサルカ
 故之ヲ以テ恐喝取財ニ問擬ス可ラサルハ勿論ナリ然ルニ原判決カ是等區別ヲ爲サス直チニ刑法第三百
 九十條ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決第四ニ被告ハ島田十藏カ買受ケタル木材中

ニハ國有林ノ盜伐木アリト主張シ故テ取調ヲ爲シタル末云々金五拾圓ヲ出サハ見逃遣ハサント申向
 ケ云々畏怖ノ餘リ差出シタル金員ヲ騙取セリトアリ右ハ恐喝ノ手段ヲ以テ騙取シタルモノニシテ職務
 執行上ノ行爲ト云フヘキモノニアラス故ニ原院カ恐喝取財罪ニ問擬セシハ相當ナリ又原判決第七ノ事
 實ハ恐喝取財罪ニ處斷シタルモノニアラサレハ此點ニ對スル論旨ハ謂レナシ

第四ハ原判決ハ其主文ニ於テ收受賄賂費用金百十二圓ハ之ヲ追徵ストアレトモ被告カ收受シタル金圓
 ハ被告カ之レヲ費消シタリヤ又ハ未ダ之ヲ所持シ居ルヤ其點ニ付何レノ事實ヲモ決定セザリシハ結局
 事實理由ノ不備アリトスト云フニ在レトモ○原院ハ被告カ收賄シタル金員ノ現存セシ事實ヲ認メスシ
 テ單ニ追徵スト言渡シタルニ依レハ該金員ハ已ニ被告ニ於テ之ヲ費用セシコト自カラ明カナレハ特ニ
 費用セシ事實ヲ示サハルモ敢テ不法ト云フヲ得ヌ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十月八日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○私書變造行使及附帶私訴ノ件

明治三十四年七月七號
明治三十四年十月十日宣告

○判決要旨

爰ニ訊問シタル證人ヲ再ヒ同一事件ニ付キ訊問スルニ當リ更ニ再ヒ其被告人トノ身分上ノ關係ヲ調査スルノ要ナシ

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人 田邊實明

公訴上告人 藤田實 外二名

辯護人

小島川平 米田重吉 高木益太郎 澤田三郎 三好退藏 藤田孝治

私訴上告人 關口亥作 外二名

私訴被上告人 齋藤實

右私書變造行使被告事件ニ付明治三十四年四月二十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル公私訴ノ判決ニ對シ被告等私訴判決ニ對シ田邊格次關口亥作岡部惣五郎ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告田邊實明上告趣旨ハ原院ハ齋藤實ノ陳述ヲ採用シ被告ノ私書變造行使ノ犯罪アリト認定セラレタ

リ然レトモ齋藤實ハ一ニ自己ノ負擔ヲ免レンカ爲メニ故ヲニ虛偽ノ事實ヲ供述シタルモノニシテ之レニ信ヲ措クヘカラストハ被告ノ極力辯解スル所ナルニモ拘ハラヌ原院カ同人ノ供述ノミニ基キ容易ニ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ」被告藤田實上告趣旨第一ハ被告ハ田邊實明カ岡部惣五郎ヨリ金千五百圓ヲ借用スルニ際シ齋藤實ノ委任狀ヲ變造シタルコト決シテ之レナキニ相被告田邊實明ト共謀シテ同人ノ委任狀ヲ變造行使シタリト判決セシハ不法ナリト」其第二ハ被告ハ田邊實明カ關口亥作ヨリ金二千圓ヲ借用スルニ際シ保證人タル齋藤實ノ委任狀餘白ニ強制執行ノコト連帶義務ノコトヲ記入シタルモノ右ハ實明ニ於テ齋藤實モ承諾ノ旨ヲ以テ筆記ヲ頼マレタルモノニシテ決シテ變造セシモノニアラサルナリ然ルニ原院カ田邊實明山岸三四郎ト共謀シテ該委任狀ヲ變造行使シタリト判決セシハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ以上ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定又ハ證據ノ判斷ヲ論争スルニ過キサルモノナレハ孰レモ適法上告ノ理由トナラス

被告山岸三四郎上告趣旨ノ第一ハ被害者齋藤實ノ委任狀ニ強制執行ヲ約諾スル事特ニ連帶義務ヲ負フコトノ二項ヲ記入スルヲ被告カ田邊實明ニ請求セリト認定セラレシ事實ヲ以テ被告ニ共謀ノ所爲アリトセラレタルモ被告ニ於テ斯ル請求ヲ爲シタルコトナキノミナラス假リニ之レアリトスルモ直チニ以テ被告カ齋藤實ノ承諾セサルヲ知リツ、之ヲ請求シタリトノ事實ヲ引起スヘキモノニアラス從テ被告カ委任狀變造行使ニ加功シタルモノト云フヲ得ス而シテ齋藤實カ承諾セシト信シタリトノコトハ被告

ノ舉證スヘキモノニアラスシテ原告官タル檢事ニ於テ被告カ齋藤實ノ承諾セサルヲ知リツ、之レカ記入ヲ爲サシメタリトノコトヲ立證シ原院モ亦此點ニ對シ説明ヲ與エサルヘカラス然ルニ原院カ此點ニ對スル事實ノ認定ヲ爲サス被告ニ犯罪アリトセラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ查スルニ證據ニ依リ前記ノ事實ヲ認メタルノ理由ヲ説明シアレハ本論旨ハ謂レナシ』其第二ハ被害者早川龍助カ交附シタル委任狀ニハ明カニ支拂確認ナル文字アリ該文字ノ意義ハ公正證書ニテ強制執行ヲ約諾スヘキモノナリトノ事ハ法理明カナリトス左スレハ此無要ナル文字ヲ記入セシトテ犯罪ヲ構成スヘキ謂レナシ然ルニ原院カ之レヲ犯罪ナリト判決セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○右文字ノ無用ナルカ否ヲ判決スルハ全ク原院ノ職權ニ屬スルモノナレハ之レニ對スル論争ハ上告ノ理由トナラス被告深尾輔三郎上告趣旨ハ原院ニ於テ被告有罪ノ判決ヲ言渡サレタルモ被告ハ決シテ犯罪行為ヲ爲シタルコトナント云フニ在レトモ○本論旨ハ事實ノ認定ヲ論争スルモノナレハ上告ノ理由トナラス私訴ニ付被告田邊實明同格次上告狀ノ理由ハ上告人等ハ本件係争ノ公正證書作成ニ際シ民事原告人齋藤實ノ特別保證タルコトノ承諾ヲ得タルモノナルヲ以テ原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○右ハ後文相被告岡部惣五郎ノ上告趣旨第二ニ於テ説明スヘシ』同上告ノ趣旨ハ原判決ヲ閱スルニ齋藤實保證ニ關スル部分ヲ抹消スヘシト云フニ在レトモ實自身ノ供述ニ依ルモ連帶保證ハ諾約セサルモ通常ノ保證ハ承諾セリトハ第一審以來申立居ルモノナルヲ以テ保證ニ關スル全部ヲ抹消スヘシトノ判決ハ全然

根據ナキ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○通常保證ト連帶保證トハ其效ヲ異ニスルモノナレハ被上告人ノ委任狀中通常保證ノ文字アルヲ奇貨トシ連帶保證等ノコトヲモ委任シタル如ク變造シ之ヲ以テ被上告人ヲ連帶保證人ト爲シタル契約ハ犯罪ニ基因シ被上告人ノ承諾ナキモノナレハ被上告人ニ對シ其效ナキモノトス故ニ原院カ保證ニ關スル全部ヲ抹消スヘシト判示セシハ相當ナリトス
 亥作私訴上告ノ趣旨ハ私訴ハ刑事訴訟法ニ規定アル如ク贓物ノ返還損害ノ賠償ヲ目的トスル請求ノミニ對シ之ヲ許スヘキモノニシテ或ハ行為ノ取消ヲ請求スルカ如キハ私訴トシテ許スヘキモノニアラス然ルチ原院ハ私訴被上告人齋藤實ヨリ被告ニ對スル請求ヲ認メタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○本件公正證書中被上告人ノ保證ニ關スル部分ヲ抹消スルカ如キハ即チ損害賠償ノ一方法ニシテ私訴トシテ請求シ得ラルヘキモノトス故ニ本論旨ハ其理由ナシ
 岡部惣五郎代理人澤田俊三私訴上告ノ趣旨ハ第一原院ハ公訴附帶ノ私訴ニ於テ贓物ノ返還損害賠償以外ナル公正證書抹消ノ如キ或ル行為ヲ附帶私訴トシテ判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○前項ノ説明ニ依リ上告ノ理由ナキコトハ了解スルヲ得ヘシ』第二假リニ原院ハ之ヲ爲シ得ルトスルモ本件公正證書全部ヲ無効ナリトシテ抹消ヲ言渡シタルハ不法ナリ何トナレハ被上告人齋藤實ハ特別保證承認證書ヲ被告ニ交付シタルヲ以テ初メハ良シ不知トスルモ後ニ之ヲ追認シタルコト明カナレハナリト云フニ在レトモ○特別保證中連帶保證ノ意義ヲ包含セサルコトハ私訴判決ノ基キタル公訴判文中

説示シアル所ニシテ畢竟スルニ本論旨ハ原院ノ事實認定ニ對シ徒ラニ論難ヲ試ムルニ過キサルモノナレハ適法上告ノ理由トナラス

同擴張趣旨ノ第三ハ要スルニ第一ノ趣旨ヲ敷衍スルニ過キサルモノナレハ右説明ニ依リ了解スヘシ其第四ハ原院ニ於テ被上告人ハ第三者タル上告人物五郎ヲ對手人トシテ起訴シタルモ第三者ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ他動的ニ參加スルヲ許サレタルモ受動的ニ私訴ノ被告人タルヘキコトハ法律ノ許サル所ナリ然ルニ原院ハ此主要ノ争點ニ對シ判決セザリシハ裁判ニ理由ヲ付セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二條ニ私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ被害者ニ屬ストノミアリテ其對手人ヲ刑事被告人ニ限定セラレタルモノニアラス苟モ訴訟ノ目的トシテ私訴ニ起因スル損害ノ回復ヲ求ムルニアル上ハ刑事被告人外ト雖モ尙ホ對手人ト爲シ得ヘキコト言ハ俟タサルナリ故ニ原院が上告人ヲ本件私訴ノ對手人ト爲シタルハ相當ノ措置ナリトス而シテ私訴ハ當事者間ノ争點ニ對シ必スシモ逐一説明ヲ付スルヲ要セサルモノナレハ其説明ナキヲ以テ不法ト云フヲ得ス其第五ハ要スルニ第二ノ趣旨ヲ反覆敷衍スルニ過キサルモノニシテ特別保證認諾書ノ效力如何ノ點ニ付テハ前掲説明ノ如クナルニ付原判決ハ所論ノ如キ不法アルコトナシ

被告藤田實辯護人澤田俊三公訴上告擴張ノ趣旨ハ原判決中(被告實ハ右貸借ニ付四千圓ノ周旋料ヲ得タルコトハ當公廷ニ於テ自認スル所ニシテ其旨信認スルニ足リ第一ノ場合ト均シク周旋料ノ利益ヲ得

ントスル慾望ハ貸借ノ成立ニ有力ナル關係ヲ有スル齋藤ノ委任狀ヲ變造シ本件犯罪ヲ決行スルニ至リタルモノト認メサルヲ得ス前示各證ニ據リ被告ノ辯解ハ總テ之ヲ信用セストアルハ被告實ノ控訴ニ對スル判決ナルモ第一ノ場合ニ於ケルト均シク云々トノミニテ如何ナル犯罪ヲ爲シタルヤ其罪名犯所若クハ犯罪ノ年月日モ示サレス而カモ前示ノ各證ニ據ルトアルモ前段ニ引用シタル調書ハ齋藤實ノ辯解ヲ採テ被告田邊實明ガ抗辯ヲ排斥シタルニ止マリ被告實明ニ對スル控訴ヲ棄却スヘキ理由ヲ示サレス是則判決ニ理由ヲ付セサル不法裁判ト思考セリト云フニ在レトモ○第一ノ場合云々トアルハ同判文第一ニ掲クル被告ト田邊實明トノ共謀犯罪ノ事實ヲ指示スルモノニシテ罪名犯所等ハ其部分ニ明載アル所ナレハ重ネテ之レヲ掲クルノ要ナシ又前示ノ各證云々トアルハ判文第三ニ列記スル各證ヲ指示スルモノニシテ被告實ニ對スル引用證ノ有無ハ證據ノ判斷ヲ論争スルニ歸シ又控訴ノ理由ナキコトハ原判文ノ末尾ニ總テ相當ニシテ云々ト説示シアルニ依リ知ルヲ得ヘシ故ニ論旨ハ何レモ上告ノ理由トナラス

被告三四郎辯護人米田實齋藤孝治公訴上告ノ擴張趣意ノ第一ハ原判決理由ニ「被告三四郎ノ貸借ノ成立ニ付重キ齋藤ノ保證ニ措キタルヲ以テ右委任狀ニ齋藤ガ連帶義務ヲ負フコト強制執行ヲ諾約スルコトノ條項ヲ挿入スヘシト云ヒ被告實明ハ速ニ金圓ヲ入手スルヲ欲スルヲ以テ本件貸借ノ關係人タル被告實ニ謀リ右被告三名共謀シ云々第三項トシテ強制執行ヲ諾約スル事第四項トシテ特ニ連帶義務ヲ

負フ事ノ文字ヲ挿入シテ之ヲ變造シ」トセラレタルモ上告人山岸三四郎カ右二項ヲ挿入スト云ヒタリトノ事ハ一件記録ニ曾テ記載ナキコトナリ左レハ之ヲ云ヒタリトノコトハ原院裁判官ノ想像ニテ證據ナキ事實ヲ認メラレタル違法アリトス若シ原院判決證據トシテ採用セラレタル第一審公判始末書中被告實ハ三四郎カ實明ニ書テ吳レト云ヒタノカトノ間ニ對シテ左様ト思フ旨ノ記載アリトノ事ニ因リ前項ノ事實ヲ認定セラレタルモノトセハ是レ原院ハ證據トシテ採用スヘカラサル事項ヲ以テ被告ヲ有罪トセラレタル違法アルモノトス何トナレハ該記載ハ藤田實カ意見トシテ斯ク思ヒシト云フニ過キス左レハ此陳述ナルモノハ實一己ノ想像ニテ單獨ニテ證據力ヲ有スルモノニアラス然ルニ原院カ之レヲ斷罪ノ證據トセラレタルハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ藤田實ノ第一審廷ノ供述ハ良シ所論ノ如シトスルモ刑事上ノ證據ハ意見タルト否トニ限定セラレヘキモノニアラサレハ原院カ之ヲ證據ニ供セシメ以テ不法ト云フコトヲ得ス既ニ此點ノ論旨ニシテ上告ノ理由トナルヘキモノニアラサル上ハ第一項ノ論旨ニ對シテ特ニ說明ヲ與フルノ要ナシ」其第二ハ原院判決理由ニ前第二項ニ陳フル如ク右被告三名共謀シ云々トアルニ拘ハラス其後段各證據ヲ舉ケタル後更ニ認メラレタル理由ニ「被告三四郎カ當公廷ノ陳述中云々後日齋藤ニ對シ督促手段ヲ違フシ貸金ヨリ生スル高利ノ利益ヲ得ルニ不便ナル所アルヘキハ被告カ充分確知シ得ヘキ所ニシテ變造ト知りツ、前記ノ犯罪ヲ敢行シタリトノ認定ヲ固フスルニ足ル」ト說明セラレタリ右後段ノ說明ニ被告三四郎ハ變造ト知りツ、トアルニ依レハ變造行為ニ關係

ナキヲ認メタルカ如シ何トナレハ變造ト知りツ、ナル語已ニ變造後ナルヲ意味スレハナリ左レハ行為ニ加功セシモノニアラス然ルニ前段ノ理由ニハ共謀トアリテ變造行為ニ加功セシモノトセラレタルハ理由齟齬ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ變造ト知りツ、トノ語ハ被告三四郎カ變ニ變造ノ行為ニ加功シタリトノコトヲ表示スルニ足ルヘキモノニシテ前段共謀云々トアルニ首尾相照應シテ其全ヲ得タルモノナリ故ニ本論旨ハ謂ハレナシ」其第三ハ第四ノ犯罪ニ對スル理由ニ被告三四郎ハ云々被告輔三郎ト共謀シ輔三郎ノ執筆シテ云々右委任狀中「約束手形支拂確認ニ關スル一切ヲ契約スルコト、アル下ニ強制執行ヲ諾シ公正證書作成ノ件」ノ文字ヲ挿入シ之ヲ變造シトアリ上告人カ被害者タル早川龍介カ承知セサルヲ知リナカラ之ヲ記入セシメタリトノコトヲ認メラレス加之引用セラレタル證據ニモ被告山岸三四郎カ早川龍介ニ於テ承知セサルヲ知リナカラ之ヲ記入セシメタリトノコトモナク若シ被告ニシテ被害者早川龍介カ該記入ヲ承知シ居ルモノト信シタル爲メ之カ記入ヲ爲サシメタルモノトセンカ法律上犯罪ヲ構成セス左レハ原院カ被告三四郎ニ犯罪アリトスルコトハ必スヤ該記入ハ被害者早川ニ於テ承諾シ居ラサルコト及其承諾シ居ラサルコトヲ知リツ、記入セシメタルヤノ點ニ對シ說明ヲ與ヘサルヘカラサルニ原院ハ此點ニ對シ何等ノ說明ヲ付セサルハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ原院文ヲ查スルニ早川龍介カ約束手形ヘ添ヘ差出シタル委任狀ニ強制執行ヲ諾スル旨ノ記入ナキコト及ヒ被告カ自己ノ利益ノ爲メ輔三郎ト共謀シ委任狀中へ強制執行云々ノ文字ヲ挿入シテ之ヲ

變造シタル事實ヲ認メアリテ龍介カ其記入ノ承諾ナキコト及ヒ被告カ其承諾ナキコトヲ知リツ、之ヲ挿入セシメタルコトハ判文上自明ノ事實ナリトス而シテ此事實タルヤ判文列記ノ證據ヲ綜合シテ之ヲ認メタルノ理由ヲ示シアレハ原判決ハ所論ノ如キ不法アルコトナシ」其第四ハ原院判決ハ其最終ノ事實及ヒ證據調終了スルニ當リ被告人ニ對シ利益ノ證據アレハ提出シ得ヘキ旨ノ告知セラレサルハ刑事訴訟法第九十八條ノ規定ニ背シ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書中利益ノ證據ハ提出スルヲ得ヘキノ告知アリタルコト明載シアレハ本論旨ハ謂ハレナシ」其第五ハ原院ハ第一審公判始末書中齋藤實ノ證言ヲ證據ニ採用セラレタルモ該調書ヲ見ルニ其裁判言渡當日ノミニ對シテハ裁判所ノ印ヲ押捺シアルモ其以前第一回第二回トモ何レモ公署ノ印ヲ押捺セサルハ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ背シ違法アルモノトス然ルニ該調書ノ一部ヲ斷罪ノ證據ニ供セラレタルハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ第一審公判始末書ハ第一回乃至第三回ヲ一括トナシ每葉之レニ契印ヲ施シアリ而シテ第三回ノ末尾ニ官署ノ印ヲ押捺シアレハ該始末書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ背キタルモノニアラス從テ原院カ齋藤實ノ供述ヲ罪證ニ供シタルハ毫モ違法ニアラス」其第六ハ上告人カ第一ノ犯罪即チ齋藤實ヨリ係ル事件ニ付起訴ヲ受ケタルハ明治三十二年五月一日ナリ然シテ齋藤實カ豫審第一回ノ取調ハ明治三十二年三月三日同第二回ハ同年四月二十四日ニシテ當時上告人山岸三四郎カ本件ノ起訴ヲ受ケサル爲メ該豫審調書ハ其當時ノ被告人田邊實明田邊格次ノ兩人ニ對シ刑事訴訟法第二百二十三條記載ノ事項

ヲ問ヒ証人トシテ訊問セラレタルモ當被告山岸三四郎ノ被告事件ニ付キ之レヲ問ハレタルコトナシ左レハ該豫審調書ノ當被告三四郎ニ對シテハ何等ノ證據力ヲ有セス然ルニ原院ハ其判決文證據列記ノ部ヘ齋藤實ノ申立中「又豫審調書ニモ同様ノ記載アルニヨリ」ト記シ同人ノ證言ヲ採用セラレタルハ採證法ニ背シ違法ノ判決ナリト云フニアリ○然レトモ被告三四郎カ起訴以前ニアリテ適法ニ作製セラレタル豫審調書ハ相被告タル三四郎ノ犯罪事實ニ對シテモ證料ニ供シ得ヘキコト勿論ナレハ本論旨モ相立タス

被告藤田實公訴上告擴張ノ趣旨第一ニ原判決書中被告藤田實ニ對スル第一犯罪トシテ判定セラレタル證據ノ部ヲ案スルニ其證據列記ノ内第一第三第四第七項共ニ齋藤實ノ豫審調書ニシテ而シテ齋藤實カ豫審ニ於テ田邊實明田邊格次私印私書偽造行使詐欺取財未遂事件ニ付証人トシテ宣誓ヲ爲シ訊問ヲ受ケタルハ明治三十二年三月七日ニシテ其後同年四月二十四日同月二十六日ノ兩度ニ同事件ノ証人トシテ訊問セラレタリ而シテ被告人藤田實カ被告人トシテ起訴セラレタルハ明治三十二年五月一日ナルコトハ本田檢事ノ豫審請求書ニ依リ明カナリ果シテ然ラハ齋藤實カ豫審ニ於テ宣誓ヲ爲シ証人トシテ訊問ヲ受ケタルハ則チ藤田實カ被告人トナラサル以前ニシテ而カモ田邊實明田邊格次ニ對スル被告事件ノ証人ナリシコト多言ヲ要セサルナリ然ルニ原院カ藤田實ニ對スル証人ニアラサル齋藤實ノ證言ヲ採テ以テ藤田實ニ對スル斷罪ノ證據ニ供セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ相被

告三四郎辯護人ノ擴張趣旨第六ト同一ナレハ同説明ニ依リ了解スヘシ」其第二ハ原判決書中被告藤田實ニ對スル第二犯罪トシテ判決セラレタル(判決書ノ第三ニ當ル)證據ノ部ヲ案スルニ其證據列記ノ内第二ニ同人(齋藤實ヲ指ス)カ證人トシテ第一審公廷ニ於テ右ト同一趣旨ノ供述ヲ爲シタルコトハ第一審公判始末書ノ記載ニ依リ又豫審調書ニモ同様ノ記載アルニ依リ齋藤實ノ委任狀中云々其他右齋藤ノ供述ハ總テ之レヲ信實ト認ムトアリテ齋藤實カ豫審ニ於ケル證言ヲ證據トセラレタリ然ルニ前第一項ニ於テ論スル如ク齋藤實ハ藤田實カ被告人トナラサル以前田邊實明田邊格次被告事件ニ付宣誓ヲ爲シ證言シタルニテ藤田實ニ對スル證言ニアラサルナリ然ルニ原院ニ於テ被告人藤田實ノ罪ヲ斷スルニ齋藤實カ豫審廷ニ於ケル證言ヲ證據トセラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○前項ノ説明ニ讓リ再說セス」同擴張趣旨ノ第三ハ第一審裁判所ニ於テ被告人藤田實ノ罪ヲ斷スルニ當リ豫審廷ニ於ケル證人齋藤實大澤常正ノ證言ヲ證據ニ供セラレタリ而シテ齋藤實ハ明治三十二年四月七日大澤常正ハ明治三十二年四月十二日田邊格次被告事件ニ付宣誓シ證言ヲ爲シタルモノニシテ被告人藤田實ニ對シ本田檢事カ豫審ヲ請求セラレタルハ明治三十二年五月一日ナルニ第一審裁判所ニ於テ證人齋藤實大澤常正ノ證言ヲ證據トシテ判決セラレタルハ即チ被告人藤田實ニ對シ未ダ訴ノ起ラサル以前ニ於ケル證人ノ證言ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供セラレタル不法ノ判決ナルヲ以テ原院ハ第一審判決ヲ取消サ、ルヘカヲサルニ拘ラス之ヲ相當トシ被告人藤田實ノ控訴ハ理由ナキモノトシ控訴ヲ棄却セラレタルハ不

法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○是レ亦前項ノ説明ニ依リ上告ノ理由ナキコトハ了解スルヲ得ヘシ同擴張趣旨ノ第四ハ原判文中被告藤田實ニ對スル第一犯罪トシテ判定セラレタル判決ノ末段ニ「此他各被告ハ云々連帶保證ヲ約シタル如ク辯解スルモ特約保證ノ文字ニ連帶保證ノ意義ナキコトハ之ヲ認メ得ルノミナラス云々」トノミ説示シ特約保證ハ如何ナル意義ヲ有スルヤノ點ニ對シ何等ノ理由ヲモ判示セザリシハ理由不備ナリト云ヒ」其第二ハ藤田實ニ對スル第二犯罪トシテ判決セラレタル判決モ亦前項ト同一ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原院カ職權上爲シタル文字ノ解釋ニ付其解釋ノ理由ヲ説示セザリシトテ之レヲ以テ理由不備ノ判決ト云フヲ得ス

被告山岸三四郎深尾輔三郎辯護人高木益太郎辯明書ノ第一ハ原判決第四即チ三四郎輔三郎ニ對スル私書變造事件ノ證據説明ノ部ニ單ニ小林康任ノ豫審調書ト掲ケ恰モ同人カ被告兩名ノ事件ニ付宣誓ノ上ナシタル證言ノ如ク示シタルトモ康任ハ其當時ノ被告タリシ三四郎ニ付證人ノ宣誓ヲ爲シタルニ止マシタルヲ以テ其陳述ハ被告三四郎ニ對シテハ證言ノ效アルヘキモ輔三郎ニ對シテハ參考人ノ供述トシテ視ルノ外ナシ然ルニ原院カ之ヲ被告兩名ノ事件ニ付宣誓ノ上ナシタル證言ノ如ク掲記シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○深尾輔三郎ノ起訴以前ニアリテ適法ニ作製セラレタル小林康任ノ豫審調書ハ共同被告タル輔三郎ノ犯罪事實ニ對シテ證據ノ效力ヲ有スヘキコトハ言ヲ竣タサルナリ而シテ原判文證據列記ノ部ニ單ニ小林康任ノ豫審調書トノミアリテ輔三郎ニ對シ宣誓ノ上爲シタル證言トシテ據

用シアルコトナシ畢竟スルニ本論旨ハ原判旨ニ副ハサルモノトス」其第三ハ早川龍助秋山收藏ノ豫審調書(三十四(二)ノ誤ナラン)年四月十九日附(ニ)屬スル宣誓書ニハ「深尾輔三郎私書變造事件ニ付(中略)誓フ」トアレトモ本案ハ山岸三四郎深尾輔三郎共犯ノ私書變造事件ニシテ深尾輔三郎一人ノ私書變造事件ニアラス故ニ右宣誓書ハ本件ニ對スルモノト認メ難ク結局之ヲ適式ノ宣誓ト云フヘカラサルヲ以テ其豫審調書ヲ證言トシテ證據ニ引用シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○記録ヲ查スルニ早川龍助秋山收藏ハ明治三十二年四月十九日證人トシテ取調ヲ受ケタル以前即チ深尾輔三郎ノ起訴前ニアリテ秋山ハ同年同月十二日早川ハ同年同月十三日附ノ豫審調書ノ存在セルアリ而シテ其各調書ヲ閱スルニ何レモ右兩名ト山岸三四郎トノ身分上ノ關係ヲ調査ニ適式ノ宣誓ヲ爲サシメタル事蹟ノ徵スヘキアレハ重ネテ同證人等ヲ訊問スルニ當リ再ヒ山岸三四郎ト身分上ノ關係ヲ調査スルノ要ナキコト勿論ナリ故ニ明治三十二年四月十九日附右兩名ノ證人調書ハ毫モ違法ノ廉ナク原院カ之レヲ罪證ニ供シタルハ相當ノ措置ナリトス

被告田邊實明辯護人三好退藏辯明書ノ第一ハ被告山岸三四郎辯護人齋藤孝治同米田實上告趣意擴張書第一點乃至第六點被告藤田實辯護人龜崎浪重上告趣意擴張書第一點第二點ヲ援用シ採證ニ關スル違法ノ判決タルヲ以テ共犯者タル田邊實明ニ對シテモ亦違法ノ裁判タルヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○以上擴張書ニ對スル説明ニヨリ上告ノ理由ナキコト了解スヘシ

被告深尾輔三郎辯護人小川平吉擴張書ノ要旨第一ハ原判決ハ其理由第四ニ於テ被告山岸三四郎ハ云々自己ノ利益ノ爲メ深尾輔三郎ト共謀シ云々手代收野清太郎ヲシテ代人トシ被告輔三郎ト共ニ公證人役場ニ出頭セシメ右變造ノ委任狀ヲ公證人ニ提出シ云々公正證書ヲ作製シタルモノトストノ説明ニシテ被告山岸三四郎ノ犯罪行為ヲ明示シタルノ外被告深尾輔三郎ノ犯罪行為ニ付テハ一言ノ理由ヲ説明セサルハ刑事訴訟法第二百三條ニ違反セル不法アルモノト思料スト云フニ在レトモ○判文記載ノ事實ハ被告ト三四郎ノ共謀ノ結果ヲ敘述シタルモノナレハ被告ノ犯罪行為ニ付理由ヲ説明セサルトノ論旨ハ謂レナシ」其第二ハ前段第四項ノ説明ハ輔三郎ノ犯罪事實ヲモ明示シタルモノナリト曰ハンモ前段ヲ通讀スルニ第四項ハ全ク山岸三四郎ノ行為ヲ敘シタルコト一見明瞭ニシテ之レヲ以テ輔三郎ノ行為ヲモ合セ叙シタルモノト解スルカ如キハ牽強附會ノ解タルヲ免レヌ假リニ輔三郎ノ行為ヲモ併セ叙シタルモノナリトスルモ其説明タルヤ全ク三四郎ヲ主トシテ只時ニ輔三郎ノ之ニ關係セサルヲ示セルニ過キス之レ實ニ刑事訴訟法第二百三條ヲ無視シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○前段ハ前項ノ説明ニ依リ上告ノ理由ナキコトヲ知ルヘク後段ノ論旨ニ基キ原判文ヲ查スルニ本件事實ハ元來三四郎カ自己ノ利益ヲ計ルカ爲メ被告ト本件ノ犯罪行為ヲ共謀シタルモノナレハ敘事ノ體裁然ラサルヲ得サルモノアリ而シテ原判文敘事ノ體裁ニ於テ被告ノ犯罪事實ノ理由明晰ナレハ毫モ違法ノ點アルコトナシ」其第三ハ被告ハ被害者早川ニ於テ強制執行云々ノ記入ヲ承諾シタルモノト思ヒ居リタルヤ否ヤノ點ニ

付テハ一言半句ノ説明ヲモ爲サス夫レ犯意ノ有無ハ直チニ罪ノ有無ヲ決スル問題ナルカ故ニ判決ノ理由中ニハ必ス之ヲ説明セサルヘカラサルノミナラス本件ノ如ク原院自身カ認メテ以テ爭點ノ一トナセ
ルニモ拘ハラズ其犯意アリタルコトヲ説明セサルハ違法ノ甚タシキモノナリト云フコト在レトモ○山岸
三四郎辯護人米田實外一名ノ擴張書第三説明ノ前段ニ依リ論旨ノ理由ナキコトヲ了解スヘシ其第四
ハ本件所謂偽造委任狀ヲ以テ作製シタル公正證書ナルモノハ民事上全ク無効ノモノナリ然ルニ之レカ
委任狀ヲ變造シタル所爲ニ擬スルニ權利義務ニ關スル證書變造ノ刑ヲ以テシタルハ失當ナリト云フコ
ト在レトモ○本件委任狀ノ如キハ權利義務ニ關スル文書タルコト勿論ナル上ハ偽造ノ委任狀ヲ以テ作製
シタル公正證書ノ無効ニ歸スルト否トニ依リ犯罪ノ成否ニ毫モ關係チ有スルモノニアラス其第五ハ
所謂變造シタリト稱スル委任狀ヲ以テ作製セシ公正證書ハ内容如何ハ其變造ノ刑ヲ科スルニ當リテ刑
法第二百十條ノ一項ヲ適用スヘキモノナリヤ二項ヲ適用スヘキモノナリヤノ依テ岐ル、重要ナル事實
ナルニ原院カ其如何ナル公正證書ヲ作製セシヤ毫モ之レカ内容ヲ示サ、ルハ違法ナリト云フコト在レト
モ○原判文ヲ一讀過セハ内容ノ明示アルコト了解スルヲ得ヘシ其第六ハ原院カ被告ノ斷罪理由ヲ説
明スルニ中リ「本犯罪ノ成立スルニ至リタル事情ハ恰モ第三ノ事實ニ關シテ與ヘタル説明ト同様ナリ
トス」ト説明セラレタリ而シテ原院ノ所謂第三ノ事實ナルモノヲ見ルニ三四郎ニ關スル事情ハ之ヲ説
明シアレトモ輔三郎ノ分ハ毫モ之レナシ若シ夫レ原判決ノ意ハタトヘ第三ノ項中輔三郎ニ關スル説明

之レナキモ其事實カ同様ナリトノ意ナリトセンカ其事實モ亦同様ナラサルヲ奈何セン斯ク第四ノ事實
ト第三ノ事實ト事情ヲ異ニセルニモ拘ハラズ之レヲ以テ同様ナリト斷定セシハ理由ニ錯誤アル違法ヲ
免レサルモノナリト云フコト在レトモ○原判決第三第四ノ事實ヲ對照スルニ共ニ他人ノ委任狀ヲ變造シ
公正證書ヲ作製シタルモノナレハ此點ニ付彼此事實ヲ同フスルヲ以テ原院カ恰モ第三ノ事實ニ關シ云
云ト説明シタルモノナリ故ニ其疎密ノ事實ノ異ナル所アリト云フヲ以テ理由ニ錯誤アリト論斷スル
ヲ得ス其第七ハ原判決列記ノ證據中秋山收藏ノ豫審調書中右ハ同シク初メ記入ナク又早川ニ於テ承
諾シタルモノニ非サル旨ノ記載アルコトナシ故ニ原判決ハ虛無ノ事實ヲ捉ラヒ來テ證據トナシタル違
法アルモノナリト云フコト在レトモ○原判文ノ掲記スル所ハ兩名ノ豫審調書中右ト同ク初メ記入ナク云
云ノ旨ノ記載アリト舉示シアリテ其趣旨ヲ掲ケタルモノナレハ良シ豫審調書中ノ文詞ト異ナル所アル
ヲ以テ違法ト云フヲ得ス其第八ハ人ノ或ル事ヲ承諾セシヤ否ヤハ其人ノ言ニ依リテ初メテ知ルヘク
他人ノ知り得ル所ニアラス他人ニシテ之ヲ知ルトイハ、傳聞ニアラスハ推測若クハ判斷タルニ過キ
ス原院カ秋山小林二人ノ證言中早川承諾セサリシ旨記載アリトイッテ之ヲ證據トセシハ其實質ニ於テ
傳聞若クハ推測ニ過キサル陳述ヲ採テ證據トナシタル違法アルモノナリト云フコト在レトモ○證人ノ傳
聞又ハ意見ニ付テノ證言モ刑事上證言タルノ效チ有スルコト被告三四郎辯護人擴張書第一説明ノ前段
ニ依リ了解スヘシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス
私訴ニ關スル訴訟費用ハ上告人等ノ負擔トス

明治三十四年十月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

〇故殺及謀殺ノ件

明治三十四年第一〇五四號
明治三十四年十月十日宣告

〇判決要旨

(判旨第五點) 重罪事件ノ下調ハ必スシモ其事件ノ判決ニ干與シタル判事ニ於テ之ヲ爲スヲ要セス其下調ヲ爲シタル當時ニ於ケル裁判長若クハ受命判事ニ於テ爲スヲ以テ足ル

(判旨第六點) 上訴ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知スルノ法則(刑事訴訟法第二百七條)ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ限り適用スヘキモノニシテ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル場合ニ在リテハ其告知アルヲ要セス

知アルヲ要セス

(參照) 對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其判決ニ對シ上訴ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知シ又對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ其判決ニ對シ故障ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ若シ其告知又ハ記載ナキトキハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止ス(刑事訴訟法第二百七條)

(判旨第七點) 人ヲ謀殺スルニ際シ毆打絶息ニ致シタル行爲ハ謀殺行爲ニ繼續スルヲ以テ毆打ノ所爲ニ對シ別ニ一罪ヲ構成セス

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 波多野直養 辯護人 高木益太郎
外二名 山田喜之助
八束可海

右直養太一郎ニ對スル故殺被告事件良齋ニ對スル謀殺被告事件ニ付明治三十四年六月二十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告三名上告趣意書ハ原裁判ハ違法ノ鑑定書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アリト云フニアレトモ其違法ナル點ヲ指示セサレハ説明ヲ付スルニ由ナシ

重罪事件ノ下調ヲ爲スヘキ判事〇上訴及ヒ其期間ノ告知〇謀殺ニ繼續スル毆打創傷

被告三名辯護人高木益太郎ノ辯明書ハ(一)原院カ明治三十四年二月六日及六月十七日ノ公判開廷ニ當リ辯護人鳩山和夫根本忠清ニ對シ適式ノ呼出狀ヲ送達セズ又同辯護人ノ出廷ナキニ公判ヲ結了シタルハ刑事訴訟法第二百五十七條ニ違反セリト云フニ在リ〇因テ訴訟記録ヲ調査スルニ鳩山和夫ハ被告直義太一郎ノ辯護人ニシテ根本忠清ハ被告太一郎ノ辯護人ナルニ明治三十四年二月六日及ヒ六月十七日ノ公判開廷ニ當リ鳩山和夫ニ對シテハ呼出狀ヲ發セズ根本忠清ニ對シテハ呼出狀ヲ發シタルモ其二月六日ノ送達證書ハ送達吏自ラ署名セサル無効ノ書類ニシテ呼出ノ効ナキニ拘ハラス右辯護人欠席ノマヽ公判ヲ開廷シタルハ刑事訴訟法第二百五十七條ニ違背スル不法ノ措置ニシテ被告直義太一郎ノ上告ハ其理由アリ然レトモ右鳩山根本ノ兩辯護士ハ被告良齋ノ辯護人ニアラサルヲ以テ良齋ノ上告論旨トシテハ其理由ナシ

(二)ハ原院ハ三三年(ト)第十九號事件ノ記録中豫審判事ノ作りタル檢證調書ニ「六疊ノ間ノ障子ノ骨柱等處々ニ點々血潮ノ如キモノ、附着セル痕跡ヲ認メタル旨ノ記載アリ」ト掲ケタレトモ同記録中第四十三枚目ニアル前記ノ調書ニハ「六疊ノ間ノ障子——ノ如キハ既ニ修繕ヲ加ヘ數年ヲ經過シタルヲ以テ犯罪當時ノ實況ヲ檢スルコト能ハス」トアリテ原判決ニ掲ケタルカ如キ記載ナシ即チ原裁判ハ架空ノ記載ヲ採テ證據ニ援用シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ〇原院ハ檢證調書ノ趣旨ヲ解釋シテ其要ヲ摘示シタルモノナレハ檢證調書中論旨所載ノ如キ記載アリトスルモ架空ノ記載ヲ採テ證據

ニ引用セタリト云フヲ得ス

(三)明治三十三年七月三日新潟地方裁判所檢事今井時太郎ヨリ被告高橋良齋ニ係ル控訴申立書中ニアル今井檢事ノ署名ハ同檢事ノ自署シタルモノニアラサルコトハ其自署ニ係リシ豫審請求書ノ筆蹟ニ對照シテ明白ナリ果シテ然ラハ右申立書ハ結局無効ニ歸スヘキモノナレハ從ツテ檢事ノ控訴ハ之ヲ棄却スヘキ筈ナルニ原院ノ措置爰ニ出テサリシハ法則違反ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇控訴申立書ヲ查スルニ檢事今井時太郎ノ名下ニハ其官印ヲ捺捺シアルヲ以テ他ニ反對ノ事實ナキ限りハ單ニ豫審請求書ニ於ケル同檢事ノ氏名ト其筆蹟ヲ異ニスルノミヲ以テ控訴申立書ノ氏名ヲ自署ニアラスト云フヲ得ス

(四)三十三年(ト)第十九號件小林順道ノ豫審調書ヲ見ルニ「高橋良齋謀殺被告事件ニ付小林順道ニ對シ訊問ヲナスコト左ノ如シ」トノミアリテ豫審判事ハ同人ト高橋良齋トノ間ニ於ケル身分上ノ關係ヲ調査シ其關係ニ付證人ノ宣誓ヲナサシメタルニ止マレリ然ルニ該件ノ豫審請求書起訴ノ事實トアル部ニ「被告カ明治三十三年十一月十二日夜波多野直義宅ニ於テ直義及ヒ波多野太一郎ト共謀シ皆川徳次郎ヲ殺害セルコト」トアリ又其他ノ記録ニ徵スルモ高橋良齋ハ波多野直義同太一郎ノ共犯人トシテ訴追セラレタルコト明白ナルヲ以テ豫審掛カ順道ト良齋トノ身分關係ヲ聞キタルモノニシテ順道ト直義太一郎トノ身分關係ヲ聞カサリシハ違法ノ措置タルヲ免レス故ニ其調書ハ本件被告三名ニ對シ適式ノ

證人調書ニアラス故ニ之ヲ本件ノ罪證トナシタル原裁判ハ不法ナリト云フニ在レトモ○小林順道ハ明治三十年(ト)第六十二號波多野直養同太郎外三名ノ故殺事件ニ付直養及太郎トノ身分關係ヲ聞キ證人トシテ訊問シアリテ同事件ハ明治三十三年(ト)第十九號高橋良齋ノ謀殺事件ト同一ナルコトハ論旨ニモ亦之ヲ認メタリ故ニ右十九號事件ニ在テハ良齋トノ身分關係ヲ聞クヲ以テ足リ重ネテ直養太郎トノ身分關係ヲ聞クノ要ナキヲ以テ本論旨モ亦理由ナシ

(五)本件ハ一旦平山判事ニ於テ被告直養太郎ノ兩名ニ對シ公判下調ヲ遂ケタレトモ其後同判事ハ職ヲ轉シテ本件ノ係檢事トナリ乃チ原判決ニ參與シタル判事ハ更ニ下調ヲ遂ケタルコトナシ是レ即チ刑事訴訟法第二百三十七條ニ違反セリト云フニ在レトモ○重罪事件ノ下調ハ必スシモ其事件ノ判決ニ干與シタル判事ニ於テ之ヲ爲シタルコトヲ要セス其下調ヲ爲スノ當時同事件ノ裁判長又ハ受命判事タルヲ以テ足ルモノナレハ本論旨モ亦理由ナシ

第五點

(六)原院ハ被告ノナシタル公訴不受理ノ申立ヲ却下ストノ判決ヲ下スニ當リ被告ニ向ツテ右判決ニ付上訴ヲ爲シ得ヘキコト及其期間ノ告知ヲナサ、リシハ公判手續ニ違反セリト云フニ在レトモ○上訴ヲ爲スチ得ヘキコト及其期間ヲ告知スルハ被告ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ限ルコトハ刑事訴訟法第二百七條ニ規定スル所ナルヲ以テ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル場合ニ在テハ右告知ヲ要セザルコト勿論ナリ故ニ本論旨モ亦理由ナシ

第六點

(七)原判決ハ其事實理由中「被告等ハ德次郎カ其抑止ヲ肯ンセサルヲ憤ルノ餘怒ニ乘シ同人ヲ押伏セ其身體ノ樞要ナル部分ニ對シ強ク侵襲ヲ加ヘタルカ爲メ同人ヲシテ絶息スルニ至ラシメタリ」ト掲ケ直養太郎ニ毆打創傷ノ所爲アルコトヲ認メナカラ同法律理由中毆打ノ點ニ付何等ノ説明ヲモ欠キタルハ理由チ欠ク不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○毆打絶息ニ致シタル行爲ハ爾後ノ謀殺行爲ニ繼續スルヲ以テ別ニ一罪ヲ爲スヘキモノニアラス故ニ原院カ毆打絶息ニ致シタル事實ニ對シ毆打創傷ノ律ヲ適用セザルハ相當ニシテ本論旨モ亦理由ナシ

第七點

被告三名辯護人山田喜之助ノ上告趣意擴張書ノ第一點ハ被告等ノ所爲ハ謀故殺ノ罪ヲ構成セザルモノトス何トナレハ原判決認定ノ事實ニヨレハ被告等ハ死屍ト信シテ罪證湮滅ノ爲メニ被害者德次郎ノ身體ニ創傷ヲ加ヘタルモノナレハナリ被告直養太郎等カ德次郎ノ絶息シタルニ驚キ醫師良齋ヲ迎ヘ蘇生ヲ計リタルコトハ原判決ノ認ムル所ナリ又「要スルニ被告直養太郎ハ德次郎ヲ絶息セシメタル後被告良齋ノ診斷ノ結果ニ依リ救濟ノ道ナキヲ知リ」ト原判文ニ記載シタルヲ見レハ被告等ハ德次郎ノ死屍ニ創傷ヲ加ヘタルモノニ過キスシテ結局殺人ノ意思即チ犯意ナキモノナレハ原判決ヲ破棄シ直チニ無罪ノ判決ヲ望ムト云フニ在レトモ○原判決ヲ查スルニ皆川德次郎ヲ毆打シテ絶息ニ至ラシメタルモ未ダ假死ノ状態ニアル際被告等相謀テ全ク死ニ致シタル事實ヲ認メアルヲ以テ本論旨ハ原判旨ニ副ハス」其第二點ハ原判決、他ノ部分ニハ「被告等ハ德次郎ノ未ダ全ク死ニ至ラサルモノナルコトヲ詳

知シツ、其生命ヲ絶タントノ意思ニ出テ右ノ創傷ヲ爲シタリ」トアリ是レ全ク前項所載ノ事實認定ト矛盾セルモノナリ且原判決他ノ部分ニハ醫師ヲ招キ蘇生ヲ計リタルコトヲ記載シ又蘇生ノ見込ナキヲ醫師ヨリ申渡サレタル事實ヲモ認メナカラスノ認定シタルハ理由不備ノ裁判タルヲ免レス況ンヤ原判決ニハ被告等ノ所爲ヲ罪證湮滅ノ目的ニ出テタルモノト認メタル以上ハ蘇生ノ見込アルモノヲ蘇生セシメント計ラスシテ之ヲ殺死シタリトハ事實矛盾ノ甚ダシキモノトセサルヘカラスト云フニ在レトモ

○原判決認定ノ事實ハ被害者徳次郎ハ絶息シテ未ク假死ノ状態ニ在ルモ到底蘇生ノ見込ナキコトヲ知リ寧ロ全ク死ニ致シテ斃死ノ體ニ仕做シ後難ヲ避クルニ如カスト謀議シ直チニ之ヲ決行シタリト云フニ在リテ毫モ理由不備若クハ事實ノ矛盾アルコトナシ」其第三點ハ假リニ數歩ヲ讓ルモ被告等ノ所爲ハ故殺トスヘクシテ謀殺ニハアラス何トナレハ被告等ニハ毫モ豫謀ノ事實ナキノミナラス却テ殺意(假ニ之レアラハ)ノ極メテ急遽匆卒ノ際ニ決セラレタルモノトセサルヘカラス何トナレハ醉闘ノ餘意外ニ人ヲ絶息セシメ愚昧ニモ其罪跡ヲ湮滅セント圖リ其間幾時ヲモ經過セサレハナリト云フニ在レトモ

○原判決ニハ殺害ノ意ヲ決シ之レカ實行方法ヲ謀議シタル事實ヲ認メアルヲ以テ其時間ノ長短ニ拘ハラズ謀殺罪ヲ以テ論スヘキコト勿論ナルヲ以テ本論旨モ亦理由ナシ

被告高橋良齋辯護人八束可海ノ擴張書第一點ハ原判文ヲ見ルニ謀殺ノ意思ヲ説明シテ曰ク直養等ハ(中略)只管其犯跡ヲ湮滅センコトヲ懇請シ(中略)謀議ノ末云々ナリトセル之果シテ豫謀ヲ説明シ盡シ

タルモノ乎文章ノ解釋上謀議ノ末ナル文字ハ犯跡湮滅ノ方法ヲ講シタルモノトスヘキ乎將タ徳次郎ヲ殺スノ方法ヲ講シタルモノトスヘキ乎頗ル不明ナリト云ハサルヘカラス否平易ニ之ヲ讀ミ下セハ湮滅ノ方法ヲ謀議シタルモノト解セサルヘカラス既ニ謀議ハ犯跡湮滅ニ關スルモノトセハ判文上事實ノ説明中何レノ點ニ於テモ豫謀ノ事實ノ見ルヘキナシ而シテ之ヲ刑法第二九二條ニ問擬シタルハ裁判ニ理由ヲ付セス且擬律ノ錯誤アルモノト曰ハサルヘカラスト云ヒ」其第二點ハ本件被告等ハ假リニ徳次郎ヲ死ニ致シタルモノトスルモ其意思タルヤ一件記録及原判文ニ於テ犯跡湮滅ノ爲ナリシコトハ毫モ疑ナキ所ナリ而シテ犯跡湮滅ノ爲メニ人ヲ死ニ致シタル場合ニ於テハ犯跡湮滅ナル意思ノ外尙豫謀ナル事實アルニアラサレハ刑法第二九二條ヲ以テ之ヲ斷スヘキニアラスシテ刑法第二九六條ニ問擬セサル可ラス然ルニ原判文ニ於テハ犯跡湮滅ノ方法ヲ謀議シタル末徳次郎ヲ死ニ致シタルコトヲ認メ得ヘキモ其他ニ於テ豫謀ナル事實ノ認メ得ヘキモノナシ故ニ直養太一郎ニ對シテハ須ラク刑法第二九六條ヲ適用セサル可ラス已ニ直養等ニ對シテ然リトセハ獨リ良齋ニ對シテ而已刑法第二九二條ヲ適用スヘキニアラサルナリ之レ擬律ノ錯誤アルモノト云ハサル可ラスト云フニ在レトモ

○原判決ヲ查スルニ毆打絶息ニ致ラシメタル犯跡ヲ湮滅センコトハ寧ロ斃死ノ状態ニ在ル徳次郎ヲ全ク死ニ致シ自ラ田圃中ニ斃死シタル體ニ裝ヒ置クニ如カスト謀議シタル事實即チ殺害豫謀ノ事實ヲ認メアルヲ以テ之ヲ謀殺罪ニ問擬シタルハ相當ニシテ理由ノ不備若クハ擬律ノ錯誤アルコトナシ故ニ第一第二論旨共ニ其理由ナシ」

其第三點ハ一件記録ヲ見ルニ被告良齋ハ徳次郎ハ罌丸緊握竝ニ腦充血併發ノ爲メ死ニ陥リタルモノニシテ回復ノ見込ナキ旨ヲ申立テ居リ敢テ假死中ニ在リタルヲ認メタルノ事實ナシ然ルニ原文ハ到底回復ノ望ミナク早晚死ニ陥ルヘキモノナル旨ヲ告ケ云々トシテ假死ノ情態ニ在リタル事ヲ良齋ニ於テ認メタル如キ認定ヲ與ヘラレ之レカ證據トシテ良齋ハ多年醫ヲ業トシ(中略)其經驗上被害者カ當時如何ナル情態ニ在リタルカヲ鑑定シ得サルノ理ナク云々及ヒ殊ニ(中略)動脈ヲ斷ントノ意思ヲ以テ云々ト説明セシレタレトモ假令醫ヲ業トスルモノト云ヘトモ絶對ニ其死ノ真假ヲ甄別シ得ヘシト云フノ理ナク而シテ眞假ト云フモ兎ニ角死ノ狀況ニ在リタルハ同一ニシテ本件ノ如キ急劇狼狽ノ際ニ在リテハ一層之カ甄別ヲ誤リ易ク殊ニ良齋カ現今ノ進歩セル教育ヲ受ケタルモノニアラサルニ於テハ素ヨリ單ニ一片ノ推測ニヨリテ其犯意ヲ斷スルハ探證ヲ誤リタルモノト曰ハサルヘカラス且動脈ヲ斷ントノ意思云々自白ヲ以テ直ニ犯罪ノ意思ヲ説明セラレタレトモ死後ニ於テノ行爲ナリシトセハ假令動脈ヲ斷テタリトスルモノニタヒ死ヲ來スノ理ナシ而シテ動脈ヲ斷ツノ意思云々ハ果シテ死ノ前ナリシヤ否ヤ素ヨリ之ヲ見ル事能ハス故ニ之レ又此事實ヲ以テ殺意ヲ説明シタルハ理由ヲ付セサルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○是レ全ク原承審官ノ職權ニ立入り事實ノ認定證據ノ判斷ヲ批難スルニ過キスニテ上告適法ノ理由トナラス」其第四點ハ原判決ニ於テ認定シタル事實ニヨレハ良齋ハ到底回復ノ望ミナク早晚ニ死ニ陥ルヘキモノナルコトヲ認メ居レリ而シテ其早晚ナル字義ヲ普通ニ解釋セハ之ハ

百年ノ前後ヲ意味スルモノニアラスシテ俗ニ多少ト云ヘハ少量ヲ意味スルニ等シク早晚トハ暫時ノ間ナル事ヲ意味ス然ハ早晚死ニ陥ルトハ暫時ノ間ニ死スルモノナリト解セサルヘカラス翻テ原判文ニ認メラレタル事實ニヨレハ良齋ノ診斷後致死ノ原因タル血管ヲ傷ケ脱血ヲ促スニ足ル迄ノ間ニ於テ多少ノ時間ヲ要シタル事實ヲ見得ヘシ既ニ然ラハ早晚ノ時季ヲ經過シタル血管傷害ノ時季ニ於テ尙徳次郎ハ生存シ居タル事實ヲ説明セサルヘカラス蓋血管傷害着手當時ニ死亡シタルモノトセハ之レ良齋ノ殺シタルニアラスシテ自然ノ死ナリト曰ハサルヘカラス此點ニ對シ原審ハ毫モ説明ヲ付セス裁判ニ理由ヲ付セサル不法アルモノト曰ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○原判決ニハ殺害ノ當時未ダ假死ノ情態ニ在リタル事實ヲ認メ且ツ其之ヲ認メタル理由ヲモ詳細ニ説明シアルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ被告良齋ノ上告ハ之ヲ棄却シ同法第二百八十六條ニ從ヒ被告直發太一郎ニ關スル原判決ヲ取消シ此事件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治三十四年十月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○監守盜及附帶私訴ノ件

明治三十四年九月十一日宣告
明治三十四年十月十一日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 監守盜罪ヲ行ヒ終リタル後其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ官文書ヲ毀棄シタル所爲ハ監守盜ヲ爲スニ因リ官文書ヲ毀棄シタルモノニ非ス

(判旨第三點) 登録稅ノ收入ヲ終リタル登記印紙ト雖モ再ヒ之ヲ貼用シテ消印ヲ爲サ、ル以前ニ在リテハ依然額面ノ價值ヲ有ス從テ之ヲ竊取セラレタルトキハ同價額ノ損害ヲ受ケタルモノトス

(判旨第四點) 裁判所カ保管スル物件ヲ竊取セラレタルトキハ裁判所ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ當然トス而シテ此場合ニ於テ檢事ハ民事原告人トナルヘキモノトス

(參照) 司法官廳ヨリ起スヘキ民事ノ訴訟ニ於テハ明治二十五年勅令第六號第二條ニ依リ訴訟ヲ受クヘキ裁判所ノ檢事局ヲシテ國ヲ代表セシム(明治二十五年司) 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得(明治二十五年勅令第六號第二條)

第一審 金澤地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

公訴私訴上告人 奥山滋太郎

私訴被上告人 龜山直秀

右監守盜被告事件及ヒ之ニ附帶スル私訴ニ付明治三十四年六月二十六日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

公訴上告趣意ヲ要スルニ其第一ハ豫審終結決定ニ對スル抗告決定書ヲ見ルニ「原決定中被告兩名ニ對スル部分ヲ取消シ奥山滋太郎山崎銻五郎ニ對スル監守盜及ヒ山崎銻太郎ニ對スル官文書毀棄各被告事件ヲ金澤地方裁判所ノ重罪公判ニ付ストアリテ被告ハ監守盜ノミヲ以テ公判ニ移サレタルモノナルニ原院ニ於テ官文書毀棄罪ニ就テモ公判ニ移サレタルモノトシテ判決ヲ與ヘラレタルハ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲シタルモノニシテ違法ナリト云フニ在レトモ○抗告決定書ヲ觀ルニ其理由ノ部ニ被告カ印紙ヲ竊取シタルコト及ヒ官ノ文書ヲ毀棄シタル事實ヲ認メ之ニ相當スル法條ヲ示シ事件ヲ金澤地方裁判所重罪公判ニ付ストアリテ其主文ニ監守盜トノミ記載シタルハ單ニ件名ヲ掲ケタル迄ニシテ本件監守盜及ヒ官文書毀棄ノ二所爲ハ併セテ公判ニ移付セラレタルコト明瞭ナルヲ以テ原院ハ訴ヲ受ケサル事件ニ對シ裁判ヲ爲シタルモノニアラス

犯跡掩蔽ノ官文書毀棄ノ消印ナキ印紙ノ竊取○裁判所カ損害ヲ被ムリタル場合ノ民事原告人

判旨第三點

其第二ハ假リニ原判決ヲ相當ナリトスルモ其認定シタル事實ニ依レハ官文書毀棄ノ所爲ハ監守盜ノ犯蹟ヲ蔽ハンカ爲メ同時同所ニ於テ行ヒタルモノナルニ刑法第二百八十九條第二項ヲ適用セザルハ法律ノ適用ヲ誤マリタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ本件ハ被告カ職務上管守スル所ノ未消印ノ登記印紙ヲ竊取シタル後ニ於テ其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ官文書ヲ毀棄シタル事實ナレハ監守盜ヲ爲スニ因リ官文書ヲ毀棄シタルモノニアラサルヲ以テ原院カ刑法第二百八十九條二項ヲ適用セザルハ相當ナリトス

判旨第四點

私訴上告趣意ヲ要スルニ其第一ハ本件登記印紙ハ未ダ消印ヲ施サスト雖モ已ニ裁判所ニ於テ之ヲ受付ケ登録稅ノ收入ヲ了シタルモノナルヲ以テ反古同様ノ無價物ト云ハサルヲ得ス故ニ再ヒ之ヲ使用スルニ非サルヨリハ國庫ハ何等ノ損害ヲ被ムルヘキモノニアラス而シテ原院ハ法録重太郎竹内御次郎ノ豫審調書中被告ヨリ印紙ヲ買取り又ハ預リテ他ヘ賣捌キタル旨ノ記載ヲ探テ以テ印紙再使用ノ事實ヲ認メタルモ印紙ノ賣買寄託ノ如キハ之ヲ印紙ノ使用ト云フ可キモノニアラス要スルニ原判決ハ事實ノ認定ニ適合セザル證據ヲ以テ其理由ト爲シタル不法アリト云フニ在リ○依テ按スルニ假令一旦登録稅ノ收入ヲ了シタルモ抑モ登記印紙ハ貼用ノ上消印ヲ爲スニ依リテ其效力ヲ生シ從テ再用スルヲ得サルモノトナルモノナレハ本件ノ如キ未ダ消印セサル以前ニ在テハ依然額面額ノ價值ヲ有スルモノトス故ニ其印紙ヲ竊取セラレタルニ於テハ其主管者タル裁判所ハ同價額ノ損害ヲ受ケタルモノト謂ハサルヲ得

判旨第五點

ハ即チ再使用ト否トハ損害ノ有無ニ關セサルヲ以テ其再使用ト認メタル事實ノ當否ニ付テハ説明ヲ與フル要ナキモノトス○其第二ハ假リニ印紙再使用ノ事實アリトスルモ其損害ハ國庫ノ被ムルヘキモノニシテ裁判所ノ蒙ルヘキモノニアラス故ニ國庫ヲ代表シテ私訴ヲ提起スルノ權ハ國庫所屬ノ大藏省之ヲ有シ檢事ニ屬スルモノニアラス然ルニ原院カ檢事ニ民事原告人タルノ資格アリト認メテ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○前項ニ説明スル如ク裁判所ノ保管ニ係ル物件ヲ竊取セラレタルハナレハ裁判所カ損害ノ賠償ヲ請求スルハ當然ナリ而シテ檢事ハ明治二十五年勅令第六號及ヒ同年司法省令第五號ニ依リ國ヲ代表シテ訴訟ヲ提起スヘキ職務ヲ有スルモノナレハ本件ニ付檢事カ民事原告人ト爲リタルハ相當ナリトス

辯護人辯明書第一ハ原裁判ハ被告ニ於テ官文書毀棄ノ所爲アルモノ、如ク處斷セラレタレトモ其說示スル所ニ依レハ登記印紙ヲ張替タル所爲ヲ以テ文書ヲ毀棄シタルモノト認メタルカ如キ「第一(前略)登記出願名刺ニ貼附シタル消印未済ノ登記印紙金額九十九圓相當ノモノヲ剝離シテ之ヲ盜出シ之ト同時ニ同應備置キノ自己管掌ニ係ル他ノ登記名刺五十九通ニ貼附シタル消印已済ノ登記印紙ヲ剝奪シ前記印紙ノ盜取シタル登記出願名刺ニ貼附シ以テ右官文書ノ一部ヲ毀棄シタルモノト判示セラレタリ然リト雖モ登記出願名刺ハ登記印紙ヲ貼附セルト否トニ依リ官ノ文書タルト否トノ決セラルヘキモノニアラス換言スレハ登記印紙ト其納書タル名刺トハ分離スヘガラサル關係ヲ有スルモノニアラス故ニ其

印紙ヲ剝キ取ルモ名刺タル文書ヲ毀棄スルニアラサレハ官ノ文書ヲ毀棄シタルモノト云フヲ得ス然ルニ原裁判ハ登記印紙ヲ剝キ取リタル所爲ヲ以テ文書一部ノ毀棄ト認メタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ若シ原判決ノ趣旨茲ニ在ラスシテ名刺其者ヲ毀棄シタルニアリトセン乎理由不備ノ裁判ナリ何トナレハ所謂毀棄トハ證書タル性質ヲ滅却スヘキ行爲ヲ指示ス故ニ記載セラレタル部分外ノ紙ヲ破ルモ未ダ以テ文書ノ毀棄ト認ムヘカラサルナリ從テ如何ナル部分ヲ毀棄シタルヤヲ明示スルニアラサレハ一部ノ毀棄タルト否トヲ定ムルニ由ナシ然ルニ原裁判ハ「右官文書ノ一部ヲ毀棄シタルモノトス」トノミ判示シ文書ノ如何ナル部分ナルヤノ事實ヲ判示セサルハ全ク理由不備ト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

○登記印紙規則第二條ニ登記印紙ハ登記法ノ定率ニ從ヒ登記ニ關スル請求ノ書面ニ貼用シ云々トアリテ登記出願書面ニハ相當印紙ノ貼用ヲ待テ始メテ其效用ヲ爲スヘキモノナレハ之ヲ分離スヘキモノニアラス故ニ該文書ニ貼用セル印紙ヲ剝キ取リタル如キハ其文書ノ一部ヲ毀棄シタルモノトス又毀棄トハ必スシモ文書タル性質ヲ滅却スヘキ場合ニノミ限ルヘキモノニアラス苟モ文書ノ一部タル效用ヲ失却セシメタルトキハ其罪ヲ成スヘキモノナレハ原院カ被告ノ所爲ハ官文書ノ一部ヲ毀棄シタルモノト爲シタルハ相當ニシテ上告ハ其理由ナシ

第二點ハ被告ノ上告趣意書第二點ト同一ナルヲ以テ重テ説明ヲ與フルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件公私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十四年十月十一日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○私書毀棄ノ件

明治三十四年九月第一一五二號
明治三十四年十月十一日宣告

○判決要旨

證書毀棄罪ハ其證書ノ他人ニ屬スルニアラサレハ構成スヘキモノニ非ス從テ該犯罪ヲ斷スルニ當リ其證書ノ何人ニ屬スルヤヲ説明セサル判決ハ不法ナリ

第一審 福井地方裁判所
第二審 大阪控訴院
被告人 村田傳左衛門

右傳左衛門ニ對スル私書毀棄被告事件ニ付明治三十四年七月十日大阪控訴院ニ於テ言渡タル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

證書毀棄罪ノ證書所有者

上告趣意書ノ第一點ハ原裁判所ノ判決書ニ「先ヨ喜三郎ヨリ生糸並ニ織物ノ受渡ヲ證スル爲メ被告ニ交付シ置キタル明治三十二年生糸織物差引覺ト題スル通帳中云々紙數五枚云々紙數二枚ヲ抜キ取り之ヲ破毀シ云々」ト在リ此原院ノ認メラレタル事實ノ一節ハ小川喜三郎ヨリ被告ニ交付シタル通帳ヲ被告ハ破毀シテ民事訴訟廷ニ提出シタリト云フニ外ナラス然ラハ即チ其被告カ破毀シタル通帳ナルモノハ如何ナル性質ノモノナルカ之ヲ詳言セハ則チ民事訴訟法第三百三十六條ニ所謂舉證者及ヒ相手方ニ共通ノモノナルカ將タ賣掛代金ノ案内狀トモ云フヘキモノニシテ賣主ヨリ唯買主ニ交付シ置ク普通ノ通帳ニシテ其實節季毎ニ買主ニ配付スル書出シナルモノト一般ノモノナルカ其之レカ性質ヲ明ニシテ初メテ該通帳カ權利義務ニ關スルヤ否ヲ識得スルナリ然ルニ原判決書ニハ前掲ノ如ク單ニ「生糸並ニ織物ノ受渡ヲ證スル爲メ」トアルノミニシテ當事者何レノ爲メ即チ小川喜三郎ノ證據トナルヘキ書證ナルヤ又被告ノ證據ト爲ルヘキ書證ナルヤ之ヲ説明セラレサルハ理由不備ノ裁判ナリ何トナレハ普通々帳ト稱スルモノハ之ヲ交收シタル者ノ處置權下ニ屬シ如何ニ之ヲ處分スルモ他ノ容喙スルヲ得サル性質ノモノナレハ此普通ノ名稱ニ反スル特殊ノ性質ヲ有スルモノナレハ必ズ特性ヲ明示セラルヘキハ裁判事理ノ當ニ然ラシムル所ナレハナリト云フニ在リ

○因テ按スルニ凡ソ書面ニ差出人ト受取人トアル場合ニ於テハ其書面ハ受取人ノ有ニ屬スルヲ以テ通例ナリトス計算書又ハ通帳ノ如キ亦此例ニ外ナラズ而シテ刑法書類云々トアルヲ以テ假令其證書カ權利義務ニ關スルモノナルモ他人ニ屬スルニ非サルニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スルヲ以テ爾餘ノ諸點ニ對シ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ事件ヲ名古屋控訴院ニ移ス

明治三十四年十月十一日於大審院第二刑事部公廷檢事奧宮正治立會宣告ス

以上ハ同條ニ該當セサルモノトス然ルニ原院ハ本件證書ナルモノハ生糸並織物ノ受渡ヲ證スル書面ニシテ小川喜三郎ヨリ被告ニ宛タル通帳ナリト認メタルヲ以テ其書面ハ通例被告ニ屬スヘキモノナルニ拘ハラス何等ノ理由ヲ付セスシテ直ニ同條ヲ適用シタルハ裁判ニ理由ヲ付セサル不法ナルヲ免レス已ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スルヲ以テ爾餘ノ諸點ニ對シ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ事件ヲ名古屋控訴院ニ移ス

明治三十四年十月十一日於大審院第二刑事部公廷檢事奧宮正治立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財未遂ノ件 明治三十四年九月二〇八號
明治三十四年十月十四日宣告

○判決要旨

被告人ノ呼出狀ヲ受取リタル典獄ノ氏名ニシテ印刷ニ係ルコトアリトスルモ呼出狀ハ典獄自身ノ作成スヘキ文書ニ非サルヲ以テ之カ爲メニ呼出狀ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

受取人ノ氏名自署ナキ呼出狀ノ效力

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 市川治作 辯護人 高木益太郎

右私書偽造行使詐欺取財未遂事件ニ付明治三十四年七月二十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
上告趣意ハ原裁判ハ刑法第四十三條第二項ヲ不當ニ適用シタル違法アリト云ヒ辯護人高木益太郎辯明書ノ第三點ハ原院ハ應禁物タル偽造證書ヲ沒收スルニ當リ刑法第四十三條第一號ヲ適用セスシテ同條第二號ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノナリト云フニ在リ○依テ原判決ヲ閱スルニ本件押收ノ預リ金證書及ヒ日延證書ハ共ニ被告ノ偽造ナルコトヲ認メタルヲ以テ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリトシ刑法第四十三條第一號ニ依リ沒收ノ處分ヲ爲スヘキ筈ナルニ原院カ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタル物件ナリトシ同條第二號ニ依リ沒收スヘキモノト判示シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免カレサルモノトス
辯護人高木益太郎辯明書ノ第一點ハ本件記録ヲ熟視スルニ原院ノ發シタル公判開廷期日ノ呼出狀ハ被告ニ適式ニ送達シタルモノト認メ難キ事迹アリ何トナレハ凡ソ囚人ニ對スル送達ハ監獄首長ニ之ヲ爲スヘキコトハ訴訟法ノ規定ナルニモ不拘記録第五百七枚目呼出狀ノ送達證書ノ受取人ノ受取證中

「典獄藤澤正啓」ノ六字カ印刷ニ係リ其自署ニアラサルコトハ一目瞭然タリ果シテ然ラハ刑事訴訟法第二十二條ニ依リ典獄ニ於テ受取リタルモノト確認スル能ハサルナリ而シテ刑事訴訟法第二百五十七條ニ依リハ控訴裁判所ニ於テハ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取り掛ルヘシ呼出狀ハ送達ト出頭トノ間少クモ二日ノ猶豫アルヘシトノ規定アルヲ以テ苟モ被告ニ於テ(原由ノ如何ヲ問ハス)公判延期ノ申請ヲ爲シ而モ呼出狀ヲ有效ニ送達シアラサル以上ハ其送達ト出頭トノ間少クモ二日ノ猶豫ヲ與フヘシトノ法則ヲ無視スルノ結果ヲ生スルニ依リ其申請ハ之ヲ聽許スヘキハ勿論ナリ然ルニ原院公判始末書ニ依レハ被告ハ公判ノ起頭ニ於テ先ツ辯護人選定ノ爲メ期日ノ變更ヲ申請シタルニ原院ハ恰モ合法ノ呼出狀ヲ送達シタルモノ、如ク誤解シ輒シ右申請ヲ却下シ其審理ヲ進行シタルハ違法ニシテ被告ニ辯論準備ノ餘地ヲ與ヘサリシ不法アルモノナリト云フニ在リ○依テ右呼出狀ヲ閱スルニ典獄藤澤正啓ノ六字ハ所論ノ如ク印刷ニ係リ自署シタルモノニアラス然レトモ右ハ單ニ呼出狀ヲ受取リタル事實ヲ認證スルニ止マリ典獄自ラ作成スル文書ニアラサルヲ以テ必スシモ自署ヲ要スヘキモノニアラス故ニ本論旨ハ上告ノ理由トナラス』同第二點ハ原院ハ被告ニ於テ金三百圓ト金二百圓トノ預リ證ヲ偽造シ之ヲ行使シタル事實ヲ確定シタルコモ不拘其法律理由中只「重キ預リ金證書ナル私書偽造行使ノ罪ニ從ヒ」ト判示シタルノミコテ二個ノ預リ金證書中孰レノ證書偽造行使ヲ重シト爲スヤヲ指示セサリシハ則チ理由不備ノ違法アルヲ免カレスト云フニ在レトモ○原判決ハ金三百圓ト金二百圓ノ

二口ヲ預リタルコトヲ證スル一通ノ預リ金證書ヲ偽造シタル事實ヲ認メ二通ノ預リ金證書ヲ偽造シタル事實ヲ認メタルニアラサルヲ以テ論旨ハ理由ナシ
右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決擬律ノ部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

市川 治 作

原院ノ認メタル事實ニ依レハ押收ノ預リ金證書及日延證書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナルヲ以テ刑法第四十三條第一號第四十四條ニ依リ沒收ス
其他ハ原判決ノ通り

明治三十四年十月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○強盜ノ件

明治三十四年第一二一七號
明治三十四年十月十四日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 第一審判決カ共犯者ノ氏名ヲ明記シタルヲ第二審判決

ニ於テ氏名不詳者トシタルモ二名共犯タル事實ニ異動ナキ以上ハ
犯罪ノ構成ニ影響ナキヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ
(判旨第六點) 現行犯ナルニ準現行犯ノ名ヲ以テ假豫審處分ヲ爲スモ
其訊問調書ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 寅澤多吉 辯護人 立木頼三

右強盜被告事件ニ付明治三十四年七月二十日東京控訴院ニ於テ控訴棄却ヲ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告ノ上告趣意書ハ要スルニ原判決ニ依レハ被告ハ明治三十三年十二月九日午前零時三十分頃神奈川縣足柄上郡川村山北鈴木音次郎方ニ於テ強盜ヲ爲シタリトアルモ被告ハ其當時同村停車場雜商瀬戸作太郎方ニ在リテ賣子ニ從事シ右兇行時刻頃ニハ停車場ニ於テ商業ヲ爲シ居リタルコト明白ナルヲ以テ原院ニ於テ證人トシテ瀬戸作太郎子息瀬戸市太郎ノ喚問ヲ請求シタルモ之ヲ採用セスシテ被告ヲ強盜罪ニ問擬シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○證人喚問申請ノ許否ハ事實承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ之ニ對スル論難ハ上告ノ理由トナラス』同辯明書ノ第一乃至第三ヲ要スルニ被告ノ第一第二ノ事實

一審判決ノ取消○豫審訊問調書ノ效力

コ付第一審ハ小野金太郎ヲ共犯ナリトシ第二審ニ於テハ同人ヲ無罪ト爲シタルニ不拘犯人ハ二人ナル
 ヘシト臆斷シ金太郎ニ代ユルニ氏名不詳者ト爲シ犯人ヲ二人ト認定シタル理由ヲ明示セサルハ理由
 不備ノ裁判ナルノミナラス第一審カ金太郎ト共謀シタリト認メタル事實ヲ變更シテ同人ト共謀シタル
 モノニ非スト爲ス以上ハ假令刑期ニ影響ナシトスルモ第一審判決ヲ取消サ、リシハ違法ノ裁判ナリト
 云フニ在レトモ○前段ハ原判決ニ於テ犯人二名ナルコトニ付キ證據ヲ掲ケ其理由ヲ説明シアリ又後段
 ハ第一審判決ニ於テ共犯者ヲ小野金太郎ト認メ第二審判決ニ於テ其共犯者ヲ氏名不詳者トスルモ二名
 共犯タル事實ニ於テ異同ナキ以上ハ犯罪ノ構成ニ影響ナキヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ要ナキモノト
 ス○同第四ハ要スルニ原判決ニ刑法第百條ヲ適用シテ其何項ナルヤヲ明示セサルハ理由不備ナリト云
 フニ在レトモ○刑法第百條ヲ適用シタル以上ハ其第何項ナルヤハ之ヲ明示セサルモ不法ニアラス○同
 第五ハ本件第五ノ前掲理由ニ依レハ「買物アリト詐言シ開戸セシメ同人ヲ威迫シ云々」トアリ而シテ後
 段ノ理由ニ依レハ盜難届中ニ「私ノ手ヲ捕云々」又被告豫審調書中「自分ハ無理ニ手ヲ押シテ入り云々」
 トアリテ前掲ノ理由ニ依レハ脅迫ヲ以テシタルカ如ク後掲ノ理由ニ依レハ暴行ヲ加ヘタルカ如ク前後
 理由ノ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○是唯原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ判斷ヲ
 批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス
 上告趣意擴張辯明書ノ趣旨ハ要スルニ本件ハ現行犯又ハ準現行犯ニアラサルニ原判決ニ於テ下山ヒサ

判例第二點

判例第六點

鈴木米(音ノ誤カ)次郎ノ警察署ニ於ケル訊問調書ヲ罪證ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○記
 録ニ徴スレハ本件ハ準現行犯トシテ逮捕告發ヲ爲シタル場合ニ係ルヲ以テ司法警察官カ假豫審處分ト
 シテ作成シタル訊問調書ハ有效ナリトス故ニ原判決カ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニアラス
 辯護人立木頼三辯明書ハ原判決第三ノ事實ニ付鈴木米次郎カ警察署ニ於ケル訊問調書ヲ證據トシテ採
 用セラレタルカ本件ハ素ト刑事訴訟法第五十七條ノ所謂準現行犯ト云フヘキモノニアラスシテ司法警
 察官カ猥リニ準現行犯ノ名ヲ付シ假豫審處分ヲ爲シタルモノナレハ其訊問調書ハ無効ノ書類ナルニ之
 手探テ以テ斷罪ノ證據ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○記録ニ徴ス
 レハ本件ハ現行犯ナルニ依リ縦シヤ準現行犯ノ名ヲ以テ假豫審處分ヲ爲スモ其訊問調書ノ效力ニ影響
 ナクホサス故ニ原院カ右訊問調書ヲ罪證ニ供シタルハ違法ニアラス
 右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十四年十月十四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印盗用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十四年十一月十六日
明治三十四年十月十五日宣告

○判決要旨

審理更新ノ場合ニ於テ更ニ被告人ヨリ證據申請ヲ爲サ、ル以上ハ更新前ニ於テ終了シタル證據調ハ更新後之ヲ再ヒスルノ要ナシ

第一審 大分地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 保田文太郎 辯護人 元田兼三
外一名 古田兼三

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十四年七月十日長崎控訴院ニ於テ控訴棄却ヲ言渡シタル判決ニ對シ被告共ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ヲ要スルニ第一ハ證人望月勝次郎ノ證言ト同溝口織藏ノ證言トハ互ニ齟齬スルニ拘ハラヌ之ヲ大要一致スト認定シ又織藏ノ證言ハ漠然タルモノナルニ之ヲ採用シ又證人金田直巳ノ陳述ハ推測若クハ觀察ニ過キサルニ之ヲ證言トシテ採用シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○原院ト證據ノ解釋ヲ異ニシ又ハ探證ノ當否ヲ批難スルモノニシテ上告適法ノ理由ナシ○第二ハ私印盗用ノ點ニ付其盗用ノ場所及日時ヲ證據ニ依リ説明セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○盗用ノ場所及ヒ日時ハ罪トナルヘキ

事實ニ非サルヲ以テ之ヲ認メタル理由ヲ證據ニ依リ説示セサルモ違法コアラヌ○第三ハ本件ノ如ク當事者間ニ金錢貸借ノ關係アル以上ハ之ヲ鞏固ニスル爲メ文書ヲ偽造スルモ實害ナキヲ以テ偽造罪ヲ成サ、ルモノナルニ原院カ處罰シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○勝次郎カ振出シタル手形トシテ偽造シ之ヲ行使スルトキハ同人ニ對シ實害ヲ生シ得ヘキコト勿論ナルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ
被告文太郎ノ辯明書ヲ要スルニ第一ハ豫第四號ハ保太郎記名金主勝次郎ニ宛テタルモノニシテ約束手形ニ對スル借用證ナルニ原判決ニ「被告文太郎カ公廷ニ於テ豫第四號沙月勝次郎記名被告保太郎宛金七百圓ノ借用證書云々」トアルハ理由ノ齟齬ナリト云フニ在レトモ○第二審ノ判決ニハ所論ノ如キ記載ナクハ本論旨ハ謂ナキモノトス○第二ハ原判決ニ「其他ハ云々各提出者ニ還付ス」トアリ其還付シタルモノ、中ニハ豫第五號第六號契約證並第四號借用證ヲ包含ス而シテ其提出者トハ裁判所ニ提出シタル者ナルカ將テ證書記名者ナルカ分明ナラス何レニスルモ不當ノ結果ヲ生ス然ルニ何等ノ理由ヲ付セスシテ提出者ニ還付シタルハ不法ナリ又告訴人ノ證言ヲ信シテ偽造ナリト認定シ處罰シタルハ不法ナリ又被告ニ於テハ私印盗用ノ行爲ナキニ其罪アリトシテ處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○提出者トハ裁判所ニ提出シタル者ヲ指稱スルコト勿論ニシテ別ニ理由ヲ付スルノ要ナシ而シテ沒收ニ係ラサル押收物ハ差出人ニ還付スヘキモノナルヲ以テ論旨ハ理由ナシ其他ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由トナラス

辯護人元田肇ノ擴張書第一ハ原判文ヨ云々「巧ニ欺罔セシヨリ勝次郎モ遂ニ其言ヲ信シ」云々ト記載アリト雖モ其所謂巧ニ欺罔セシト云フ前段ノ事實ハ山林ヲ代金千八百五十圓ニテ買受クルノ約束ヲ爲シ手附金二百圓ヲ差入タルモ殘金出來サルヨリ云々殘金七百圓ヲ借用シ云々又其内ニテ兼テ貴殿ニ借用シ居ル二口ノ元利金三百圓ヲ差引キ殘金四百圓ヲ以テ山商法ヲ爲シ其利益ヲ以テ七百圓ヲ漸次皆濟スヘク云々トアリテ代金千八百五十圓ノ處ニ手附金二百圓ヲ差引キ殘金千六百五十圓ヲ支拂ハサレハ完全ノ賣買ハナラサル筋合ナルニ殘金ヲ七百圓ト記シ又其内ヨリ三百圓ノ舊借ヲ差引キ其殘餘ニテ山商法ヲ爲ストハ少シモ了解スル能ハサル筋ナリ此點ニ於テ原裁判ハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○右ハ被告カ勝次郎ヲ欺シ爲メニ用ヒタル言ニシテ原判決ハ算數上ヨリスレハ不條理ナル言語ヲ以テ巧ニ勝次郎ヲ欺キタル事實ヲ認定シタルモノナレハ理由ノ不備ト云フヲ得ス』第二ハ原院判決ハ左ノ二點ニ於テ裁判ニ理由ヲ付セサル違法タリトス(一)原判文中其前段事實摘示ノ部ニ於テ(前畧)同家ニ待合セタル文太郎ヲ紹介シ文太郎ヲシテ證書ヲ認メシムヘシト申出テ茲ニ於テ保太郎勝太郎ヨリ文太郎ニ證書認方ヲ依頼シ實印ヲ交付シタルヲ幸ヒニ文太郎ハ之ヲ押捺スル際竊カニ偽造シ置キタル明治三十三年五月十九日附勝四郎ヨリ保太郎ニ宛振出シタル金高七百圓ノ約束手形勝四郎名下其他印紙消印ノ部ニ捺捺シ云々トアリテ其之ヲ認メタル理由中(前畧)同所ニテ文太郎カ自分ト保太郎間ニ取替スヘキ約定書類ヲ認メ其時自分ハ押印方ヲ文太郎ニ依頼シ同人ニ於テ押印シ吳レタル上印ヲ戻シタリトノ

コト(中畧)七百圓ノ約束手形ヲ保太郎ニ振出シタル見覺ナシ押印ノ約束手形ヲ見テ自分名下ノ印影ハ自分ノ實印ニ相違ナキモ自分ニ押印シタル覺ナキ趣旨ノ陳述云々トアルニ止マリ被告文太郎ニ於テ果シテ勝次郎ノ實印ヲ盜用シタリヤ否ヤニ關シ更ニ證據ノ表示ナシト云フニ在レトモ○判文所載ノ證據ヲ綜合シテ盜用ノ事實ヲ認定シタルコト明カナレハ證據ノ表示ナシト云フヲ得ス』(二)原判文中事實摘示ノ部ニ於テ(前畧)明治三十三年七月二十一日文太郎ヨリ右偽造約束手形ヲ證據トシテ佐伯區裁判所ニ提出シ勝次郎ニ對シ金七百圓ノ支拂命令申請ヲ爲シ其命令ヲ發セシメタルモ事發覺シテ云々ト掲ケ來リテ其之ヲ認メタル理由中(前畧)佐伯區裁判所判事ノ回答書ニ明治三十三年七月二十一日保田文太郎ハ金七百圓ノ約束手形ヲ提出シ沙見勝次郎ニ對シ支拂命令ヲ申請シタルノ記載云々トアリテ未ダ其命令ヲ被害者勝次郎ニ送達シタル證據ノ表示ナシ抑モ本件ノ如キ場合ニ於テハ支拂命令ノ被害者ニ送達セラレサル以前ニ在テハ詐欺取財罪ニ着手セリト云フヘカラサルニ原院ハ偽造手形ヲ以テ支拂命令ノ申請ヲ爲シタル事實及證據ノミヲ表示シテ之ヲ以テ直ニ詐欺取財罪ノ着手ノ所爲ト認メタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○既ニ偽造手形ヲ裁判所ニ提出シテ支拂命令ヲ申請シ其命令ヲ發スニ至ラシメタルトキハ欺罔ノ所爲アルヲ以テ詐欺取財罪ニ着手シタルモノト云ハサルヲ得ス而シテ命令ヲ發シタルノ證據ハ原判文ニ明記アルヲ以テ理由ヲ付セサルノ不法ナシトス』第三ハ原院判決ハ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ違背シテ事實ハ表示ヲ爲サ、ル違法アリトス何トナレハ其判決冒頭ニ被告兩名ハ

共謀シ(中略)手附金トシテ金二百圓ヲ差入レアリシモ爾後殘金調達セズ其儘ニナリ居ルヲ幸ヒニ詐欺取財ヲ爲サンコトヲ企テ云々三名共殘金出來サルヨリ自分ニ共山ヲ引受ケ吳度旨申込アリシカ自分モ調金出來サルニ付キ貴殿ニ於テ其山ヲ引受ケ吳ル、カ若シクハ自分ニ金圓ヲ貸與セラレタシ云々巧ニ欺罔セシヨリ勝次郎モ遂ニ其言ヲ信シ云々ト表示シテ明カニ證書騙取ノ所爲ニ依ル詐欺取財ノ手段トシテ手附流レトナリ居ル山林ノ賣買契約ノ遂行ヲ口實トシタル如ク筆ヲ下シ其下文ニ於テ保太郎勝次郎ヨリ文太郎ニ證書認方ヲ依頼シ實印ヲ交付シタルヲ幸ヒニ文太郎ハ之ヲ押捺スル際竊カニ偽造シ置キタル(中略)約束手形中勝次郎名下其他印紙消印ノ部ニ之ヲ盜捺シ云々トアリテ其前段巧ニ欺罔セシヨリ云々トハ果シテ何レノ行爲ニ對スル詐欺取財罪ノ手段トシテ掲ケ來リタルヤ或ハ約束手形タル證書騙取ノ詐欺取財罪ニ對スルカ如ク或ハ單ニ私印盜用罪ナルカ如ク而シテ其下文ノ事實ニハ些少ノ關係ヲモ有セサルカ如ク抑モ判決ニ所謂事實ノ表示ハ確定シタル一定ノ事實タルコトヲ要シ二様三様ノ意義アル可カラサルニ原判決事實ノ表示ハ其如何ナル乎ヲ確知スル能ハサルモノナリト云フニ在レトモ○「巧ニ欺罔セシヨリ勝次郎モ遂ニ其言ヲ信シ」マテノ事實ハ私印盜用手形偽造ヲ爲ス爲メノ手段ナルコト判文上明白ニシテ論旨ハ理由ナシ」第四ハ原院ハ證據決定後之カ變更拋棄等ノ事由ナキニ拘ハラス之レカ證據調ヲ爲サ、ル違法アリトス何トナレハ原院第一回ノ調書ヲ見ルニ辯護人ヨリ申出タル證人野々下宇一外一名ヲ召喚スルコトヲ許可シテ次テ續行期日ニ於テ之レカ訊問ヲ爲シタリ然シテ

裁判所ハ次テ續行期日ヲ定メラレタル際ニ於テ構成ニ變更アリタル爲メ審理ヲ新タニスル言渡シヲ爲シタルモ證人野々下宇一ノ訊問ヲ爲サス抑モ決定ハ裁判所ノ行爲ナレハ苟モ一定ノ事由ニ依ラサル以上ハ決シテ消滅スヘキモノニアラス然レトモ之レカ訊問ニ關スル事項ハ口頭審理ノ原則ニ從ヒ裁判構成ニ變更アリタル以上ハ悉ク之ヲ新タニセサルヘカラサルモノト思考ス然ルニ原院ハ其構成ニ變更アリタルニモ拘ハラズ證人野々下宇一外一名ノ審問ヲサスシテ裁判ヲ爲シタルハ之レ證人ノ陳述ヲ聞カスシテ裁判ヲ爲シタルト同一般ノ違法アリト云フニ在レトモ○證據調ノ決定ニ依リ證據調ヲ爲シタル以上ハ其決定ハ既ニ執行サレリタルヲ以テ審理ノ更新スル場合ニ於テ被告ハ尙ホ證據調ヲ必要ナリトスルトキハ更ニ申請ヲ爲スヘキ筋合ナリ而シテ原院ニ於テハ更新シタル審理中別ニ申請アルコトナケレハ更新前ニ辯護人ノ爲シタル申請ニ係ル證據調ヲ爲サ、リシハ違法ニアラス

辯護人古田兼三ノ擴張趣旨ハ本件偽造手形ヲ刑法第四十三條第一號及同第四十四條前段ヲ適用シテ沒收シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○偽造手形ハ法律ノ禁制ヲ犯シテ作成シタルモノニシテ即チ應禁物トシテハ原院カ右法條ヲ適用シテ沒收シタルハ相當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十四年十月十五日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十四年第一二六四號
明治三十四年十月十八日宣告

○判決要旨

詐欺取財罪ハ人ヲ欺罔シ若クハ恐喝シ財物又ハ證書類ヲ取得スル
ヲ以テ構成ス而シテ被告人カ債權者ナルヤ否ヤハ犯罪ノ構成ニ影
響ナシ

第一審 富山地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 石川十次郎

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十四年八月十日大阪控訴院ニ於テ本件控訴ハ之ヲ棄却ス
ト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ス
ルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原院判決ニヨレハ「被告ハ富山縣中新川郡濱加積村大字北野齋木豐次郎ヨリ明治三十三
年一月二十四日被告宛ノ金高拾圓七拾五錢ノ借用證書ヲ受取居ルヲ奇貨トシ豐次郎ヨリ金圓ヲ騙取セ

ソコトヲ企テ明治三十二年二月ヨリ三十三年十二月迄ノ間ニ其借用證書金高ノ部拾圓トノ間左傍ニ
九ノ字ヲ記入シテ拾九圓七拾五錢ノ證書ニ變造シ云々」トアルモ被告カ豐次郎ニ對シテ金拾圓七十五
錢ノ債權ヲ有セシヤ否ノ事實ニ至テハ之レヲ知ルニ由ナシ而シテ同判文中「明治三十四年二月日不詳
理助宅ニ於テ伊東平四郎ナル者ノ手ヲ經テ豐次郎ヨリ金參圓及豐次郎借主名義ノ金高參圓ノ借用證書
一通ヲ受取以テ之ヲ騙取シタリ」トアリテ即チ被告カ金拾圓七拾五錢ノ證書ヲ金拾九圓七拾五錢ト變
造シテ結局騙取シタルハ金六圓(現金證書共)ニ過キササルヲ以テ若シ被告カ拾圓七拾五錢ノ債權ヲ有セ
シモノトセハ此一部ナル金六圓ノ請求ハ正當ノ原因アルモノニシテ其辨濟ヲ受クレハ逆毫モ騙取ニア
ラサルナリ故ニ此ノ金參圓及金高參圓ノ證書一通ヲ受取リタル行爲ヲ以テ詐欺取財ノ罪アルモノト判
斷センニハ必其權利ヲ有セサリシコトヲ言明セサルヘカラス然ルニ原院ハ被告カ金高拾圓七拾五錢ノ
借用證書ヲ有セシコトヲ認定シナカラ其債權有無ノ事實ヲ確定セサルハ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナ
ク即緊要ナル爭點ヲ判斷セサリシモノニシテ事實理由不備ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ刑法第
三百九十條ニハ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ云々トアリテ即チ人ヲ欺
罔シ又ハ恐喝スルコトハ財物若クハ證書類ヲ取得スルコトハ要件ヲ具フルニ於テハ詐欺取財罪ヲ構
成スルモノニシテ被告人カ債權者ナルヤ否ヤハ本件犯罪ノ構成上何等ノ影響ナキモノトス之ヲ詳言ス
レハ被告人カ債權者ナレハトテ之レカ爲メ右ノ要件ニ變更ヲ生スヘキモノニ非ス又別ニ債權者ヲ除外

ハ、キ規定アルコトナシ故ニ原判決ニ於テ被告カ變造證書ノ行使ニ因リテ現金ト證書トヲ取得シタル事實ヲ明示セル以上ハ債權ヲ有シタルヤ否ヤヲ判斷セサルモ之ヲ不法ナリト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十月十八日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○誣告及附帶私訴ノ件

明治三十四年九月五三號
明治三十四年十月二十一日宣告

○判決要旨

證言トハ必スシモ證人トシテ宣誓ノ上供述セシメタルモノ、ミナ云フニ非ス參考人ノ供述ト雖モ證憑トシテ之ヲ採用スル以上ハ證言ナリ

第一審 橫濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人

久保八左衛門

辯護人

鹽谷恒太郎
磯部四郎
石山彌平

私訴被上告人

岡田吉兵衛

右誣告被告事件及ヒ之ニ附帶セル私訴ニ付明治三十四年五月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル公
私訴ノ判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ
依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告及辯護人鹽谷恒太郎公訴上告趣意ハ被告ハ明治二十九年十二月二十七日岡田吉兵衛ヨリ同人所有ノ一圓樓ノ宅地建物營業品及娼妓ニ對スル債權ヲ代金二万六百元ニテ買受ケ右宅地及建物賣買登記履行ノ節其抵當タル岡田吉兵衛ノ債務額ヲ右代金二万六百元ノ内ヨリ便宜上支出ス可キ旨ヲ約シ賣買契約ヲ締結シタリ然ルニ岡田吉兵衛ハ右賣買契約ヲ履行セサルニ付明治三十年一月二十二日賣買契約履行及損害要償ノ訴訟ヲ橫濱地方裁判所ニ提起シタリ然ルニ吉兵衛ハ意外ニモ抵當債務七千五百圓ハ右代金以外ニ被告人ノ支出スヘキモノナリトシ反訴ヲ提起シ其支拂ヲ請求セリ元來被告人カ一圓樓ヲ買受ケ契約ヲ取結ヒタルハ證人立花德次郎ノ勸メニ依リ神奈川町神風樓主山口増太郎カ二万二千圓位ニテ買取ル可シト云フニ付其間ニ於テ轉賣シ利益ヲ得ント欲シタルニ出ツルモノニシテ被告人ハ特ニ證人立花德次郎ト同行シ右山口増太郎ヲ訪ヒ其意見ヲ確メタルニ本件目的物ノ代價ハ一万八千圓位ナラント云フニ付遂ニ岡田ト交渉ノ結果二万六百元ニテ買取リノ契約ヲ爲シタルモノナリ故ニ本件ニ付被

被告人カ最モ利益ナル事實證據トシテ右證人山口増太郎ノ證言ヲ引用シ被告人カ二万六百元以外ニ七千五百圓ノ抵當債務額ヲ出金スルノ契約ヲ爲ス可キノ理由ナキコトヲ主張シ岡田吉兵衛カ右七千五百圓ハ賣買代金二万六百元以外ニ被告人ノ出金ス可キモノナリトシ反訴ヲ提起シタルハ畢竟賣買契約證ノ末段ノ文意不明ナルヲ奇貨トシ之ヲ曲解シ被告人ヲ欺キ七千五百圓ヲ詐取セントスルモノナリト信シ明治三十一年二月二十六日岡田吉兵衛ニ對シ詐欺取財未遂ノ告訴ヲ爲シタルモノナリ然ルニ原院ハ被告人カ最モ緊要ナル事實トシ且ツ最利益トスル證人山口増太郎ノ證言ニ付テハ全ク説明ヲ與ヘス之ヲ度外ニ置キ被告人カ抵當債務七千五百圓ハ賣買代金二万六百元以外ニ支出ス可キモノナルコトヲ知リナカラ岡田吉兵衛ノ反訴ニ對シ詐欺取財未遂ノ告訴ヲ爲シタルハ誣告罪ヲ成立スト判示シタルハ不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○裁判所ハ罪トナルヘキ事實及證據ニ付之ヲ認メタル理由ヲ明示スレハ足ル其採ラサル證言ニ對シ説明ヲ與フルノ責務ナシ他ハ自己ノ事實ナリトスル所ヲ縷述シテ原裁判ヲ批難スルハ外ナラサレハ共ニ上告ノ理由トナラス辯護人鹽谷恒太郎上告趣意擴張第一點ハ原院カ本件目的物件ノ賣買ニ付「一圓樓ノ宅地建家一切ノ營業品及娼妓ニ對スル債權ヲ包括シテ其代金二万六百元ト定メ且其他ニ吉兵衛カ右宅地建物ヲ抵當トシ横濱銀行並ニ青木金六ヨリ借受ケ居ル債務合計金七千五百圓ハ被告ニ於テ之ヲ負擔スルコト、爲シ即チ買人タル被告ヨリ合計金二万八千五百圓ヲ岡田吉兵衛へ出金スル等ニテ右賣買契約ヲ締結シ云々」トノ事實ヲ認メ横濱銀行及青木金六ノ債權ハ

合計七千五百圓ナリト認メタリト雖モ理由ノ前段ニ於テハ「岡田吉兵衛カ横濱銀行ヨリ五千圓ノ抵當債務ヲ負擔セシコトハ證人峯田清藏ノ豫審調書ニ其旨ノ記載アリ又吉兵衛カ青木金六ヨリ二千五百圓許ノ抵當債務ヲ負擔スルコトハ同人ノ當公廷ニ於ケル其旨ノ證言ニ依リ何レモ明白ナルヲ以テ云々」ト説明セリ即チ右青木金六ノ證言ニ依レハ其債權ハ正ニ金二千五百圓ニ非スシテ凡ソ金二千五百圓許ナルコト明カナリ故ニ之ヲ横濱銀行ノ債權五千圓ヲ合スルトキハ凡ソ七千五百圓許トナルモ端數ナク金七千五百圓ニ非ス然ルニ原院ハ前掲ノ如ク債權高チ正ニ七千五百圓也ト認メタルハ認メラレタル事實ト證據ト符合セサルモノニシテ結局證據ニ基キ事實ヲ認メタル理由ヲ明示セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ハ青木金六ノ二千五百圓許トク證言ヲ取捨判斷シテ峯田清藏ノ證言ニ依ル五千圓トチ併セ債務負擔額ノ七千五百圓ナリシ事實ヲ認定シタルモノナレハ本論旨ハ畢竟事實承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定證據ノ取捨判斷ニ對シ批難ヲ試ムルニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス同第二點ハ原院ハ本件ニ於テ被告カ岡田吉兵衛ヨリ一圓樓ヲ買受クルノ約旨ハ果シテ二万六百元ナルヤ又ハ岡田吉兵衛主張ノ如ク二万六百元以外ニ七千五百圓ノ債務ヲモ被告ニ於テ負擔スヘキ筈ナリシヤ否ヲ審究スルヲ必要ナリトシ之ヲ論定スルニ當リ地所建物賣渡契約書ノ末段ノ文詞ノミニテハ二者何レ共之レヲ決スルニ由ナキモノト認メ到底他ノ證據ニ依リテ之カ解釋ヲ補充セサルヘカラサルモノナリト認メ鑑定人石川倉次郎同須永米藏同齋藤茂十郎同小林喜助同山田久米右衛門同齋藤新次郎同左

右田金作同原田久吉同海老塚四郎兵衛同飯泉金次郎ノ鑑定ヲ引用シ本件賣買ノ目的物ハ最低額金二万四千七百七十六圓餘最高額三万五千四百四十圓平均價額二万五千七百圓餘ナルヲ以テ若シ本件賣買目的物ノ代價ヲ單ニ二万六百萬ト定メタリトセハ相當價額ヨリ遙ニ廉價ナリト云ハサルヘカラス凡ソ賣買代價ハ賣主買主雙方ノ境遇其他諸般ノ事情ニヨリ定マルヘキモノナレハ前記ノ各證據ヲ參照スルトキハ本件賣買代價ヲ金二万六百萬並ニ七千五百圓ノ債務ヲ買主ニ於テ負擔スル約旨ナリシト認ムルノ資料ト爲スヲ得ヘシ何トナレハ相當價格ニ近キ二万八千圓ノ賣買代價ナリト認ムルハ普通ノ狀態ナレハナリト説明シ前掲賣渡證末段ノ意義ハ買主タル被告ニ於テ二万六百萬ノ外ニ七千五百圓ノ抵當債務ヲ負擔シ該抵當登記取消ノ際之ヲ出金スル約旨ナリシ事ヲ認定スルニ充分ナリト論定セラレタリ然レトモ右説明ニ所謂相當價額トハ前記最低額ナルヤ將タ最高額ナルヤ將タ平均額ナルヤ明示スル所ナシ而シテ最低額及最高額共均シク鑑定人ノ鑑定シタル所ナレハ之レヲ以テ直チニ相當ニ非スト云フヲ得ス而シテ原院ハ前記證人青木金六同江田知義同中島房五郎同青木作三同篠原丈太郎等ノ證言ト鑑定人ノ意見タル相當價額トヲ參照シテ本件目的物ノ賣買價額ヲ二万八千圓ナリト認メタルモノナレハ其相當價額トハ前記三様中何レヲ指示スルモノナルヤ之レヲ明示スルニ非サレハ當ニ理由ノ不明タルノミナラス實ニ理由ヲ付セスシテ判決ヲ爲シタル不法アリト云フニ在レトモ○原判決ノ相當價額トハ平均額ノ謂ナルコトハ「全部ノ平均價格ヲ算出スレハ二万五千七百餘圓トナルヲ以テ云々相當價格ニ遠キ二

万六百萬ノ賣買代價ナリト認ムルヨリモ相當價格ニ近キ二万八千圓ノ賣買代價ナリシト認ムルハ普通ノ情態ナレハナリ云々」トアル等判文上明カナルヲ以テ理由ノ不明又ハ理由ナシトノ論難ハ謂レナシ」辯護人磯部四郎上告趣意擴張第一點ハ原判決主文ニハ「當審ニ於ケル公訴裁判費用ハ總テ被告ノ負擔トス」トアレトモ其金額ヲ明記セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟費用額ハ判決執行ニ至リ定ムルコトヲ得ヘキモノナレハ判決ニ於テ其額ヲ明カニセサルモ不法ニアラス」同第二點ハ檢事ハ同一體ナリト雖モ辯論ニ立會ヒタル檢事ト判決言渡ニ立會ヒタル檢事ト異ナルトキハ判決ニハ必ス各別ニ記載スルコトヲ要ス而シテ第一審公判始末書ヲ見ルニ判決言渡ニ立會ヒタル檢事ト辯論ニ立會ヒタル檢事トハ同一人ニアラサルニ拘ラス判決ニハ「檢事大橋清藏立會宣告ス」トアリテ辯論ニ立會ヒタル檢事ノ記載ナシ之刑事訴訟法第二百五條ニ違背シタル不法アルモノナルニ原院カ本件控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○檢事ハ同一體ナルヲ以テ其干與シタル一人ヲ判決書ニ記載スルニ於テハ不法ニアラス從テ原判決ハ所論ノ如キ違法ナシ」同第三點ハ原公判始末書ヲ見ルニ被告ノ前科ニ付テハ只訊問アルノミニシテ其證據ヲ被告ニ讀聞カセ辯解ヲ爲サシメタルノ形跡ナシ然ルニ原院カ之ニ因リテ再犯加重ノ言渡ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第九十八條ニ違背シタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ハ被告カ公廷ニ於ケル自供ヲ證據ニ採リタルモノナルヲ以テ別ニ讀聞ク又ハ辯解セシムルヲ要セス」同第四點ハ原判決所載事實ニ依レハ被告ハ岡田吉兵衛ニ對シ金七千五百圓

詐欺取財未遂ノ証言ヲ爲シタリト云フニ在リ然ルニ原判決證據ノ部ニ「云々又吉兵衛カ青木金六ヨリ二千五百圓許ノ抵當債務ヲ負擔セルコトハ同人ノ當公廷ニ於ケル其旨ノ證言ニヨリ何レモ明白」トアリ而シテ第一審判決ニモ「手取金二万六千圓ノ外該地所家屋ハ金七千五百圓程ニ横濱銀行及ヒ青木金六ニ抵當ニ差入レアルヲ以テ云々」ト記述シアルニ依テ見レハ岡田吉兵衛カ横濱銀行及ヒ青木金六ニ負フトコロノ債務ハ確定金七千五百圓ナルカ將タ金七千五百圓程ト云フニ止マリ確然タル査定ヲ爲ササリシモノナルカ判文ノミニ依リテ之レヲ明カニスルニ由ナシ果シテ然ラハ被告カ岡田吉兵衛ニ對シ詐欺取財未遂ノ犯罪アリト經ヒタル事實中其犯罪ノ目的物ヲ一定セス又ハ一定シ得ヘキ標準ヲ示サ、リシモノニシテ如斯漠然タル告訴ニ基キテハ未ダ以テ岡田吉兵衛ニ擬スルニ詐欺取財未遂ヲ以テスルヲ得ス從テ本件被告ニ對シ証告罪ヲ成立セシムル道理ナキ筋合ナリ乃チ原判決ハ不當ニ法則ヲ適用シタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ○七千五百圓許ト云フモ七千五百圓程ト云フモ全然金額ヲ定メサルモノト同視スルヲ得サルノミニナラス良シ確然金額ヲ定メサル告訴ニ基キタリトスルモ証告罪ノ構成ニ關セサルヲ以テ本論旨ハ其理由ナシ」同第五點ノ要旨ハ原院認定ノ事實ハ只單ニ被告カ抵當債務ヲ負擔シタリト云フニ止マリ被告ヨリ賣主吉兵衛ニ其抵當債務辨濟金ヲ給付スヘキ事實アラサルナリ就中原院ハ立花徳次郎ノ豫審調書中「其翌二十八日ノ朝ニナツテ久保カ私方ヘ參リマシタカラ全體岡田ノ方ノ咄ハ堂ナツタト云ヒマス」賣買ノ約束カ調フタト申シマスカラ何程コト賣買ニナツタト

尋ネマスト二万六千圓ニアリテ其上段々咄ヲ聞キミレハ人ハ見掛ニヨラヌモノニテ地所ハ平沼專藏ニ抵當ニナツテ家屋ハ東京ニ抵當ニナツテ居ルカ其金高ハ八千圓ニテ其内五百圓許リハ拂ツテ居ル様子タカ其金モ自分カ引受ケテ拂ツテヤラネハナラヌコトニナツタカ併シ其金ハ抵當カ這入ツテ居ルコトヲカラ其儘ニシテ居イテ宜シイノダト申シマシタ」又同調書中「問ソースレハ二万八千圓ト云フハ久保カラ出スコトニナルノダナ」答左様テスソシテ其七千五百圓ト云フハ今即座ニ出サストモ抵當ヲ其儘ニシテ置ケハ宜シイカラト申シテ居リマシタ」トノ記載ヲ採證セリ而モ立花徳次郎ノ豫審調書ノ如キ原院カ稱シテ最モ被告ニ不利益ナル證言トセルモノナリ其證據ニシテ猶ホ如斯原院カ認定シタル事實ニハ賣主ニ抵當債務辨濟金ヲ給付スヘキ特約ノ事實ナキヤ知ルヘキノミ既ニ此事實ナクンハ被告カ賣主吉兵衛ニ對シ詐欺取財未遂ノ告訴ヲナスニ責ムヘキ所ナリ從テ証告罪ノ成立セサル前途ノ如シ然ルニ原院カ之レヲ証告罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤アルモノト謂ハサルヘカラス原院判文全體ニ酌意セス其一端「代金ヲ二万六千圓ト定メ且其他ニ吉兵衛カ右宅地建家ヲ抵當トシテ横濱銀行並ニ青木金六ヨリ借受ケ居ル債務合計金七千五百圓ハ被告ニ於テ之レヲ負擔スルコト、ナシ則チ買人タル被告ヨリハ合計金二万八千圓ヲ岡田吉兵衛ヘ出金スル等ニテ右賣買契約ヲ締結シ云々」トアルニヨリ原院カ被告ヨリ賣主吉兵衛ヘ其抵當債務辨濟金ヲ給付スヘキ特約アル事實ヲ認メタリトスレハ之レカ理由ヲ明示セスンハアルヘカラス然ルニ其理由トスル所ハ前段ニ述フルカ如ク一モ茲ニ至ラス之レ明

カニ理由不備ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ハ單ニ立花徳次郎ノ證言ノミニ依據シタルニアラスシテ中島房五郎青木作三篠原丈太郎澤田高澄其他ノ證言及鑑定人ノ鑑定等ヲ參酌シ地所建物賣渡契約書ノ末段ノ文詞ヲ解釋シ被告カ岡田吉兵衛ヨリ買取リタル地所建物等ノ代價ハ二万六百萬ト外ニ抵當債務辨濟ノ爲メ七千八百圓ヲ負擔出金スヘキ契約ナリト認定シ其理由ヲ說示シタルヤ判文上明カナルヲ以テ之ニ基ク論難ハ畢竟事實ノ認定證據ノ取捨ニ對スル批難ニ外ナラス○辯護人齋藤孝治外二名上告趣意擴張ノ要旨ハ原判決理由中ニ「最モ被告ニ不利益ナル證言ヲ爲セル立花徳次郎ノ豫審調書ニハ其翌二十八日朝ニナツテ久保カ私方ヘ參リ升タカラ全體岡田ノ方ハ咄シハ堂ナツタト云ヒマス云々」要スルニ賣買代ハ金二万六百萬ノ外ニ七千五百圓ヲモ合セタル代金ナリトノ證言ヲ採用セラレ尙ホ「同人ノ檢事廷ニ於ケル聽取書並ニ前記民事訴訟記録中ニ於ケル同人ニ對スル訊問調書ニモ畧同一趣旨ノ供述記載アリテ當院ハ之ヲ信用スルニ足ルモノト認メタリ」トアリ事實ノ認定ハ承審官ノ權内ナリト雖モ抑モ原院モ說明セラル、如ク被告ニ最モ不利益ノ證言ヲ爲シタルハ立花徳次郎ナリ然ルニ同人ハ三度ノ證言即チ民事廷檢事廷豫審アリテ原院ハ三證言トモ畧ホ同一ニシテ信用スルニ足ルト説明セラレタリ然レトモ決シテ同一ノ證言ニ非スシテ右三度ノ證言ヲ比較スレハ被告ニ對シテ最モ不利益ナル賣買代金二万六百萬ノ外七千五百圓モ被告ノ引受ケタリシトノ事ノミハ一致スレトモ其他其事實ヲ聞知シタリトノ時日場所ハ勿論其抵當ニ差入アリシ事實ヲ被告ニ

於テ聞キタル事實ノ如キハ全ク支離滅裂シテ相齟齬セリ如斯證言ヲ採テ畧同一ノ證言ナリト説明セシハ結局裁判ニ理由ヲ付セズ若クハ理由ノ齟齬アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ所謂畧同一トアリテ全然同一ナリトハ說示セサルノミナラス刑ノ言渡ヲ爲スニ緊要ナリトスル點ニ付證言ノ同一ナルモノヲ採リ其必要ナラサル點ハ棄テ採用セザリシニ外ナラス畢竟本論旨ハ事實承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ニ對シ批難ヲ試ムルニ外ナラス○同辯明第一點ハ原判決ノ證據上ノ理由ニ岡田吉兵衛カ青木金六ヨリ二千五百圓許ノ抵當債務ヲ負擔セルコトハ同人ノ當公廷ニ於ケル其旨ノ證言ニヨリ何レモ明白ナルヲ以テ云々ト掲ケ岡田吉兵衛ノ供述ヲ以テ證言證據ノ效力アルモノト認メタレトモ同人ハ本件ノ民事原告人ナレハ只參考人トシテ訊問ヲ受ケ供述ヲ爲シタルニ止リ證言ヲ爲シタルモノニアラス故ニ同人ノ供述ヲ證言ノ效力アルモノト見做シタル原裁判ハ法律ニ違反セリト云フニ在レトモ○證言トハ必スシモ證人トシテ宣誓ノ上供述セシメタルモノ、ミテ言フニアラス參考人ノ供述タリトモ證憑トシテ採用スル以上ハ參考人ノ證言ナリト言フチ妨ケサルナリ乃チ原判決岡田吉兵衛ノ證言云々ノ文詞ハ參考人岡田吉兵衛ノ證言云々ノ謂ニ外ナラス其證人トシテノ證言ノ效力アリトシテ採用シタルモノニアラサレハ毫モ所論ノ如キ不法ナシ○同第二點ハ原院ハ民事訴訟事件ノ記録中宅地建物ノ價格ニ關スル鑑定人齋藤新次郎左右田金作原田久吉海老塚四郎兵衛飯泉金次郎ノ鑑定書ヲ本件ノ證據ニ採用セラレタリ而シテ民事訴訟法ニ依レハ鑑定人ノ選定ハ受訴裁判所之チナスヲ以テ本則ト

ナシ受訴裁判所カ其選定ヲ受命判事ニ委任シタル場合ニ限り同判事之レニ代ルコトヲ得ヘキモノナルニ右鑑定人ハ受訴裁判所ノ選定ニ出タルモノニアラスシテ受命判事大橋樹太郎ノ選定ニ係リシコトハ記録ノ證明スル所ナリ然ルニ營業品及債權ノ價格ニ關スル鑑定人ノ訊問調書ニハ「裁判長各鑑定人ニ右鑑定人ニ付テハ實地ニ付指示スヘシ受命判事ハ大橋判事トス」ト掲ケアルヲ以テ營業品及債權ノ價格鑑定ニ就キ受命判事ヲ指定セタル形迹アレトモ宅地建物ノ價格ニ關スル鑑定人ノ選定ヲモ同判事ニ委任スル旨ノ決定アルヲ視ス果シテ然ラハ同判事ハ受訴裁判所ノ委任ナクシテ妄リニ宅地建物ノ價格ニ關スル鑑定人ヲ選定シタルモノニシテ乃チ越權ノ措置ニ基キ成立シタル鑑定書ナレハ之ヲ適法證據ト認メ難シ左スレハ右鑑定書ハ直接取調アリタル民事訴訟事件ニ於テスラ之ヲ適法ノ證據方法トナス能ハサルノ書類ナルヲ以テ公訴事件ノ證據ニ之ヲ引用スルコト能ハサルヤ論ヲ俟タス故ニ原判決カ之ヲ民事訴訟事件ニ適法ナル鑑定書ト認メテ本件ノ證據ニ引用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○畢竟本論旨ハ本件記録ニ添付シアル民事訴訟記録ノ一部殊ニ明治三十年九月二十七日鑑定人石川倉次郎齋藤茂十郎須永米藏ニ鑑定ヲ命ジ之レニ告知シタル記載ノ部分ノミニ依據シ論難ヲ試ムルニ外ナラスシテ土地建物鑑定ニ付受命判事大橋樹太郎ニ委任シタル證據決定ナシトノ論據ト爲スニ足ラス原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ

辯護人石山彌平上告趣意擴張ハ原判決ハ「凡ソ賣買代價ハ賣主買主雙方ノ境遇其他諸般ノ事情ニヨリ

定マルヘキモノナレハ必スシモ相當價格ニ相當スルヲ必スヘキモノニ非サル云々」ト説明シナカラ後段ニ至リ漫然相當價格ニ近キ二万八千百圓ノ賣買代價ナリト認ムルハ普通ノ狀態ナレハナリトセリ是即チ一方ニ於テ賣買主雙方ノ境遇其他ノ事情ニヨリ價格ヲ定ムヘキコトヲ原則トシナカラ他方ニ於テ之ヲ省ミスシテ價格ノ認定ヲ下シタルモノナレハ即チ理由齟齬ノ判決タルヲ免カレズト云フニ在レトモ○相當價格ニ相當スルヲ必スヘキモノニ非ストノコト、相當價額ニ近キ二万八千百圓ノ賣買代價ナリト認ムトノコトハ毫モ齟齬スル所ナシ這ハ全ク事實認定ノ批難ニ外ナラス」辯護人齋藤孝治外三名同擴張ハ原院ノ説明中被告ノ告訴ハ假令其目的自己ノ負擔ヲ免カレントスルノ策畧ニ出ツルト雖モ苟モ不當ノ告訴ヲ爲スニ於テハ云々トアリテ要スルニ被告ノ告訴ハ自己ノ負擔ヲ免レントスル策畧ナルコトヲ認メラレタルモノナリ抑モ誣告罪ハ他ヲ陷害スルノ旨趣アルコトヲ要スルコトハ法則ノ明定アリ然ルニ被告ノ告訴ハ全ク自己ノ負擔ヲ免ル、爲メノ告訴ニシテ決シテ岡田吉兵衛ヲ陷害スルノ旨趣アリシニ非ラス又實ニ原院ノ説明中陷害スルノ意趣アリシ舉證及ヒ説明モ一切ナシ加之被告ノ告訴ハ證據ノ解釋ニ原シモノニシテ假令其解釋ニ誤リアリトスルモ必竟民法上ノ争ヒニシテ刑事ノ制裁アルモノニ非ラス從テ被告ノ詐欺取財未遂ノ告訴ハ法律上罪トナルモノニアラス然ルニ原院ノ判決ハ要スルニ契約ノ解釋ニ誤解アリト認メ被告ハ岡田吉兵衛ヲ陷害スル罪アリト判決セシハ一面誣告罪ノ要素ヲ度外ニ置キ一面罪トナラサル事項ヲ罰シタルモノニシテ甚ダ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○

苟モ詐欺取財未遂ナル不實ノ告訴ヲ爲スニ於テハ被告訴者ヲ輕罪ニ陷ラシムルノ意思アリト認定スルハ當然ニシテ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ他ハ證據ノ取捨事實ノ認定ニ對スル批難ニ過キヌ私訴上告趣意ノ要旨ハ事實ヲ誣告ナリト誤認シタルニ出タルモノナレハ是亦不法ナリト云フニ在リテ公訴上告論旨ニ對スル說明ニ依リ其理由ナキコトヲ了解スヘシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル私訴費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十四年十月二十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○賭博ノ件

明治三十四年十一月二十二日宣旨

○判決要旨

(判旨第七點) 現行犯トハ必スモ其現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際犯罪捜査ノ機ヲ有スル者ニ發覺セラル、コトヲ要スルモノニ非

ス 巡查カ賭博ノ現行犯アルコトヲ知リテ刑事訴訟法第五十八條及ヒ第五十九條ノ手續ヲ盡シタル場合ニ於テハ現行ノ賭博罪アリト

(參照) 司法警察官及ヒ巡查憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス可シ(刑事訴訟法第五十八條)

巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ(刑事訴訟法第五十九條)

項第一

(判旨第八點) 證據調ノ申請ニ對シ之ヲ聽許スル旨ノ決定ヲ爲シタル後同一ノ申請ニ對シ再ヒ同一ノ決定ヲ爲スモ其結果ハ同一ニ歸スルヲ以テ違法ニ非ス

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 高木久次郎 外二名 辯護人 高木益太郎

右賭博被告事件ニ付明治三十四年七月三日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告共ヨリ上告ヲナシタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告高木久次郎ノ上告趣意ヲ要スルニ其第一點ハ原判決ヲ見ルニ被告ハ安田ステ方ニ於テ金錢ヲ賭シ賭博ヲ爲シ居ル現場ヲ岐阜縣巡查ニ認知セラレ云々トノミアリテ如何ナル手段方法ニ依リテ賭博ヲ爲シタルヤチ説示セサルハ理山不備ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判決ニ依レハ被告等ハ金錢ヲ賭ケ骨牌ヲ以テ賭博ヲ爲シ居ル現場ヲ認メラレタル事實ヲ認定シアルヲ以テ其他ノ手段方法ヲ詳記セサルモ賭博ノ犯罪ヲ認メタル理由ニ於テ缺クル所ナキヲ以テ本論旨ハ理山ナシ

其第二點ハ原判決ハ公廷ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル骨牌目紙及ヒ金錢ヲ被告ヨシ辯解ヲ爲サシメサル不法アリト云フニアレトモ○原院公判始末書ニ依レハ骨牌賭錢等ハ之ヲ被告等ニ示シ辯解セシメタルコト明カナルノミナラス原判決ニハ之ヲ證據トシテ採用セサルヲ以テ假令之ヲ示シテ辯解セシメサルコトモ爲ノニ原判決ヲ不法ナリト云フヲ得ス

被告杉山政吉ノ上告趣意ヲ要スルニ其第一點ハ被告ハ賭場ニ於テ逮捕セラレタルモノニアラサルニ原院カ逮捕及告發調書ヲ罪證ニ供シタルハ不當ナリ」其第二點ハ原判決ニ採用シタル告發調書トハ何人ノ告發ナルヤチ明示セサルハ不當ナリ」其第三點ハ原判決ニハ賭博ノ點ハ云々ニ依リ明白ナリト判示シタルモ其明白トハ證據ノ十分チ云フカ又如何ナル事ノ明白ナルヤチ難シト云フニ在レトモ○第一點ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨ヲ論難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理山ナク第二點ハ逮捕及告發調書ハ巡查ノ告發ヲ受ケ司法警察官ノ作りタルモノナルコト該調書ニ依リ明白ナレハ判決書ニ何人ノ

告發ニ係ルカチ明示セサルモ理山不備トセス第三點ハ賭博ノ點ハ逮捕及告發調書並ニ證人高橋銀次郎ノ供述ニ依リ明白ナリト説示シタルハ則チ被告等カ賭博ヲナシタル犯罪事實ハ右證據ニ依リ明白ニ之ヲ認ムルヲ得トノ趣旨ナルヲ以テ右論旨ハ理山ナシ

同擴張書ノ趣旨第一點ハ原判決ニハ判事ノ臨檢ニ關スル裁判費用ハ何人ノ負擔ナルカチ明記セサル不法アリ」其第二點ハ證人高橋銀次郎ノ訊問調書ニハ臨檢判事及ヒ書記ニ於テ調印セヌ又其理山チモ附記セサルハ不當ナリト云フニ在レトモ○其第一點ハ原判決ニ判事ノ臨檢ニ關スル費用ノ負擔ヲ言渡ササリシハ則チ被告ニ之ヲ負擔セシメサルモノナレハ被告ニ於テ之ヲ非難シテ上告理山トナスヲ得ヌ又

其第二點ニ付證人訊問調書ヲ閱スルニ判事並ニ書記ノ署名捺印アルヲ以テ右論旨ハ謂ハレナシ被告三浦泰次郎ノ上告趣意ノ第一二點及ヒ同擴張趣旨ノ第一點ハ杉山政吉ノ上告趣意第一二點及ヒ同擴張趣旨第一二點ト同一ナルヲ以テ重テ説明セヌ」其擴張趣旨ノ第二點ハ原判決ニハ公訴裁判費用ノ言渡ヲ爲スニ法律ノ條項ヲ指示セサル不法アリト云フニアレトモ○原判決ニ依レハ刑法第四十五條第四十七條ニ依リ云々トアリテ則チ法律ノ條項ハ之ヲ明示シアルヲ以テ本論旨ハ謂レナシ

被告久次郎辯護人高木益太郎辯明書ノ一ハ第一審判決ノ證據ヲ説示スヘキ部ニハ單ニ「右ノ事實ハ逮捕告發調書檢證調書ニ前判示ト一致スル記載アルニ徴シ證據十分ナリ」トアルノミニテ右二個ノ調書中孰レノ記載カ孰レノ事實ト一致スルニヤ更ラニ證據ノ内容ヲ説示セサリシノミナラス其事實認定ノ

部ニ掲ケアル「骨牌金錢ハ其現場ヨリ押收セラレタルモノナリ」トノ點ノ如キハ逮捕告發調書中何等ノ記載ナキ所ナリトス故ニ原裁判ハ刑事訴訟法第二百三條ニ違反セリ（櫻井忠太郎件判決參照）ト云フニアレトモ

○第一審判決ニ「前判示ト一致スル記載」トアルハ則チ右逮捕告發調書及檢證調書ヲ畧記シタルモノナレハ證據ノ内容ヲ示サ、ルモノト謂フヲ得ス而シテ骨牌賭錢ノ現場ヨリ押收セラレタルモノナルコトハ檢證調書ノ記載ニ依リ之ヲ認メタルコト自カラ明カナルヲ以テ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不當トセス」其二ハ賭博罪ハ其現行ヲ犯罪搜查權ヲ有スル者ニ發覺シタル場合ニアラサレハ之ヲ罪トシテ論スヘキモノニアラス而シテ巡査ハ搜查權ヲ有セサルモノナレハ縱令本件ノ賭博ヲ巡査コト於テ認知シタリトスルモ上告人ニ對シ賭博罪成立シタルモノト云フ能ハサルナリ故ニ原裁判ハ不法タルヲ免カレスト云フニ在レトモ

○現行犯罪トハ必スシモ其現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際犯罪搜查ノ權ヲ有スルモノニ發覺スルコトヲ要スルモノニアラス何人ト雖モ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ハ現行犯ナル場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ逮捕スルヲ得ルコトハ刑事訴訟法第六十條ノ規定スル所ナレハ此場合ニ於テモ亦現行犯ナルコト勿論ナリ特ニ巡査憲兵卒ノ如キハ司法警察官ノ職務ヲ補助スヘキ者ナルヲ以テ荷モ現行犯アル事ヲ知りタルトキハ其被告人ヲ逮捕スルノ職責アルコトハ同法第五十八條ニ依リ明カナリトス故ニ本件ノ如ク巡査ニ於テ賭博ノ現行犯アルコトヲ知テ同條並ニ同第五十九條ノ手續ヲ盡シタル場合ニ於テハ則チ現行ノ賭博犯罪ナルヲ以テ原院カ之ヲ處罰シタルハ不法ニアラ

判旨第七點

判旨第八點

ス」其第三ハ原院ハ明治三十四年六月二十四日證人高橋巡査ノ取調ヲ必要ト認メ之ヲ呼出ス旨ノ決定ヲ言渡シ同年七月一日同巡査ノ證人トシテ出廷シタル際裁判長ハ再ヒ同一趣旨ノ證據決定ヲ言渡シテ如此一個ノ證據調ニ付再度同一ノ決定ヲ言渡スガ如キハ固ヨリ訴訟手續ニ違反スル不當ノ措置ナルヲ以テ此點ノ手續ハ之ヲ破毀セラレシコトヲ求ムト云フニ在レトモ

○本件證據調ノ申請ニ對シテハ已ニ之ヲ聽許スル旨ノ決定ヲ爲シタルモノナレハ同一ノ申請ニ對シテハ之ヲ棄却スルノ外ナキモノトス然レトモ再ヒ之ヲ聽許スル旨ノ決定ヲ爲スモ結局同一ノ結果ヲ生スヘキヲ以テ之ヲ違法ナリト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○詐欺取財及附帶私訴ノ件

明治三十四年九月第一一九六號
明治三十四年十月二十二日宣告

○判決要旨

同一裁判所ニ於テ判決言渡ヲ爲シタル後更ニ言渡ヲ爲スヲ得ス

二回ノ判決言渡

第一審 鹿兒島地方裁判所 第二審 長崎控訴院

公訴私訴上告人 田島助右衛門 外一名

私訴被上告人 田口アキ

右詐欺取財被告事件並ニ附帶私訴事件ニ付明治三十四年六月二十五日長崎控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ公訴ニ付テハ被告助右衛門金四郎ヲ各重禁錮四年罰金四十圓監視一年ニ處シ押收ノ金百二十圓借用證書ハ其變造ニ係ル部分ヲ沒收シ其餘ノ部分及債權讓渡證書ハ田島助右衛門ニ自明書ハ池ノ上藤左衛門ニ其他ノ物件ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用中金二圓ハ被告兩名ト前審相被告ト連帶負擔スヘク私訴ニ付テハ被告二名ハ相被告正之丞ト連帶シテ民事原告人ニ金八十二圓ヲ賠償シ田口アキヨリ東海ニテ宛金七十圓ノ借用證同アキヨリ萩原孝之進宛金六十圓ノ借用證各一通ヲ返還スヘク私訴裁判費用ハ第一二審分トモ被告二名及ヒ正之丞ニ於テ負擔スヘキ旨ヲ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告兩名ノ擴張書第八ハ本件判決言渡ノ時判事西野文市氏ヲ除キ四名ニテ言渡シ裁判所ノ構成ヲ欠クヲ以テ辯護人ヨリ其旨公判始末書ニ記載アラントテ請求シタリ然ル處其後ニ至リ更ニ西野判事若席ニ再ヒ言渡ヲ爲シタリ同一ノ裁判所ニ於テ同一ノ事件ヲ再ヒ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ原院ノ公判始末書ヲ閱スルニ原院ハ本件ニ付キ二回ノ判決言渡ヲ爲シタルモノニシテ第一回ノ言渡

ハ時ヨアリテハ判事西野文市欠席ノ爲メ定數ノ判事ヲ欠キタルニ依リ更ニ二回ノ言渡ヲ爲シ以テ第一回ノ手續ヲ更正シタルモノナリ然レトモ對審判決ハ言渡ニ依リ直ニ效力ヲ生スヘキモノナレハ同一裁判所カ一タヒ言渡ヲ爲シタル後更ニ言渡ヲ爲スニ於テハ自ラ爲シタル判決ノ效力ヲ減殺シ爲メニ判決ハ威信ヲ保ツコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ裁判所ハ自カラ爲シタル判決ニ羈束セラレサル可ラサルモハトス依テ第二回ノ判決ハ之ヲ破毀セサル可ラサルノミナラス第一回ノ判決モ亦其ニ上告ニ係リ而シテ右ニ謂フ如ク判事ノ定數ヲ欠キ裁判所構成法第四十條ニ違背スルヲ以テ同ク不法ノ判決タルヲ免レスシテ上告ハ其理由アルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スル以上ハ他ノ論點ニ對シ説明スルノ要ナ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ公私訴ノ原判決ヲ破毀シ事件ヲ廣島控訴院ニ移ス

明治三十四年十月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事奥宮正治立會宣告ス

○毆打創傷ノ件

明治三十四年九月二十四日第一三五四號
明治三十四年十月二十四日宣告

○判決要旨

(判旨第四點) 宣誓書カ豫審調書ニ添附シアリテ其調書ニ本人記名スルコト能ハサルニ依リ代書スト附記シアル上ハ重ネテ宣誓書ニ其附記ナキモ違法ニ非ス

(判旨第六點) 豫審調書ニ判事竝ニ書記ノ署名捺印アリテ適式ニ作成セラレ居ル上ハ其調書ノ末尾ニ出張先ニ係ルヲ以テ廳印ヲ捺捺セストノ附記アリテ其附記ノ末尾ニ特ニ判事竝ニ書記ノ署名捺印ナキモ違法ニ非ス

第一審 静岡地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 吉村常三郎 辯護人 關口治三郎 櫻井鐵三

右毆打創傷事件ニ付明治三十四年九月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲナシタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

辯護士關口治三郎櫻井鐵三上告趣意書ノ第一ハ原院ノ判決ニ被告ハ甚藏ヲ土間ニ突倒シ同時ニ足ヲ以テ同人ノ左腋下線部ヲ蹴リタル爲メ云々ト事實ヲ認メ其證據ニ手塚甚藏ノ告訴狀ヲ援用シ告訴狀ニ依

レハ云々被告ハ突然自分ヲ土間ニ突キ倒シ同時ニ右足ヲ以テ肋骨ヲ蹴リタルモ當時ハ左程ニ苦痛ヲ感セザリシカ爲メ自分モ憤激ノ餘リ防禦セントセシモ老體ニテ意ノ如クナラス被告ノ爲メ組伏セラレタル折柄大村吉松ノ救ヲ得タル旨ノ記載アリトノ事ヲ掲ケ次ニ同人ノ豫審調書ニハ右ト同趣旨ノ供述ヲ錄取シアリト掲ケタリ而シテ此ニ所謂同趣旨ノ供述トハ承審官ノ意中ニ於テ同趣旨ノ供述ナリト認メタルニ過キスシテ其如何ナル譯合ナリシカ故ニ同趣旨ノ供述ナリト認メタリトコトヲ判示セス即チ證據ニ依リテ其事實ヲ認メタル理由ヲ明示セサル違法ノ裁判ニシテ刑事訴訟法第二百六十九條第九號ニ所謂裁判ニ理由ヲ付セサルモノトスト云フニ在レトモ○證據ノ趣旨ヲ解釋シテ之ヲ罪證ニ供スルハ原院ノ職權ニ專屬スルモノナレハ其供述ノ趣旨ニシテ同一ト認メ得ラルヘキ以上其供述ヲ再記セスシテ單ニ同趣旨ノ供述ト畧記スル素ヨリ妨ケアルコトナシ故ニ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ』其第二ハ原院ノ判決ニ大村吉松ノ豫審調書ニハ自分カ被告宅前ノ人力車停車場ニ居リタルニ何ニカ喧嘩スル様子ナリシヲ以テ駈ケ行キタルニ甚藏ハ救居ノ所ニ北ヲ枕ニシ仰向ニ爲リテ常三郎ノ爲メニ組伏セラレ咽喉ノ所ヲ押ヘラレ居リタルヲ以テ自分ハ之ヲ離シタル旨ノ同人ノ供述ヲ錄取シアリ又證人長谷川芳五郎ハ當公廷ニ於テ被告カ甚藏ヲ組伏セ居タルヲ引離シタル旨證言シトノ事ヲ掲ケタリ則チ此證據ニ依レハ甚藏カ救居ノ所ニ組伏セラレ居タルコトヲ認ムルヲ得テ土間ニ組伏セラレ居タルコトハ之ヲ認ムルヲ得ズ則チ全ク其狀態ヲ異ニス然ルニ如何ニシテ其救居ノ所ニ組伏セラレ居タリト云フハ則チ土

間ニ組伏セラレ居タルモノナリト認ムルヤノ説明ヲ爲サス漫然此等ノ各證憑ニ依レハ被告カ其藏ヲ毆打シタルノ事實ヲ認定スルニ十分ナリト斷下シタルハ證據ニ依リテ其事實ヲ認メタル理由ヲ明示セサル違法ノ裁判ニシテ刑事訴訟法第二百六十九條第九號ニ所謂裁判ニ理由ヲ付セサルモノ否ラサレハ理由ニ齟齬アルモノトスト云フニ在レトモ〇本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ存スル證據ノ取捨判斷ニ對スル論争ニ過キサルモノナレハ適法上告ノ理由トナラス

辯護人櫻井鐵三辯明書ノ要旨第一ハ證人手塚甚藏ノ豫審調書ノ末尾ニ記名スル能ハサルニ依リ代書ストノミ記載シアリテ其事由ヲ附記セザリシハ違法ナリト云フニ在レトモ〇署名ニ能ハサル旨ノ附記アル上ハ即チ代書ノ事由ヲ記載シアルモノナレハ其事由ノ記載ナキモノト云フヲ得ス」其第二ハ同證人ノ宣誓書ニ記セル手塚甚藏ナル文字ハ裁判所書記ニ於テ代書シタルモノナルニ同書記ニ於テ其旨ヲ附記セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇該宣誓書ハ豫審調書ニ添附シアルモノニシテ其豫審調書ニ前掲ノ如ク本人記名スルコト能ハサルニヨリ代書ストノ附記アル上ハ重ネテ該宣誓書ニ其附記ナキヲ以テ違法ト云フヲ得ス」其第三ハ同證人ノ第二回豫審調書ニハ刑事訴訟法第二百二十三條第二百二十四條ノ取調ヘテ受ケタルコトノ記載ナシ之レ違法ノ調書ナルニ之レヲ採テ罪證ニ供セシハ不法ナリ何トナレハ第一回訊問ヲ受ケタル後證人タルノ資格ニ關スル事柄ヲ發生スルコトナシト必スヘカラサレハナリト云フニ在レトモ〇第一回訊問ノ際其資格ニ付テノ問查ヲ爲シタル上ハ第二回以下ニ於テ重ネテ

判旨第四點

判旨第六點

之ヲ爲スノ要ナシ而シテ證人手塚甚藏ハ第二回訊問ヲ受ケルニ際シ證人タル資格ニ變更ヲ生シタルコトノ見ルヘキナケレハ同豫審調書ノ無効ヲラサルコトハ勿論從テ原院カ之ヲ罪證ニ供セシハ不法ニアラス」其第四ハ證人手塚甚藏並ニ鑑定人都田高三郎ノ豫審調書ノ末尾ニ出張先キニ係ルヲ以テ應印ヲ捺捺セストアリ而シテ此事由ヲ認證シタル判事並ニ書記ノ署名捺印ナキヲ以テ即チ事由ヲ記セシテ官廳ノ印ヲ用非サルモノトス因テ同調書ハ無効タルヘキモノナルニ原院カ右等ノ調書ヲ罪證ニ供セシハ不法ナリト云フニ在レトモ〇右等ノ調書ハ共ニ判事書記ノ署名捺印アリテ適式ニ作成セラレタルモノナレハ應印ヲ捺捺セストノ附記ノ末尾ニ尙ホ其署名捺印ナシトテ其事由ヲ記セサルモノト論斷スルヲ得ス故ニ右等ノ調書ハ所論ノ如ク無効ニ歸スヘキモノニアラサレハ原院カ之ヲ罪證トセシハ不法ニアラス」其第五ハ證人手塚甚藏ノ第一二回豫審調書鑑定人都田高三郎ノ豫審調書ハ何レモ之ヲ作リタル年月日及ヒ場所ノ記載ナキモノニシテ違法ノ調書ナルニ原院カ之ヲ證據ニ援用セシハ不法ナリト云フニ在レトモ〇各調書ニ付之レテ查スルニ何レモ其初項ニ於テ年月日及ヒ場所ノ記載アリテ其年月日等ハ即チ該調書ノ作製セラレタル年月日及ヒ場所ナレハ本論旨ハ謂レナシ

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○市町村會議員選舉罰則違犯ノ件

明治三十四年九月二十五日官告

○判決要旨

市町村會議員選舉罰則第五條ニ依リ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ處斷スル場合ニハ特ニ同則第二條ヲ引用スルヲ要セス

(參照) 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ(市町村會議員選舉罰則第二條)

第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ違シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス(市町村會議員選舉罰則第五條) 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二百)

第一審 廣島地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 木村五作 辯護人 花井卓藏 高野金重

外四名

右市町村會議員選舉罰則違犯被告事件ニ付キ明治三十四年八月二十八日廣島控訴院ニ於テ被告檢本久藏堅田榮之助ノ控訴ハ之ヲ棄却ス原判決中木村五作寺岡喜代三伴兵右衛門ニ對スル部分ハ之ヲ取消シ被告五作ヲ輕禁錮三月ニ處シ罰金五圓ヲ附加ス被告喜代三兵右衛門ヲ輕禁錮二月ニ處シ罰金三圓ヲ附加ス抑收ニ係ル第三號乃至第五號ノ金員ハ之ヲ沒收シ第一號ノ金員ハ差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

各被告ノ上告趣意書ハ原判決證據ノ部ニ被告喜代三ノ聽取書堅田榮之助ノ聽取書其他某々ノ聽取書トアレトモ被告人カ他人ノ言ヲ聽取リテ之ヲ書面トナシタルモノ一件記錄中曾テ之ヲ是レ架空ノ物件ヲ證據トナシタル不法アリ尤モ司法警察官又ハ檢事ノ聽取書ナルモノハ記錄中ニアレトモ之ヲ指シタルモノニアツサルコトハ被告某ノ聽取書ト明言シタルニ徴シテ明カナリト云フニ在レトモ○原判決ニ被告某ノ聽取書ト掲ケタルハ被告等自身カ作製シタル聽取書ヲ指示シタルモノニアラス司法警察官ノ作製シタル被告某ノ聽取書ナルコトハ記錄ニ徴シテ明白ナレハ原院ハ架空ノ文書ヲ證據トセシモノニアラス

辯護人擴張書第一點ハ裁判所書記ハ公判始末書ヲ作り被告人ノ訊問及其供述ヲ記載スヘキモノナルコト刑事訴訟法第二百八條ノ規定スル所ナリ而シテ此規定ハ命令的ノモノナルカ故ニ之ヲ記載チ省畧ス

ルコトヲ許サス然ルニ本件ニ於ケル原院ノ公判始末書ヲ見ルニ「裁判長ハ原判決ニ記載アル犯罪事實ヲ舉示シ詳ニ被告人共ニ問テ爲シタルニ」各被告人ハ一々答辯シタリ其要旨ハ原審公判始末書ノ通ナリキト記シ其問答ノ内容ヲ示サ、ルカ故ニ如何ナル問ニ對シ如何ナル答ヲ爲シタルヤヲ知ルニ由ナシ偶第一審公判始末書ニ依リ其要旨ハ之ヲ知り得ヘシトスルモ前掲法條ハ決シテ斯ル引用ヲ許サス若シ之ヲ許ストセハ警察ノ聴取書モ之ヲ引用スルヲ得ヘク且第二審ニ於ケル公判ノ始末ハ盡ク第一審ノ始末書ヲ引用スルコトヲ得ヘク刑事訴訟法ノ規定ハ全ク其用ナキニ了ルヘシ如此ハ豈ニ立法ノ精神ヲシヤ從テ本件原判決ハ訴訟手續ニ違背シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ見ルニ論旨ノ如キ記載アリテ稍々簡單ニ失スルノ嫌ナキニシモアラサルモ裁判長カ被告人ヲ訊問シタル趣旨及被告人ノ陳述シタル趣旨ハ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ敢テ訴訟手續ニ違背セリト云フヲ得ス

第二點ハ被告五名ノ所爲ハ市町村會議員選舉罰則第五條ニ違犯スルモノトシテ同條ヲ適用セラレタリ而シテ同條ヲ適用スル場合ニ於テハ同罰則第二條ヲモ適用セサルヘカザサルモノトス然ルニ原判決爰ニ出テサルハ法則ヲ適用セサル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○市町村會議員選舉罰則第五條ニ第二條第三條第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ストアレハ第二條ノ目的ヲ記載シタルト同一ナルヲ以テ殊更ニ第二條ヲ引用スルハ必要ナク而シテ被告五作ハ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人ニ金錢ヲ交付シ喜代三外三名ハ五作ニ投票

票ヲ得セシムル目的ヲ以テ金錢ヲ收受シタル者トシテ處罰シタルコトハ判文ニ徴シテ明白ナレハ法律ノ理由ニ於テ欠クル所ナシ

第三點ハ原判決ニ「然レトモ被告木村五作寺岡喜代三ノ所爲ハ一罪伴兵右衛門ノ所爲ハ二罪ナルニ原裁判所カ云々失當ノ判決ニシテ云々」ト判示シ第一審ノ判決ヲ取消サレタリ抑原判決ヲ取消ス場合ニ於テ詳カニ其理由ヲ示サ、ルヘカザル本件原判決カ右木村五作ノ所爲ハ何故ニ一罪ナルカ伴兵右衛門ノ所爲ハ何故ニ二罪ナルカヲ詳悉セサルハ理由ニ不備ナル判決ナリト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ然レトモ木村五作寺岡喜代三ノ所爲ハ一罪伴兵右衛門ノ所爲ハ二罪ナルニ原裁判所カ五作喜代三ノ所爲ヲ前後ノ二段ニ別テ兵右衛門ノ所爲ヲ前中後ノ三段ニ別テ各其前段ニ付明治二十三年法律第三十九號第二條第一項ヲ適用シ兵右衛門ノ中段ノ所爲及五作喜代三ノ後段ノ所爲ニ付同法律第五條第十九條刑法第二百三十四條及ヒ刑法第百條ヲ適用處斷シタルハ失當ノ判決ナリトアリテ其取消シタル理由ハ已ニ斯ノ如ク明示シアル已上ハ何故ニ一罪ナリヤ又二罪ナルヤノ如キハ之ヲ示スノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十月二十五日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○紙幣模造取締法違反ノ件

明治三十四年九月二十五日宣旨

○判決要旨

通貨及ヒ證券模造取締法第一條ハ其目的ノ如何ヲ問ハズ苟モ兌換銀行券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シタル以上ハ之ヲ處罰スル趣旨ナリトス

(參照) 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス(通貨及證券模造取締法第一條)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 秋山長次郎 辯護人 高木益太郎
外一名

右紙幣模造取締法違反事件ノ控訴ニ付明治三十四年八月三十一日大阪控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ被告兩名ヲ各重禁錮一月罰金五圓ニ處シ押收ノ廣告紙ヲ沒收スル旨言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲナシテ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣意書ノ要旨第一ハ原判決ニ依レハ原院ノ認メタル兌換券ハ和氣清麿公ノ肖像アルモノヲ指シタ

ルモノナラン然レトモ上告人カ製造シタル廣告紙表面ニハ豐臣秀吉公ノ肖像ヲ畫キ彩色モ拙ク其他種種異ナル所アリテ何人ト雖モ一見廣告紙ナルコトヲ知ルヲ得ヘシ然ルニ原院ハ日本銀行十圓兌換券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノト誤認シ且其何種類ニ屬スルヤノ理由ヲ明示セサルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○日本銀行十圓兌換券ニ紛ハシキモノヲ製造シタル事實即チ本件罪トナルヘキ事實ヲ明示シタル以上ハ其何種類ニ屬スルヤヲ詳示セサルモ事實ノ理由ニ缺クル所ナキヲ以テ原判決ハ違法ニアラス他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス○第二ハ上告人ハ日本銀行十圓兌換券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル廣告紙製造ヲ依頼シ又依頼ニ應シタル如ク自白シタルコトナキニ原判文ニ上告人カ其自白ヲ爲シタルモノ、如ク掲ケ且ツ其下ニ上告人カ右廣告紙ハ日本銀行十圓兌換券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノニアラスト辯解スルヲ以テ云々ト掲ケタルハ理由ニ齟齬アル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ檢スルニ被告等カ本件時計販賣廣告紙ヲ製造セシ手續ニ付テハ原判文ニ認メタルカ如ク自白ヲ爲シタル旨ノ明記アルヲ以テ原判文ニ「以上ノ事實中時計販賣廣告紙ヲ製造セシ手續ハ被告兩名ニ於テ前記ノ如ク自白スルニ依リ之ヲ認ムルニ足レリ」ト掲ケタルハ不當ニアラサルノミナラス被告等ハ右廣告紙ヲ製造セシ手續ハ自白スト雖モ右廣告紙ハ日本銀行十圓兌換券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノニアラスト辯解シタルヲ以テ原院ハ前掲記事ノ下ニ「然ルニ被告兩名ハ右廣告紙ハ日本銀行十圓兌換券ニ紛シキ外觀ヲ有スルモノニアラスト辯解

スルヲ以テ云々」ト掲ケタルモノニシテ其理由ニ於テモ前後齟齬シタル廉アル事ナケレハ本論旨ハ其謂ハレナシ」第三ハ紙幣模造取締法ナルモノハ之レナキニ第一二審裁判所カ其名稱ノ下ニ公訴ヲ受理判決シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○記録ニ依リ本件犯罪ノ公訴アリタルコト明カナル以上ハ縦令ヒ檢事ノ付シタル訴名ニ誤謬アリトスルモ之レカ爲メ其公訴ノ無効タルヘキ謂ハレナキヲ以テ第一二審裁判所カ之ヲ受理判決シタルハ不法ニアラス」第四ハ中庭常吉ハ廣告紙調製ヲ依頼シタルモノナルニ之ヲ製造シタルモノ、如ク明治二十八年法律第二十八號第一二條ヲ適用處斷シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告常吉ハ秋山長次郎ニ依頼シ同人ヲシテ日本銀行十圓兌換券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル時計販賣廣告紙二萬餘枚ヲ製造セシメタルモノニシテ人ヲシテ之ヲ製造セシメタリト雖モ被告ニ製造ノ責任アルハ勿論ナルヲ以テ原院カ明治二十八年法律第二十八號第一二條ヲ適用處斷シタルハ不當ニアラス

辯護人高木益太郎上告辯明書第一ハ明治二十八年法律第二十八號ニ所謂模造券製造ノ所爲ヲ處罰スルニハ之ヲ販賣スルノ目的ヲ以テ製造シタル事ヲ要シ其目的ノ如何ヲ問ハス只製造ノ一事ヲ以テ罰スルモノニアラス然ルニ原院ハ被告カ模造券製造ノ目的如何ヲ問ハス之ヲ處罰シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法第一條ニハ「云々兌換銀行券云々ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス」トアリテ其目的ノ如何ヲ問ハス苟

ハモ兌換銀行券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シタル以上ハ之ヲ處罰スルハ趣旨ナル事ハ自ラ明カナルヲ以テ本論旨ハ相立タス」第二ハ原告判始末書ニ依レハ本件判決言渡ノ際立會タル檢事ハ國分三亥氏ナルニ原判決原本ニハ同檢事ノ氏名ヲ掲ケアラサルヲ以テ即チ原判決ハ刑事訴訟法ノ規定ニ違反セリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百五條ニハ「判決原本ニハ云々其事件ニ干與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載シ云々」トアリテ判決原本ニハ事件ニ干與シタル檢事一名ノ官氏名ヲ記載セハ足ルヲ以テ原院カ本件ノ辯論ニ干與シタル檢事小川正治ノ官氏名ヲ判文ニ掲ケタル以上ハ判決ノ言渡ニ立會ヒタル檢事國分三亥ノ官氏名ヲ掲ケサルモ違法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十四年十月二十五日於大審院第二刑事部公庭檢事與宮正治立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治三十四年九月二十九號
明治三十四年十月二十八日宣告

○判決要旨

遺失物法第十二條ノ所謂誤テ占有シタル物件ニハ受領者ノ錯誤ニ

錯誤ノ占有

非スシテ交付者ノ錯誤ニ依テ之ヲ占有シタルモノヲモ包含ス

(參照) 誤テ占有シタル物件他人ノ匿去リタル物件又ハ逸走ノ家畜ニ關シテハ本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス(遺失物法第十二條)

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 關和長七 辯護人 高木益太郎

右竊盜被告事件ニ付明治三十四年八月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ハ原判決ハ遺失物法ヲ不當ニ適用シタル違法アリト云フニ在レトモ其違法ノ點ヲ指示セザルヲ以テ説明ヲ付スルニ由ナシ辯護人高木益太郎辯明ハ原院ハ本件被告ノ所爲ヲ以テ遺失物法第十二條ニ該當セルモノトナスモ同條ハ誤テ占有シタル物件ヲ隱匿シタルモノヲ罰スルニ在リ然ルニ本件被告ノ所爲タル神澤直三郎カ被告ニ交付シタル過剰金タルヲ知テ之ヲ受領シ之ヲ隱匿シタルモノニシテ彼是其場合ヲ異ニセリ即チ誤テ占有シタルモノハ其當時占有ノ意思ナキモ之ニ反シ過剰金タルヲ知テ之ヲ受領シタル場合ニハ占有ノ當初ヨリ占有ノ意思アリシモノナリ然ルニ之ヲ混同シテ遺失物法第十

二條ヲ適用シタル原判決ハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアレトモ○遺失物法第十二條ノ所謂誤テ占有シタル物件トハ受領者ノ錯誤ニアラスシテ交付者ノ錯誤ニ出テ之ヲ占有シタルモノヲ包含ス即チ本件神澤直三郎カ誤テ過剰金タル金額ヲ占有シ以テ隱匿シタル被告ノ行爲ニ對シ同法第十二條同法第十六條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ原判決ハ所論ノ如キ不法ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○財産隠匿ノ件

明治三十四年十一月二十九日宣告

○判決要旨

家資分散(刑法第三百八十八條)トハ強制執行處分ニ依リ債務ヲ辨濟スル資力ナキ狀況ヲ指稱スルモノトス從テ刑法ノ家資分散ニ關スル罪ハ家資分散ノ決定宣告前ニ於テ成立ス

家資分散

(参照) 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス(刑法第三百八十八條)

第一審 山口地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 西村文之進 外一名

右財産隠匿被告事件ニ付キ明治三十四年八月二十六日廣島控訴院ニ於テ控訴棄却ヲ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シ本院檢察ハ附帶上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ハ不法ニ事實ヲ認定シ法律ヲ適用シタル裁判ナリト云フニ在リテ其違法ナリトスル點ヲ指摘セサルヲ以テ論旨ノ當否ヲ判スルニ由ナク上告ノ理由ナキモノトス
被告次助ノ辯明書ヲ要スルニ被告カ第一回豫審調書ニ文之進ヨリ買受タル田畑宅地ハ何反何畝歩ナルヤ知ラスト陳述シタルカ如ク記載アルモ之レ誤記且讀聞ケノ際聞キ誤リタルモノニシテ該賣買證書ハ入櫃ノ際携帶シ第二回豫審廷ニ於テハ自カラ差出シタルモノナレハ畝歩棟數等ヲ知ラサルノ理ナシ右ノ事實ナルヲ以テ前陳述ヲ取消シ被告ノ上申ヲ採用セラレタシト云フニ在レトモ○本院ハ事實ノ審理ヲ爲ス所ニアラサルヲ以テ之ヲ採用スルニ由ナシ

辯護人加藤亮吉ノ擴張書第一ハ家資分散ノ際財産隠匿罪ヲ構成スルニハ家資分散ノ事實アルコトヲ要スルハ御院ノ判例タリ而シテ家資分散ノ事實トハ家資分散法第一條前段ノ事實ヲ指稱スルコトモ亦御院判例タリ單ニ其財産カ負債ト比較評價シテ負債額ヨリ少額ナリト云フヲ以テ家資分散ノ事實アリト云フ可カラス債務者ノ總テノ財産ニ對シテ強制執行處分ヲナシ然レ後尙ホ辨濟シ盡サ、ルトキ始メテ家資分散ノ事實ヲ生シタルモノトス然レハ未ダ強制執行處分ヲ受ケサル債務者ノ財産アルトキハ未ダ家資分散ノ事實ナキカ故ニ財産隠匿罪ヲ構成セサルモノトス然ルニ原院判決ヲ案スルニ被告文之進カ宅地二畝十五歩ヲ所有スルコトハ原院ニ於テ認メラレタル事實ナリトス此ノ如ク被告文之進ハ有體動産ニ對シテ強制執行ヲ受ケタルニ止マリ不動産ナル前記宅地ヲ所有シ而カモ此宅地ニ對シテ未ダ強制執行處分ヲ受ケサルカ故ニ家資分散法第一條前段ノ事實即チ家資分散ノ事實アリト云フヲ得ス(實際ニ於テモ右宅地ノ競賣代金ヲ以テ被告カ執行ヲ受ケタル債務ヲ辨濟シ餘剩アリト信ス)然ラハ家資分散ナキニ拘ラス被告文之進ニ對シテ同條第二項ヲ適用シ有罪ノ裁判ヲ爲シタル原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原院ノ認定ニ依レハ宅地二畝十五歩ハ相被告次助ニ抵當トナシタル如ク假裝シ置キタルニ依リ強制處分ノ際債務ノ辨濟ニ充ツヘキ動産不動産ナキニ至リタルモノナリ故ニ家資分散法ノ所謂強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ形狀ニ在リテ家資分散ノ事實アルモノナレハ原判決カ有罪ノ處斷ヲ爲シタルハ違法ニアラス

家資分散

第二ハ原判決ヲ案スルニ「有體動産云々且ツ其他債務ノ辨濟ニ充ツヘキ動産不動産無ク云々」ト説明セリ然レトモ被告文之進所有ノ不動産即チ宅地二畝十五歩アルコトハ「被告文之進所有ノ云々宅地二畝十五歩ヲ抵當トシ云々同三十二年一月六日云々其抵當權設定ノ登記ヲ受ケタリ」トノ説明ニ依リテ明カナルカ(抵當權ノ設定アルモ所有權ハ依然トシテ被告文之進ニ存ス)故ニ原判決カ被告文之進カ不動産ヲ有スルコトヲ認メタルニモ拘ハラズ其後段ニ於テ不動産ナシト判示シタルハ理由ノ齟齬アル判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ趣旨ハ二畝十五歩ノ宅地ヲ所有スルモ表面上相被告次助ニ抵當トナシアリテ同人ノ債務ニ宛タル殘餘カ債權者金重松五郎外十一名ノ債權ヲ辨濟スルニ足ルモノナク且ツ他ニ辨濟ニ充ツヘキ動産不動産ナシト云フニ外ナラサレハ事實ノ理由ニ齟齬スル所ナシトス

同追加擴張書ノ第一ハ原判決ハ「有體動産ニ對スル強制執行處分ニ着手シタルモ一モ差押フヘキ物ヲ發見セス爲メニ執行處分ヲ止メ且其他ニ債務ノ辨濟ニ充ツヘキ動産不動産ナク被告文之進ハ家資分散ノ狀況ニ在リ云々」トアリ然レトモ人ノ財產ハ動産不動産債權ノ種別アリテ假リニ動産不動産ナシトスルモ債權ニシテ能ク負債ヲ辨濟スルニ餘リアルトキハ家資分散ノ事實ナキモノトス故ニ上告人等ハ第一審廷ニ於テ債權證書ヲ呈出シ(其證書ハ證據物件トシテ押取セラレアリ)且ツ數名ノ證人ヲ申請シ訊問セラレタリ實ニ第一審以來被告文之進ハ債權ヲ以テ負債ヲ辨濟シテ餘アルカ故ニ家資分散ノ事實ナキ事ヲ被告等唯一ノ主張トシタルニ拘ハラズ原判決ニ於テハ債權ノ存否ニ付キテハ何等ノ説明ヲ爲

サスレテ家資分散ノ狀況ニ在リト判決シタル理由不備ノ違法アリト云フニ在レトモ○判文全體ニ依リ債務ノ辨濟ニ充ツヘキ動産不動産ナシト記載シタルハ一モ辨濟ニ充ツヘキ財產ナカリシコトヲ意味スルモノナルコト明カナレハ債權モナカリシコト明白ニシテ家資分散ノ狀況ニ在リシ事實ニ於テ理由ニ欠クル所ナシトス

第二ハ原判決ハ「春日敏太郎ノ豫審調書中ニ云々」トアリテ同人ノ豫審調書ヲ罪證トセリ然レトモ春日敏太郎カ證人ナルヤ又ハ參考人ナリヤヲ明示セス故ニ春日敏太郎ノ豫審調書ナルモノハ本件ノ豫審調書ナルヤ又ハ他ノ事件ノ豫審調書ナルヤ將テ證人調書トシテ罪證ニ供シタルカ又ハ參考人調書即チ參考證トシテ罪證ニ供シタルカ原判文ニハ到底之ヲ看取スルヲ得ス故ニ果シテ正當ナル證據ニ因リテ認定シタルヤ其理由ノ説明不備ノ違法ナル判決ナリト云フニアレトモ○春日敏太郎ハ本件ノ證人ナルコトハ訴訟記録ニ依リ明瞭ニシテ原院ハ其證人ノ豫審調書ヲ採用シタルコト疑ヲ容ルヘキナク判文ニ證人タルコトノ記載ナキモ之ヲ以テ理由ノ不備ナリトセス

第三ハ家資分散ニ關スル犯罪ハ家資分散ノ事實アルコトヲ要ス故ニ此ノ事實ノ存在ハ本件犯罪構成ノ一要素ナリ然ルニ第一審判決ニハ「有體動産ニ對スル強制執行處分ニ着手シタルモ一モ差押フヘキ物ヲ發見セス執行處分ヲ止メタルモノニシテ」トアルニ止マリ家資分散ノ事實ノ存在ニ付テハ説明ナシ而シテ原判決ニハ「被告文之進ハ家資分散ノ狀況ニ在リタルモノニシテ」ト説明シ第一審判決ト符合

セサルニモ係ハラヌ其後段ニ於テ漫然「右ニ符合スル原判決ハ相當ニシテ云々」トアリテ理由由齟齬ノ
 違法アル判決ナリ若シハ第一審判決カ理由不備ノ違法アルニモ拘ハラヌ被告ノ控訴テ理由ナキモノ
 トシテ棄却シタルハ刑事訴訟法第二百六十一條ニ違背シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○第一
 審判決ヲ查スレニ其認定シタル事實ニ依リ家資分散ノ狀況ニ在ルモノナルコト明カナレハ只第二審判
 決ト判文ニ精粗ノ別アルノミニシテ認定又ハ判斷ヲ異ニシタルモノニ非サルヲ以テ論旨ノ如キ違法ノ
 點ナシ

第四ハ原判決ハ「右地所ノ外ナル被告文之進所有殘部悉皆ノ不動産(中畧)ヲ抵當トシ金五十圓ヲ借用
 シタル如ク假裝セル三十三年一月四日附被告文之進ヨリ被告次助宛ノ借用證書ヲ作り(中畧)其抵當權
 設定ノ登記ヲ受ケタリ」トアリ然レトモ如何ナル證據ニヨリ金五十圓ノ貸借カ假裝ナリト認メタルカ
 說不無シ想像ニ依リテ事實ヲ認定シタル不法アルモノニシテ刑事訴訟法第二百三條ノ證據ニ依リテ認
 メタル理由ヲ説明スヘシトアルニ違背シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○五十圓ノ貸借カ假裝
 ナルコトハ判文所載ノ被告等ノ自認ト他ノ證據トヲ綜合シテ認定シタル旨ノ說示アルヲ以テ刑事訴訟
 法第二百三條ニ背原シタル點ナシトス
 本院檢事ノ附帶上告ノ趣旨ヲ要スルニ刑法第三百八十八條ヲ適用スルニハ家資分散ノ事實アルノミニ
 テテ足レリトセス家資分散ナル裁判上ノ手續ヲ經分散者タル決定ノ宣告アルニ非サレハ右法條ヲ適用

スルコトヲ得ス尙ホ破産ノ場合ニ於ケルト同一ナリ然ルニ原判決ハ單ニ家資分散ノ狀況ノミニテ認定シ
 右法條ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○家資分散法ヲ按スルニ強制執行處分ニ因リ債務ヲ
 辨濟スルノ資力ナキ者ノ財産上ノ處分ヲ規定シタルモノナク只其第四條ニ規定スル如ク無資力トナリ
 タルモノニ公權喪失ノ制裁ヲ加ヘル爲メノ法律ニ外ナラス然ラハ家資分散ナル事實ハ此法律ヲ適用シ
 分散ノ決定ヲ爲ス以前已ニ存在シ其決定ヲ以テ始メテ家資分散アリト謂フヲ得ス故ニ刑法第三百八十
 八條ノ家資分散モ亦強制執行處分ニ依リ債務ヲ辨濟スルノ資力ナキ狀況ヲ指稱スルモノト解スヘケレ
 ハ原院カ強制執行ノ結果無資力トナリタル事實ト財產隱匿ノ事實トヲ認定シ刑法第三百八十八條ヲ適
 用シタルハ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十四年十月二十九日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○大審院刑事部裁判長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長

部長

部員

判事 原田種成

判事 小松弘隆

判事 永井岩之丞

判事 伊藤悌治

判事 井原師義

判事 末弘嚴石

本部ノ開廷

月曜日

木曜日

本部ノ所管

刑事部氏名表

東京控訴院

宮城控訴院

函館控訴院

第二刑事部

裁判長

部長

部員

判事 長谷川 喬

判事 岩田武儀

判事 木下哲三郎

判事 津村 董

判事 鶴 丈一郎

判事 鶴 見守義

本部ノ開廷

火曜日

金曜日

刑事訴訟法名表

本部ノ所管

大阪控訴院

長崎控訴院

名古屋控訴院

廣島控訴院

大審院刑事判決録

總目録
刑法

垣根ヲ破リ邸内ニ忍入り竹竿ニ掛ケアル物品ヲ竊取シタル所爲ノ事……………一
偽證罪ノ自首ニ依リ本刑ヲ免スル場合(刑法第二百二十六條)ノ事……………二七
詐欺取財罪ヲ犯シタル後偽造文書ヲ行使シタル場合ノ事……………四一
親族相盜ニ依リテ得タル物品ノ寄藏者ノ處分ノ事……………七
二箇ノ住家ヲ燒燬スルノ目的ニテ放火シ其一箇ノミヲ燒燬シタル所爲ノ事……………一〇

刑事訴訟法

民事訴訟記録ヲ犯罪ノ證據ニ供シタル場合ニ於ケル證據調ノ事……………三
送達シタル市町村ノ明記ナキ送達證書ノ效力ノ事……………六
申立人ノ意見ヲ聽キ(刑事訴訟法第二百六十六條)ノ意義ノ事……………一〇

支部ニ勤務スル區裁判所檢察カ爲シタル地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事
件ノ公訴提起ノ效力ノ事.....三

宣誓書ニ被告事件及ヒ年月日ノ記入ナキモ不法ニ非ストノ事.....三七

刑事上ノ證據ハ證人ノ意見タルト否トニ關セス罪證ニ供スルヲ得トノ事.....三七

判決ヲ爲スニ熟セサルトキハ辯論ノ再開ヲ爲スハ相當ナリトノ事.....三七

犯罪事件ニ關シ被告人ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルモ贓物ノ返還又ハ損
害ノ賠償ヲ請求スルニアラサレハ被告事件ニ付キ證人タルノ資格アリト

ノ事.....三

曾テ鑑定ヲ爲シタル事項ニ關シ證人トシテ訊問スル場合ノ事.....四

控訴ノ理由アル場合ニハ原判決ハ之ヲ取消サ、ルヘカラストノ事.....四

裁判費用負擔ニ關スル判決ノ當否ノ事.....四

豫審終結決定書ニ於ケル裁判所書記ノ署名捺印ノ事.....五

鑑定人ノ身分上ノ關係ヲ問查セサル調書ノ適法ナル場合ノ事.....五

代人ヲ以テ爲シタル上訴申立ノ效力ノ事.....五

公判始末書ニ代理判事ナル肩書ナキ場合ニ於ケル判決ノ事.....六

裁判所書記ノ署名捺印ナキ呼出狀ノ效力ノ事.....七
不實ノ供述ヲ爲シタル證人又ハ鑑定人ノ豫審處分ノ事.....七

民法

法律上絶家ニ財産ノ存在スヘキ謂レナシトノ事.....三

葉煙草專賣法

無免許ニテ數年度ニ跨リ煙草ヲ製造シタルトキハ年度毎ニ別罪ヲ構成ス

トノ事.....七

煙草ノ製造(葉煙草專賣法第十九條ノ五)ノ意義ノ事.....六

酒造税法

免許ノ製造場外ニ於テ清酒醱ヲ製造シタル所爲ノ事.....九

免許外ノ場所ニ於テ醱ヲ製造シ免許ヲ受ケタル場所ヘ移シ清酒ヲ製シ查

定ヲ免カレタル所爲ノ事.....九

事件目録

事 件	關 係 事 項	宣 告 日	番 號	訴 訟 關 係 人
竊盜ノ件	將壁損壞ノ竊盜	十一月一日	三十四年 九三三號	被告 山本角治
詐欺取財未遂ノ件	民事訴訟記録ノ朗讀	四月二日	三十四年 九四四號	被告 川手四郎兵衛
誣告及詐欺取財未遂ノ件	本人宅ノ送達證書	五月一日	三十四年 九三七號	被告 山羽和一郎
詐欺取財附帶私訴ノ件	申立人ノ意見ヲ聽キノ意義	五月一日	三十四年 九三九號	被告 山羽和一郎 私訴上告人 添外長次郎
森林竊盜ノ件	支部檢事ノ公訴提起	五月一日	三十四年 九四〇號	被告 三輪清三郎 私訴上告人 外一名
偽證ノ件	偽證罪ノ自首	八月一日	三十四年 九四四號	被告 福原芳策
酒造税法違反ノ件	免許製造場外ノ酒類製造、清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲	十一月十四日	三十四年 九三〇號	被告 中村長八郎
冒認販賣ニ附帶スル贓物返還請求私訴ノ件	絶家ノ財産	十一月十四日	三十四年 九四六號	被告 上岡藤久四郎 私訴上告人 市毛卯之次郎
謀殺ノ件	被告事件等ノ記入ナキ宣誓書、證人ノ意見、辯論ノ再開	十一月十八日	三十四年 九四五號	被告 市毛卯之次郎
財産脱漏ノ件	證人資格	十一月十九日	三十四年 九三三號	被告 小西庄三郎 外一名
毆打創傷ノ件	前ノ鑑定人後ノ證人	十一月十九日	三十四年 九三六號	被告 鶴鷹彌三吉
竊盜及贓物故買ノ件	控訴理由アルニ原判決ヲ取消サル判決	十一月廿一日	三十四年 九四八號	被告 川越熊藏 外一名

刑事事件目録

丁數

一 三 六 〇 三 七 元 三 三 三 三 三 一

刑事事件目録

- 私書偽造行使詐欺取財ノ件
- 詐欺取財ノ件
- 酒造税法違犯ノ件
- 葉煙草專賣法違犯ノ件
- 鑛業條例違犯ノ件
- 約束手形偽造行使詐欺取財ノ件
- 竊盜教唆及放火教唆ノ件
- 放火ノ件
- 私印盗用私書偽造行使詐欺取財ノ件
- 偽證ノ件
- 葉煙草專賣法違犯ノ件

文書偽造下詐欺取財、公訴裁 刑費用ノ負擔	豫審終結決定書ノ書記ノ署名 捺印	鑑定人ノ身分關係ノ調査	數年度ニ跨ル無免許ノ煙草製 造	代人ノ上訴	代理判事ノ肩書ナキ公判始末 書	親族相盜ノ贓物寄藏	放火ノ既遂	署名捺印ナキ呼出狀	起訴ナキ豫審處分	煙草製造ノ意義
十一月 廿二日	十一月 廿二日	十一月 廿二日	十一月 廿二日	十一月 廿二日	十一月 廿五日	十一月 廿六日	十一月 廿六日	十一月 廿六日	十一月 廿九日	十一月 廿九日
三十四年 れ五三號	三十四年 れ五七號	三十四年 れ五八號	三十四年 れ五九號	三十四年 れ五九號	三十四年 れ五七號	三十四年 れ五七號	三十四年 れ五七號	三十四年 れ五七號	三十四年 れ五七號	三十四年 れ五七號
被告 金山定二郎 外一名	被告 長村市三郎 外二名	被告 柏木林平	被告 森木儀助	被告 久長地寅次郎	被告 松井喜一郎 外二名	被告 福島フイ	被告 川越四郎右衛門	被告 飯田武七郎 外一名	被告 吉田利助	被告 伊藤爲治
二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

いろは索引

此索引ハ専ラ法律上ノ用語ニ依リ其頭音ヲ取テいろはノ順ニ從ヒ排列編纂ス止ムヲ得サルニ
非サレハ形容詞若クハ普通名詞ヲ用井ス〇頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラズ人ノ通常
言フ所ノ音聲ニ據ル例之ハいろはニ入ルカ如シ

[イ] 遺産

(絶家ノ財産。参看)

意見

(證人ノ意見。参看)

一審判決ノ取消

(控訴理由アルニ原判決ヲ取消サ、ル判決。
参看)

[ハ] 葉煙草專賣法ノ違犯

(數年度ニ跨ル無免許ノ煙草製造。参看)

判事ノ肩書

(代理判事ノ肩書ナキ公判始末書。参看)

[ニ] 本人宅ノ送達證書

送達證書ノ「送達シタル場所」トアル欄内ニ
「本人宅」ト記シアル上ハ送達シタル場所ハ
自ラ明カナルヲ以テ特ニ市町村ノ明記ナキ
モ無効ニ非ス

放火ノ既遂

刑事いろは索引

[ヘ]

二箇ノ住家ヲ燒燬スルノ意思ヲ以テ放火シ
其一箇ヲ燒燬シタルハ放火既遂ノ一罪ナリ
從テ別ニ放火未遂罪ヲ構成セス

辯論ノ再開

判決ヲ爲スニ熟セサル場合ニ在リテ一旦終
結ヲ告ケタル辯論ヲ再開スルハ相當ノ措置
ナリトス

地方裁判所管轄事件ニ對スル支
部檢事ノ公訴提起

(支部檢事ノ公訴提起。参看)

屋外竊盜

(牆壁損壞ノ竊盜。参看)

家督相續人ナキ家

(絶家ノ財産。参看)

鑑定人ノ身分關係ノ調査

鑑定人ニシテ民事原告人又ハ被告人ノ後見
ヲ受ケヘキ者ニ非サルコト訊問ヲ待タズシ

丁數 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

丁數 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

刑事いゝは索引

テ自ラ明カナル場合ニ在リテハ豫審刑事ハ
特ニ此點ノ調査ヲ爲スヲ要セス從テ其處措
ハ違法ニ非ス

紙巻煙草ノ製造

(煙草製造ノ意義。參看)

豫審終結決定書ノ書記ノ署名捺印

刑事訴訟法第七十條ノ法則中ニハ裁判所
書記ノ署名捺印ノコトヲ包含セス從テ豫審
終結決定書ニハ裁判所書記ノ署名捺印アル
ヲ要セス

呼出狀ノ署名捺印

(署名捺印ナキ呼出狀。參看)

代人ノ上訴

刑事訴訟法上罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件
ニ付テハ被告ハ代人ヲシテ出頭セシムルヲ
得ヘキモ代人ヲ以テ上訴スルコトヲ認許シ
タル法條ナシ

代理判事ノ肩書ナキ公判始末書

裁判所構成法(第三十六條第二號)ニ從ヒ地
方裁判所判事ヲ控訴院判事ヲ代理シタル場
合ニ於テ公判始末書等ニ代理ノ肩書ナキモ

〔そ〕

不法ニ非ス

煙草製造ノ意義

煙草ノ製造(葉煙草專賣法第十九條ノ五)ト
ハ葉煙草ニ加工シテ製造スルモノトミノ謂
ニ非スシテ刻煙草粉煙草等ヲ以テ紙巻煙草
ヲ製造スルモノヲモ包含ス

送達ノ場所

(本人宅ノ送達證書。參看)

造石數ノ査定

(清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲。參看)

贓物返還、損害賠償ノ請求

(贓人資格。參看)

贓物ノ寄藏

(親族相盜ノ贓物寄藏。參看)

無免許ノ煙草製造

(數年度ニ跨ル無免許ノ煙草製造。參看)

無效ノ呼出狀

(署名捺印ナキ呼出狀。參看)

刑事上ノ證據

(證人ノ意見。參看)

決定書ノ署名捺印

(豫審終結決定書ノ書記ノ署名捺印。參看)

〔ふ〕

檢事ノ起訴ナキ豫審處分

(起訴ナキ豫審處分。參看)

文書偽造ト詐欺取財

因テ官私ノ文書云々ノ法則(刑法第三百九
十條第二項)ハ詐欺取財罪ヲ犯スニ因テ官
私ノ文書ヲ偽造行使シタル場合ニ適用スヘ
キモノニシテ詐欺取財罪ヲ犯シタル後偽造
ノ文書ヲ行使シタル場合ニ適用スヘキモノ
ニ非ス

控訴審ニ於ケル私訴ノ闕席判決

(申立人ノ意見ヲ聽キノ意義。參看)

控訴申立人ノ意見

(申立人ノ意見ヲ聽キノ意義。參看)

控訴理由アルニ原判決ヲ取消サ
サル判決

第一審判決ノ不當ニシテ控訴ノ理由アルコ
トヲ認メタルニ拘ハラズ之ヲ取消サトルハ
不法ナリ

公訴裁判費用ノ負擔

控訴セサル時被告ハ一審判決確定ト共ニ該
判決ニ基キ當然一審ニ於テ生シタル裁判費
用ヲ負擔ス故ニ二審判決カ一審ノ相被告ニ

刑事いゝは索引

〔あ〕

對シ裁判費用ノ負擔ヲ定メサルモ控訴被告
ニ何等利害ヲ生スルコトナシ從テ控訴判決
ニ於テ控訴被告ニ對シ公訴裁判費用全部ノ
負擔ヲ言渡スモ不法ニ非ス

相被告ニ對スル裁判費用

(公訴裁判費用ノ負擔。參看)

裁判宣告前ノ自首

(偽證罪ノ自首。參看)

再開ノ辯論

(辯論ノ再開。參看)

詐欺取財ト文書偽造

(文書偽造ト詐欺取財。參看)

記錄ノ朗讀

(民事訴訟記録ノ朗讀。參看)

偽證罪ノ自首

自首ハ事未タ發覺セサル前ニ爲スニアラサ
レハ其效ナシ從テ偽證罪ノ自首ニ依リ本刑
ヲ免スル場合(刑法第二百二十六條)ハ證言
ヲ爲シタル事件ノ裁判宣告前ニシテ且偽證
ノ發覺前ニ於テ自首シタルコトヲ要ス

既遂ノ放火

(放火ノ既遂。參看)

三

刑事いゝは索引

起訴ナキ豫審處分

裁判所カ不實ノ供述ヲ爲シタル證人又ハ鑑定人ヲ取押ヘ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致シタル場合(刑事訴訟法第九十五條)ニハ別ニ檢事ノ起訴アルヲ要セス豫審判事ハ直ニ豫審處分ヲ爲シ得ヘキモノトス

偽證ノ豫審處分

(起訴ナキ豫審處分。參看)

免許製造場外ノ酒類製造

酒造營業人ハ其醸造場一箇毎ニ免許ヲ受ケサルヘカラス從テ免許ノ製造場外ニ於テ清酒釀造シタル所爲ハ酒造税法第二十二條ニ依リ處罰スヘキモノトス

民事訴訟記録ノ朗讀

證據ニ供シタル民事訴訟記録ハ單ニ被告カ民事訴訟ヲ提起シ其敗訴ニ歸シタル點ヲ示スニ止マル場合ニ在リテハ之ヲ示シテ證據調ヲ爲スナリテ是ル故ラニ書記ヲシテ該記録ヲ朗讀セシムルヲ要セス

身分關係ノ調査

(鑑定人ノ身分關係ノ調査。參看)

牆壁損壞ノ竊盜

出

元 出

三

一 五

四

垣根ヲ破リ邸内ニ忍入り竹竿ニ掛ケアル物品ヲ竊取シタル所爲ハ牆壁ヲ損壞シ邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者(刑法第三百六十八條)ニシテ屋外竊盜ニ非ス

證據調

(民事訴訟記録ノ朗讀。參看)

市町村ノ明記ナキ送達證書

(本人宅ノ送達證書。參看)

支部檢事ノ公訴提起

地方裁判所支部ニ勤ムヘキ命ヲ受ケタル區裁判所ノ檢事ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ノ公訴ヲ提起スルノ職權ヲ有ス

自首ノ效力

(偽證罪ノ自首。參看)

酒類製造

(免許製造場外ノ酒類製造。參看)

證人ノ意見

刑事上ノ證據ハ證人ノ意見タルト否トニ關セズ罪證ニ供スルコトヲ得

證人資格

被害者カ被告人ニ對シ被告事件ニ原因スル訴訟ヲ民事裁判所ニ提起スルモ(贓物ノ返

三

六

七

元

三

〔七〕

〔五〕

〔め〕

運、損害ノ賠償(刑事訴訟法第二條)ヲ請求スルニアラザレハ被害者ハ被告事件ニ付キ證人タルノ資格ヲ失フコトナシ

證人ト鑑定人

(前ノ鑑定人後ノ證人。參看)

自明ノ事實ノ調査

(鑑定人ノ身分關係ノ調査。參看)

上訴ノ代人

(代人ノ上訴。參看)

親族相盜、贓物寄藏

親族相盜(刑法第三百七十七條)ハ竊盜罪アルモ之ヲ問ハストノ意ニシテ犯罪ヲ構成セストノ意ニ非ス從テ其審判ナルコトヲ知テ之ヲ寄藏シタル者ハ贓物寄藏罪ヲ構成ス

署名捺印ナキ呼出狀

裁判所書記ノ署名捺印ナキ呼出狀ハ無効ナリ

被告事件等ノ記入ナキ宣誓書

宣誓書ニ被告事件及ヒ宣誓ヲ爲シタル年月日ノ記載ナキモ不法ニ非ス

申立人ノ意見ヲ聽キノ意義

刑事訴訟法第二百六十六條ニ所謂申立人ノ

刑事いゝは索引

〔セ〕

意見ヲ聽キトハ申立人カ請求スル所即チ事實上及ヒ法律上ノ意見ヲ聽クヘシトノ意義ナリトス

清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲

免許ヲ受ケサル場所ニ於テ釀造シ之ヲ免許ヲ受ケタル場所ニ移シ清酒ヲ製シ査定ヲ免カレタルトキハ(密造ノ所爲ト清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲ト)ニ箇ノ所爲ナリトス

絶家ノ財産

絶家トハ戸主ヲ失ヒ家督相繼入ナキコト確定シタル家ヲ云フ而シテ前戸主ノ遺産ハ絶家ト同時ニ無主物ニ歸スルヲ以テ法律上絶家ニ財産ノ存在スルコトナシ

宣誓書

(被告事件等ノ記入ナキ宣誓書。參看)

前ノ鑑定人後ノ證人

曾テ鑑定シタル事項ニ關シ訊問ヲ爲スモ其訊問事項ニシテ判斷ヲ聽クニアラザルトキハ證人ト爲スニ於テ妨ナシ

數年度ニ跨ル無免許ノ煙草製造

煙草製造人ハ(葉煙草專賣法第十九條ノ五)

二

七

七

七

五

三

三

〔ナ〕

七

三

七

三

元

刑事いろは索引
 ニ依リ毎年其免許ヲ受クヘキモノトス從テ
 無免許ニテ數年度製造シタルトキハ其年度
 毎ニ別罪ヲ構成ス

法 文 表

	丁數
刑法	
二二六條	一七
三六八條	一
三七七條一項	六
三九〇條二項	四
刑事訴訟法	
二條	三
一九條	六
二〇條一項	七
七六條	四
一七〇條	四
一九五條一項	四
二一九條二項	三
二六一條二項	三
二六六條	一〇
民事訴訟法	
一五一條一項	六
裁判所構成法	
三一條三項	三
三六條二號	三
葉煙草專賣法	
一九條ノ五	六
酒造稅法	
二條	九
一二條一項	九
二四條	九

刑事法文表

酒造税法施行規則

一〇條……………一九

四〇條……………一九

月日目錄

十一月一日
十一月四日
十一月五日
十一月五日
十一月五日
十一月八日
十一月十四日
十一月十四日
十一月十八日
十一月十九日
十一月十九日
十一月廿一日

三十四年 九二二九二號
三十四年 九一四五四號
三十四年 九一三六七號
三十四年 九一三八九號
三十四年 九一四一〇號
三十四年 九一四四四號
三十四年 九一三一〇號
三十四年 九一四七八號
三十四年 九一四九五號
三十四年 九一五二七號
三十四年 九一五二八號
三十四年 九一四八一號

棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
棄却
一部破毀

原審
名古屋
東京
名古屋
名古屋
廣島
廣島
函館
東京
宮城
長崎
大阪
宮城

丁數
一 三 六 〇 三 七 九 三 七 三 六 一

刑事月日目錄

刑事人名彙目録

〔な〕	中村長八郎 <small>被告</small>三十四年 れ一三二〇號	函館.....一九
	長村市三郎外二名 <small>被告</small>三十四年 れ一五一七號	大阪.....四
	鶴鷹彌三吉 <small>被告</small>三十四年 れ一五二八號	大阪.....四
	久良地寅次郎 <small>被告</small>三十四年 れ一五四七號	長崎.....五
〔や〕	山本角治 <small>被告</small>三十四年 れ一三九二號	名古屋.....一
	山羽和一郎 <small>被告</small>三十四年 れ一三六七號	名古屋.....六
	山羽和一郎 <small>被告</small>三十四年 れ一三八九號	名古屋.....〇
	山羽和一郎 <small>被告</small>三十四年 れ一五五七號	東京.....三
〔ま〕	松井喜一郎外二名 <small>被告</small>三十四年 れ一四四四號	廣島.....七
	福原芳策 <small>被告</small>三十四年 れ一四七〇號	廣島.....七
	福島ヲイ <small>被告</small>三十四年 れ一五二七號	長崎.....三
〔こ〕	小西庄三郎外一名 <small>被告</small>三十四年 れ一四一〇號	廣島.....三
〔み〕	三輪清三郎外一名 <small>被告</small>三十四年 れ一五二〇號	大阪.....七
〔も〕	森本儀助 <small>被告</small>三十四年 れ一五二〇號	大阪.....七

大審院刑事判決録

第七輯 第十卷

○竊盜ノ件

明治三十四年十一月一日宣旨

○判決要旨

垣根ヲ破リ邸内ニ忍入り竹竿ニ掛ケアル物品ヲ竊取シタル所爲ハ
 牆壁ヲ損壞シ邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者(刑法第三百六十八條)ニ
 シテ屋外竊盜ニ非ス

(参照) 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ
 亦前條ニ同シ(刑法第三百六十八條)

第一審 甲申地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

牆壁損壞ノ竊盜

右竊盜被告事件ニ付明治三十四年九月十六日名古屋控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮一年監

視六月ニ處シ前發ノ刑拘留十日ヲ通算スル旨言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事
訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書及ヒ辯明書ノ趣旨ハ原院ニ於テ被告ハ明治三十四年八月一日夜被害者方ノ垣根ヲ破リ其邸
内ニ忍入り竹竿ニ掛ケアリシ衣類ヲ竊取シタルモノト認メ處斷セラレタレトモ被告ハ垣根ヲ破リテ其
邸内ニ忍入りタルモノニアラスシテ垣根ノ外レニテ家ノ裏ナル小川ノ土手ノ空地ヨリ忍入りタルモノ
ナリ故ニ被告ノ所爲ハ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百七十六條ヲ適用スヘキモノニアラス
シテ明治二十三年法律第九十九號ヲ適用セラルヘキモノナリ然ルニ原院カ前記刑法ノ法條ヲ適用處斷
シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告ハ梶田賢治方ノ垣根ヲ破リ其邸
内ニ忍入り竹竿ニ掛ケアリシ單衣四枚ヲ竊取シタルモノニシテ刑法第三百六十八條ニ所謂牆壁ヲ損壞
シ邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ナレハ其所爲ハ同法條及ヒ同法第三百六十七條第三百七十六條ヲ適用
處斷スヘキ犯罪ニシテ屋外竊盜ノ法條ヲ適用處斷スヘキ犯罪ニアラサルヲ以テ原院カ前記刑法ノ法條
ヲ適用處斷シタルハ不法ニアラス畢竟本論旨ハ原院ト事實ノ認定ヲ異ニシ原判決ヲ攻撃スルニ過キナ
ルヲ以テ上告ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十一月一日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○詐欺取財未遂ノ件 明治三十四年十一月四日宣告

○判決要旨

證據ニ供シタル民事訴訟記録ハ單ニ被告カ民事訴訟ヲ提起シ其敗
訴ニ歸シタル點ヲ示スニ止マル場合ニ在リテハ之ヲ示シテ證據調
査爲メテ以テ足ル故ラニ書記ナシテ該記録ヲ朗讀セシムルヲ要セ
ズ

(參照) 必要ナル調書其他證據書類ハ書記ナシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他
證據ノ取調ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第二項)
第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院
民事訴訟記録ノ朗讀

被告人 川手四郎兵衛 辯護人 花井卓藏 飯田宏作

右四郎兵衛ニ對スル詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十四年九月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シテ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ被告ハ原判決ニ記載シタル如キ犯罪行為ヲ爲シタルコトナシ然ルニ原院ニ於テ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リテ全ク原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラズ上告適法ノ理由トナラス

辯護人花井卓藏飯田宏作上告趣意擴張ノ第一ハ原判決證據説明ノ部ヲ見ルニ「以上事實ヲ認定シタル證據ヲ説明センニ(中略)而シテ又被告カ前記ノ如ク先ツ兵太郎ヲ訴追シタル結果敗訴ニ歸シ云々ノ事實ニ至リテハ(中略)貸金請求民事訴訟記録ニ其旨記載アリテ(中略)以上ノ各證據ヲ參照シテ被告カ伊三郎ヨリ金九十六圓七錢五厘ヲ騙取セントシテ遂行セサリシ事實ヲ認定シタリ」トアリ由是看之貸金請求民事訴訟記録ノ本件斷罪ノ證據ニ供セラレタルコト甚ク明ナリ而シテ原院公判始末書中該記録ヲ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシメタル事迹アルヲ見ス右ハ刑事訴訟法第九十八條第二項ノ法則ニ背戾セラル不法アルモノト信スト云ヒ」第二ハ貸金請求民事訴訟記録ハ書類證據ナリ故ニ刑事訴訟法第二百九十九條ノ法則ニ基キ朗讀ノ上取調ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ原院カ此手續ヲ爲サスシテ輒ク罪證ニ供シ

タルハ前記ノ法則ニ背戾スル不法アルモノト信ス而シテ該記録ノ如キモノ、書面證據タル所以ハ御院ノ屢々判示セラレタル所ナリト云フニ在レトモ○原院カ民事訴訟記録ヲ證據ニ供シタルハ被告カ民事訴訟ヲ提起シ其訴訟ノ結局被告ノ敗訴ニ歸シタル點ヲ示スニ止マルヲ以テ右記録ヲ示シテ證據調ヲ結了シ相當ノ辯論ヲ爲シタル以上ハ上告適法ノ理由トナスニ足ラス而シテ原公判始末書ヲ見ルニ押收目録列記ノ證據一切ヲ示シタル旨記載アリテ右民事ノ記録ハ明治三十四年二月八日ニ於テ本件ニ付キ差押アルコト明カナレハ本論旨ハ總テ上告適法ノ理由ナシ

ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○誣告及詐欺取財未遂ノ件

明治三十四年十一月五日宣告

○判決要旨

送達證書ノ送達シタル場所トアル欄内ニ「本人宅」ト記シアル上ハ送達シタル場所ハ自ラ明カナルヲ以テ特ニ市町村ノ明記ナキモ無効ニ非ス

(參照) 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス(刑事訴訟法第十九條)

送達ニ付テハ之ヲ施行スル吏員ハ送達ノ場所年月日時方法及ヒ受取人ノ受取證竝ニ送達吏ノ署名捺印ヲ具備スル證書ヲ作ルコトヲ要ス(民事訴訟法第一百五十一條第一項)

第一審 安濃津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 山羽和一郎

右誣告詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十四年六月二十四日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書第一ハ原判決ニ被告ハ人ヲ輕罪ニ陥ル、爲メ不實ノ事ヲ以テ誣告シタリトアレトモ實際ニアリテハ被告ガ中谷直吉ニ山代金三百圓ヲ渡シタルコトハ證人吉村常五郎ノ證言ニ依リ明カナリ然ラ

ハ人ヲ誣告シタルニアラス亦惡意ノアルコトナキニ拘ハラズ不實ノコトヲ構ヘ誣告シタルモノトセシハ不法ナリ」第二ハ原判決ニ大字神瀧山林ト字桃山ノ山林ヲ併セテ中谷直吉ヨリ被告ニ賣渡シタリ云云トアレトモ桃山ノ山林ニ關スル證書ハ被告ハ之ヲ見タルコトナシ其證據ハ該山林ハ現ニ松居久吉ガ所有セシコトハ同人ノ證言ニ明カナリ然ルチ直吉ハ右二个所ヲ合併シテ擔保トナシタリトノ空虛ヲ描カシカ爲メ同時ニ賣渡シタリト主張スルモノナリ斯ル不正ノ供述ヲ以テ犯罪ノ證據十分ナリトセラレタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス」第三ハ被告ハ中谷直吉外一名ニ對スル山代金百圓ノ損害賠償ヲ求メンガ爲メ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ提起シタルニ第一審ニ於テハ之ヲ棄却セラレタルニ付公訴ト共ニ私訴ノ控訴ヲ爲シタルニ原院ハ私訴ニ關シ何等ノ言渡ヲ爲サ、リシハ不法ナリト云フニ在レトモ○記錄ヲ查スルニ本件ニ付上告人ヨリ私訴ヲ提起シタル事跡ナキヲ以テ本論旨ハ謂レナシ

擴張書ハ續々犯罪當時ノ狀況ヲ陳述シ以テ被告ハ誣告シタルコトナキニ第一二審共有罪ノ判決ヲ下サレタルハ遺憾ニ堪ヘスト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナラス

辯護人辯明書ハ(一)原判決ノ確定シタル事實理由ニ依レハ上告人ハ中谷直吉添長次郎ノ兩名ヲ輕罪ノ刑ニ陥ラシメ、爲メ誣告ヲ爲シタル事實ヲ認メ即チ二个ノ誣告ノ所爲アルコトヲ確定セリ然ルチ其法

○詐欺取財附帶私訴ノ件 明治三十四年九月第一三八九號
明治三十四年十一月五日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二百六十六條ニ所謂申立人ノ意見ヲ聽キトハ申立人
カ請求スル所即チ事實上及ヒ法律上ノ意見ヲ聽クヘシトノ意義ナ
リトス

(參照) 控訴申立人出頭セサルトキハ關席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却シ相手方出頭セサル
トキハ申立人ノ意見ヲ聽キ關席判決ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第
二百六十六條)

第一審 安濃津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

私訴上告人 山羽和一郎

私訴被上告人 添 長次郎
外一名

右添長次郎外一名ニ對スル詐欺取財事件ニ附帶セル私訴ニ付明治三十四年八月三十日名古屋控訴院ニ
於テ言渡シタル判決ニ對シ山羽和一郎ヨリ上告ヲ爲シテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行
シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原院ハ吉村常五郎ノ信書ヲ證據トシ其信書中ハ被控訴人カ控訴人ヲ欺罔シタリト認ムヘ

キ文詞ナシ其他被控訴人カ金圓ヲ騙取シタリト認ムヘキ證據アラストセラレタリ然レトモ右信書中ニ
ハ金三百圓ヲ控訴人ニ渡シタルニ相違ナキ旨及ヒ高野鹿次郎ノ依頼ニ因リ控訴人ヨリ被控訴人ヘ金員
ヲ渡サストノ反對ノ證人ニナリ與レナキ報酬金四百圓云々トアルハ所謂被控訴人カ犯罪ヲ隱蔽セ
トスルノ姦策ナリ又辯論ノ期日ニ相手方出頭セサルトキハ申立人ノ意見ヲ聽キ欠席判決ヲ爲スヘキコ
トハ刑事訴訟法第二百六十六條ノ規定ナルニ原院ハ申立人ノ意見ヲ聽カスシテ欠席判決ヲ爲シタルハ
不法ナリ又控訴費用ハ控訴人ノ負擔スヘシトノミニシテ費用額ノ全部ナルヤ將タ幾部ナルヤ明示セ
サルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ前段ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ判斷ヲ非難スルニ過キサレ
ハ上告ノ理由トナラス中段ハ刑事訴訟法第二百六十六條ニ所謂申立人ノ意見ヲ聽キトハ申立人カ請求
スル所即チ事實上及ヒ法律上ノ意見ヲ聽クヘシトノ旨趣ニシテ而シテ原院ノ公判始末書ニハ控訴人ハ
原判決ヲ取消シ被控訴人ヨリ金千百圓ヲ連帶シテ辨償スヘシトノ判決ヲ下サレタリトハ一定ノ申立
爲シタリ又被控訴人兩名カ共謀シテ立木賣買ニ托シ控訴人ヲ欺キ金千百圓ヲ騙取シタルニ依リ之カ陪
償ヲ求ムルトノ事實ヲ陳述セリトアルヲ以テ原院ハ申立人ノ意見ヲ聽カスシテ關席判決ヲ爲シタルモ
ハト云フヲ得ス後段ハ裁判費用ノ負擔ヲ命スルニ付特ニ其費用ノ幾部ナルヤ示サ、ル已上ハ其費用
額ノ全部ナルコト勿論ナルヲ以テ負擔額ヲ示サ、ルモ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

申立人ノ意見ヲ聽キノ意旨

上告費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十四年十一月五日於大審院第三刑事部公庭檢察小宮三保松立會宣告ス

○森林竊盜ノ件

明治三十四年十一月五日〇號
明治三十四年十一月五日宣告

○判決要旨

地方裁判所支部ニ勤ムヘキ命ヲ受ケタル區裁判所ノ檢察ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ノ公訴ヲ提起スルノ職權ヲ有ス

(參照) 司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢察ヲ命ス(裁判所構成法第三十一條第三項)

第一審 廣島地方裁判所尾道支部 第二審 廣島控訴院

被告人 三輪清三郎 辯護人 高木益太郎 篠田治策
外一名

右森林竊盜被告事件ニ付明治三十四年九月二十七日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告等ヨリ上告ヲ爲シテ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ヲ閱スルニ各被告事件ノ證據中ニ引用セラレタル證人ノ供述其他ノ聽取書等何レモ違法ノモノナルニモ不拘之ヲ探テ有罪ノ斷案ヲ下サレタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ査閱スルニ原判決ニ採用シタル證據ハ論旨ノ如キ違法ノモノニアラサルヲ以テ原判決ハ不法トセ

ス
被告兩名辯護人高木益太郎ノ辯明書(一)ハ原院公判始末書ニ依レハ本件ノ公判開廷ノ際證據取調濟ノ後ニ於テ立會檢察ハ清三郎ニ對スル冒認罪ニ就キ法律適用上ノ意見ヲ述ヘタル事跡ナシ右ハ刑事訴訟法第二百二十條ノ規定ニ背反シタル措置ナルニ原院カ其儘結審ヲ宣言セラレタルハ乃チ法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察ノ意見ヲ聽カスシテ結審ヲ告ケタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニ依レハ檢察ハ各被告人ニ對スル犯罪ノ證據十分ナル理由ヲ論シ清三郎貫一ニ對スル原判決ヲ取消シ更ニ森林法第三十七條ヲ以テ論スヘキモノナル旨ヲ述ヘタルコトノ記載アリテ檢察ニ於テ本件被告等ニ對シテ適用スヘキ法律ニ關スル意見ヲ述ヘタルコト明カナリ而シテ原院ハ固ヨリ檢察ノ意見ニ羈束セラルヘキモノニ非サルヲ以テ檢察カ森林法違反ナリト論シタル事實ヲ認メテ冒認罪ト爲シタルトキハ其法律ヲ適用スヘキハ當然ナリトス故ニ檢察カ本件ニ付特ニ冒認罪ニ關スル意見ヲ述ヘサルモ違法アリト云フヲ得ス

同(二)ハ本案ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪事件ナルヲ以テ尾道區裁判所檢察作田右手雄ノ提起シ

タル公訴ニ對シ原院カ之ヲ適法ノ起訴ト認メタルハ法則ニ違反セリト云フニ在レトモ○地方裁判所支
部ニ勤ムヘキ檢事ハ司法大臣之ヲ定ムヘキコトハ裁判所構成法第三十一條ニ規定スル所ナルヲ以テ廣
島地方裁判所尾道支部ニ勤ムヘキ命ヲ受ケタル尾道區裁判所檢事作田右手雄カ本件ノ公訴ヲ提起シ
ルハ相當ニシテ違法ニ非ス故ニ原院カ之ヲ是認シタルハ當然ナリ

同(三)ハ證人高木惣夫ノ豫審調書及其宣誓書ヲ見ルニ同人ハ一私人トシテ訊問セラレタルモノナルニ
モ不拘「林務官補高木惣夫」ト記載シ即チ官吏ノ資格ヲ以テ之ニ署名シタリ故ニ同人ハ一私人トシテ
本件ニ付キ宣誓ナシタルモノト認ムル能ハサルヲ以テ結局右調書ハ違法ノモノナルニ原判決カ之ヲ適
法ノ證人調書トシテ證據ニ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右證人高木惣夫ハ林務官補ナル
ヲ以テ豫審調書及ヒ宣誓書ニ其職業ヲ記載シタルニ過キサレハ之ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス

同(四)ハ原院ハ豫審判事ノ檢證調書中同判事カ立會人田上恒彦ノ指示ニ基キ係争地ノ境界ヲ檢證シタ
ル部分ヲ證據ニ引用シタレトモ右調書ニハ恒彦ヲシテ署名捺印セシメタルコトナキヲ以テ該部分ヲモ
適法ノ成立ニ係ルモノト認メ罪證ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○右檢證調書ヲ閱ス
ルニ右田上恒彦ヲシテ檢證ノ場所タル山林ノ道案内ヲ爲サシメタルニ過キスシテ同人ノ供述ヲ記載シ
タルモノニ非サルヲ以テ右調書ニ同人ノ署名捺印ナキモ不法ト云フヘカラス故ニ原院カ右調書ヲ證據
ト爲シタルモ不法ニアラス

被告清三郎辯護人篠田治策擴張書第一點ハ原院ハ(一)明治三十四年四月二十八日附豫審判事ノ檢證調
書ニ立會人平川儀三太ノ携帶シタル圖面寫ニヨレハ上告人ノ所有山林ニ接スル國有山林ノ樹木伐採セ
ラレタリシノ記載アルコト(二)同年四月三十日附豫審判事ノ檢證調書ニ權現山大峠ノ國有林ハ之ニ接
續セル上告人所有地トハ其林相ヲ異ニセルノ記載アルコト(三)證人赤木徳太郎ノ豫審調書ニ上告人ノ
伐採シタル樹木ハ官林内ノ樹木ナリシ旨供述シタルコトノ記載アリシコト(四)上告人カ立木ヲ賣却シ
又ハ伐採シタル場所ハ豫審判事ノ檢證圖中國有林ノ部分ナリシコトヲ自認セルコト(五)證人高木惣夫
ノ豫審調書ニ國有林ヲ伐採シタルモノアリ取調ノ結果上告人カ伐採シタルモノナルコトヲ知リタリト
ノ記載アルコト(六)證人福本喜代藏ノ豫審調書ニ同人カ上告人ヨリ山王社及ヒ權現山大峠ノ樹木ヲ買
受シタル契約ヲナシタル記載アリタルコト及ヒ(七)證人藤谷龜三郎ノ豫審調書ニ同人カ上告人ヨリ山
王社ニ續ク林地ニ生立セル樹木ヲ上告人ノ所有ナリト信シテ買受ケタルコトノ記載アリシニヨリ上告
人カ前記場所ニ於ケル樹木ヲ賣却シ伐採シタリトノ自認ニ綜合シテ前記ノ事實ヲ認メ右事實ニヨリテ
上告人ハ冒認罪及ヒ森林盜伐罪ヲ犯シタルモノナリトシテ刑法第三百九十三條第一項第三百九十條第
一項第三百九十四條及森林法第三十七條ヲ適用セラレタリト雖モ一件記録ヲ閱覽スルニ上告人カ冒認
罪構成要件タル他人ノ財産タルコトヲ知リタルコト及ヒ他人ノ財産タルコトヲ知リナカラ之ヲ横領セン
トスルノ意思アリタルコトノ事實ヲ見ル可キモノナシ又森林竊盜罪ノ構成要件タル他人ノ所有物タル

コトヲ知リ之ヲ奪取スルノ意思アリタルコトノ事實ノ見ルヘキモノナク原院ニ於テモ亦此事實ヲ認メ
 タルモノナシ加之境界線ノ劃定ニハ上告人ハ自カラ之ニ干與セス藤井岩太郎カ上告人ノ代理トシテ之
 ニ立合及ヒ樹木賣却ノ際モ總テ藤井岩太郎カ取引ニ從事シタルノ事實アルニ於テチヤ若シ上告人カ伐
 採シ賣却シタル場所カ官有地ナリトセハ即チ上告人ノ所爲ハ罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル
 モノニシテ刑法第七十七條第二項ヲ適用スヘキモノナルニモ拘ハラス原院ハ右事實ニ刑法第三百九十
 三條第一項同第三百九十條第一項同第三百九十四條及ヒ森林法第三十七條同第五十一條ヲ適用セラレ
 タルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○原院ハ其列舉シタル各證據ヲ綜合シテ
 被告カ國有林ノ樹木ヲ盜伐シ又ハ自己ノ所有ナリト詐リ之ヲ他人ニ賣却シタル事實ヲ認定シタル理由
 ナ其判文ニ明示セリ要スルニ本論旨ハ證據ノ判斷ニ付原院ト意見ヲ異ニシテ原判決ヲ攻撃スルニ外ナ
 ラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

同第二點ハ假リニ一步ヲ讓リテ上告人カ國有林内ノ樹木ヲ伐採取得シタル所爲ニシテ犯罪構成ノ要件
 ナ具備スルモノトスレハ其所爲ニ對シテハ刑法第三百七十三條森林法第三十七條同第五十一條ヲ適用
 セサルヘカラス然ルニ原院ハ單ニ森林法第三十七條第五十一條ノミヲ適用セラレタルハ此點ニ關シテ
 法律ヲ適用セサル不法アルモノト云フニ在レトモ○刑法第三百七十三條中森林竊盜ニ關スル部分ハ森
 林法ノ施行ニ因リ廢止セラレタルモノナリ而シテ被告ノ森林竊盜ノ所爲ハ則チ森林法第三十七條ニ該

當スルヲ以テ原院カ同法條ヲ適用シテ刑法第三百七十三條ヲ適用セザリシハ相當ナリトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十四年十一月五日於大審院第二刑事部公廷檢察小宮三保松立會宣告ス

○偽證ノ件

明治三十四年十一月八日宣告

○判決要旨

自首ハ事未タ發覺セサル前ニ爲スニアラサレハ其效ナシ從テ偽證
 罪ノ自首ニ依リ本刑ヲ免スル場合(刑法第二百二十六條)ハ證言ヲ爲
 シタル事件ノ裁判宣告前ニシテ且偽證ノ發覺前ニ於テ自首シタル
 コトヲ要ス

(參照) 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首
 シタル時ハ本刑ヲ免ス(刑法第二百二十六條)

偽證罪ノ自首

被告人 福原芳策

右偽證被告事件ニ付明治三十四年九月三十日廣島控訴院ニ於テ控訴ヲ棄却シテ判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ヲ要スルニ原判決ハ被告ノ自首ハ高山卯三郎ノ過失創傷事件ノ裁判宣告前ニ在ルモ被告ニ對スル偽證罪發覺後ナルヲ以テ刑法第二百二十六條ニ依リ免刑ヲ受クルノ理由ナシト判定シタルモ刑法第八十八條ニ一般自首ノ外特例アルモノハ各本條ニ從フノ明文アリ刑法第二百二十六條ノ如キハ其特例ニ該リ事發覺スルト否ヲ問ハサルモノナリ若シ本件ニ付テモ事發覺前ナル條件ヲ要スルモノトセハ自首シタルトキハ本刑ヲ免スト記載シテ可ナリ何ソ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前云々ト特記スルノ要アラザルヤ況ンヤ本件ノ自首ニモ總則ノ條件ヲ要スルトセハ偽證罪ハ常ニ公廷ニ於テ成立スルモノナレハ免刑ノ特典ヲ受クルコトハ事實上絶無ニ屬シ條文ハ徒法タルヲ免カレサルオヤ故ニ原判文ニ自首免刑ヲ與ヘサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ ○刑法上自首ニ二様ノ意義アルモノニアラサレハ總テ自首ノ有效無效ハ總則タル第八十五條ニ依リ之ヲ定メサルヘカラス而シテ同條ニ依レハ事未タ發覺セサル前自首スルニアラサレハ其效ナキモノトス故ニ本件被告ノ犯シタル偽證罪發覺セサル前自首スルニアラサレハ同第二百二十六條ノ免刑ヲ受クルコトヲ得ス又同第八十八條ハ自首ノ有效トナリタル上

刑ヲ適用スルニ付キ總則ハ一等ヲ減スルモノト定ムルモ同第二百二十六條ハ如キ本刑ヲ免スル場合アルヲ以テ之ヲ設ケタルモノニシテ自首ノ有效無效ヲ各本條ニ從ハシムルモノニアラス以上ノ如クナルヲ以テ同第二百二十六條ハ證言ヲ爲シタル事件ノ裁判宣告前ニシテ偽證ノ未タ發覺セサルノ時自首シタル場合ニ適用スヘキ法條ナレハ原院カ之ヲ本件ニ適用セサリシハ失當ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十一月八日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告

○酒造稅法違犯ノ件

明治三十四年十一月十四日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 酒造營業人ハ其釀造場一箇毎ニ免許ヲ受ケサルヘカラス從テ免許ノ製造場外ニ於テ清酒醪ヲ製造シタル所爲ハ酒造稅法第二十二條ニ依リ處斷スヘキモノトス

免許製造場外ノ酒類製造○清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲

免許製造場外ノ酒類製造○清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲

(参照) 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造所一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造
ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ(酒造税法
第二條)

免許ヲ受クスシテ酒類又ハ酒類製造用ノ酒母若クハ醪ヲ製造シタル者ハ二十圓以上
千圓以下ノ罰金ニ處ス(酒造税法第二
十二條第一項)

(判旨第二點) 免許ヲ受ケサル場所ニ於テ醪ヲ製造シ之ヲ免許ヲ受ケ
タル場所ニ移シ清酒ヲ製シ査定ヲ免カレタルトキハ密造ノ所爲ト
清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲トノ二箇ノ所爲ナリトス

(参照) 酒類ヲ製造スル者詐欺其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免
カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス(酒造稅
法第二
十四條)

酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル醪又ハ酒類ヲ以テ酒
類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ(酒造稅法施
行規則第十
條)

酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ稅
務管理局長ニ申告スヘシ(酒造稅法施行
規則第四十條)

第一審 函館地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 中村長八郎

右酒造稅法違反被告事件ニ付明治三十四年八月二十日函館控訴院休職部ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ
被告ヨリ上告ヲ爲シテ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ本件ノ事實ハ原院ノ認ムルカ如ク渡島國龜田郡大野村字西上町四十二番地即チ免許ヲ受
ケタル製造場以外ニ於テ清酒醪六石五斗ヲ製造シ之ヲ免許ヲ受ケタル製造場ニ送致シテ酒精容量百分
ノ二十以下ノ清酒五石七斗六升五合ヲ搾取シ更ニ密造ノ場所タル西上町四十二番地板倉ニ隠蔽シタル
モノニ係レリ然ルニ原審ハ此事實ニ對シ酒造稅法第二十二條同第二十四條ヲ適用シ二箇ノ犯罪ナリト
シテ處斷シタルハ左ノ點ニ於テ不法ナリ(一)酒造營業人ハ人ニ對スル免許ニシテ場所ニ對スル免許ニア
ラス故ニ營業者ハ假令製造場外ニ於テ釀造スルモ其査定ヲ受クルニ於テハ固ヨリ之ヲ稅法違反ナリト
爲スヲ得サルコトハ恰モ營業者カ釀造申告高ヲ超過シテ釀造シタル場合ニ於テ其査定ヲ受クルハ玆ニ
犯罪アリト云フヲ得サルカ如シ本件ノ如ク營業者カ製造場以外ニ於テ釀造セシハ稅法第二十四條ノ所
謂不正ノ所爲ヲ以テ査定ヲ免カレ又ハ免カレント爲シタル云々ニ該當シ決シテ無免許釀造ヲ以テ論ス
ヘキ筋合ニアラス然ルニ原審カ上告人ノ製造場以外ノ釀造ノ所爲ニ對シ稅法第二十二條ヲ適用シタル
ハ不法ナリト云フニ在レトモ○酒造稅法第二條ニ酒類ヲ製造セントスルモノハ製造所一箇毎ニ政府ノ
免許ヲ受クヘシトアリテ酒造營業人ハ人ノミニ限ラス其釀造場所一箇毎ニ免許ヲ受ケサル可ラサルコ
ト知ルヘキナリ既ニ酒類ノ釀造ニ付テハ人ト場所トノ免許ヲ要件ト爲シタル以上ハ原院ニ於テ被告カ

免許製造場外ノ酒類製造○清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲

免許製造場外ノ酒類製造○清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲

免許ヲ受ケタル製造場所外ニ於テ清酒醱ヲ製造シタル所爲ニ對シ税法第二十二條ヲ適用處斷シタルハ相當ナリトス』(二)前顯製造場以外ノ醸造ヲ以テ税法第二十二條ノ所謂無免許醸造ノ犯罪ナリトセハ其醸造ニ係ル醱ヲ免許ヲ受ケタル醸造場ニ送致シ清酒ヲ搾取シテ之ヲ醸造ノ現場即密造ノ場所ニ隠蔽シタル所爲ハ第一ノ犯罪(無免許醸造ノ所爲)ノ結果ニシテ税法第二十四條ノ所謂査定ヲ免カレ若クハ免カレントスルノ犯罪コアラズ如何トナレハ不合法ニ醸造シテ査定ヲ免レントスルハ即チ無免許醸造ノ所爲ニシテ無免許ノ醸造物其物ハ絶體ニ査定ヲ受クヘキモノニアラサルナリ之ヲ要スルニ法律上ノ査定ヲ受クヘキ物件ハ營業者カ免許ヲ受ケタル公開ノ製造場ニ於テ適法ニ醸造シタル酒類ニ限ル可ク營業者ナルト否トハ問ハズ始メヨリ密造ノ意志ヲ以テ不法ニ醸造シタル酒類ハ法律上査定ヲ受クヘキモノニアラサルナリ去レハ原審ノ認メタル第一ノ所爲カ無免許醸造ノ犯罪ナリトシテ税法第二十二條ノ適用ヲ受クヘキモノナリトセハ之レヲ清酒ニ搾取シテ隠蔽シタル所爲ハ第一ノ所爲ノ自然ノ結果ニシテ税法第二十四條ノ犯罪ナリト云フヲ得ス然ルニ原院カ之レニ對シ第二十四條ヲ以テ科罰シタルハ不法ナリ以上ノ如ク税法第二十二條若クハ第二十四條ノ一罪ヲ以テ論スヘク決シテ二罪ヲ以テ論ス可キモノニアラズト思料スト云フニ在リ○然レトモ免許場外ニ於テ醱ヲ製造シ同場所ニ於テ醱又ハ清酒ヲ製シタルトキハ論旨ノ如ク醱又ハ清酒密造ノ一所爲ナルヘキモ本件事實ノ如ク免許ヲ受ケサル場所ニ於テ醱ヲ製造シ之レヲ免許ヲ受ケタル場所ヘ移シ以テ清酒ヲ製シ之レヲ査定ヲ免レタルトキハ密造

判旨第二點

ノ所爲ト清酒ノ査定ヲ免カレタル所爲ト素ヨリ二個ノ所爲ト云フヲ得ヘシ此場合ニ於テハ其原料ヲ他ヨリ讓受ケ之ヲ免許場内ニ移シ清酒ヲ製成シタルト同ク其製成ノ清酒ニ付査定ヲ受クヘキコトハ施行規則第四十條第十條ノ趣旨ニ依リ知ルヲ得ヘシ然ルニ本件被告ハ其製成ノ清酒ニ付査定ヲ受ケスシテ他ノ場所即チ無免許ナル醱製造ノ場所ニ移シタルモノナレハ原院カ之ヲ同法第二十四條ニ問擬シタルハ相當ニシテ毫モ不法ノ點アルコトナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス
 明治三十四年十一月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○冒認販賣ニ附帶スル贓物返還請求私訴ノ件

明治三十四年第一四七八號
 明治三十四年十一月十四日宣告

○判決要旨

絶家トハ戸主ヲ失ヒ家督相續人ナキコト確定シタル家ヲ云フ而シテ前戸主ノ遺産ハ絶家ト同時ニ無主物ニ歸スルヲ以テ法律上絶家ノ絶家ノ財産

ニ財産ノ存在スルコトナシ

第一審 宇都宮地方裁判所

第二審 東京控訴院

私訴上告人 上岡久四郎

辯護人 川田藤三郎

私訴被上告人 上岡藤一郎

右當事者間ノ上岡カツ胃認販賣被告事件ニ附帶スル贓物返還請求私訴事件ニ付明治三十四年十月五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ上岡久四郎ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ上告人ハ上岡カツノ犯罪行爲ニヨリテ地所所有名義ヲ擅ニ被上告人ニ書換ラレタルモノナルカ故ニ之レカ登記取消ヲ請求シ得ルハ勿論ナルニ原院カ上告人ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタルハ全部不法ナリトス依テ原判決ノ全部ヲ破毀ストノ判決アリタシト云ヒ」辯護人川田藤三郎ノ擴張書ハ原控訴院ハ絶家再興ハ相續ニアラサルヲ以テ再興者ハ遺留財産ノ上ニ當然權利ヲ取得スルモノコアラズ而シテ被控訴人ハ絶家ヲ再興シタルハ民法施行後ナルヲ以テ施行後ノ今日遺留財産ヲ處分スルニハ民法施行法第九十二條ニ依リ民法第五十二條以下ノ規定ニ從ハサル可ラス然ルニ被控訴人ノ親族ハ此手續ニ依ラス亡與右衛門ノ遺留財産タル本訴ノ地所ハ被控訴人ニ於テ相續スルコトニ異議ナシト決議シタルニ過キサレハ此決議ニ依リ被控訴人ハ右地所ノ上ニ何等ノ權利ヲ得ルモノニアラスト説明シ

第一審判決ヲ變更シテ被控訴人ノ請求ヲ却下シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル裁判ナリ何トナレハ絶家再興ハ戸籍法第百五十五條ニ依リ廢絶シタル家ト再興ヲ爲スモノ、家トノ續柄等必要條件ト爲スモノニシテ其法意タル分家者ト異ナリ再興者ハ被再興者ノ遺留財産ヲ繼承スルノ權利當然發生スルヨリ其續柄等必要條件ト爲シタルモノト言ハサル可ラス果シテ然ラハ再興者ハ絶家ノ遺留財産ヲ相續スルニ付キ別ニ法律ノ明文ヲ要セスシテ當然其權利ヲ有スルモノトス然ルニ控訴院ハ再興者ハ遺留財産ノ上ニ權利ヲ取得スルモノニアラスト爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ況ンヤ控訴院ハ被控訴人カ絶家ヲ再興シタルハ民法施行後タルコトヲ認メナカラ民法施行法第九十二條ニ依リ民法第五十二條以下ノ規定ニ從ハサル可ラスト説明シタルハ尤モ甚シキ誤謬ナリ抑モ民法施行法第九十二條ハ民法施行前ニ開始シタル相續ニ關シテノ規定ニシテ施行後開始シタル相續ニ關スヘキモノニアラス然ルチ之ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○絶家トハ戸主ヲ失ヒ其家督相續人ナキコト確定シタル家ノ謂ナルヲ以テ前戸主ノ遺産ハ絶家ト同時ニ無主物ニ歸シ法律上絶家ニ財産ナルモノ、存在スヘキ謂レナシ新舊法何レモ其處分規定ノ設ケアルハ此理由ニ外ナラス故ニ絶家再興トハ單ニ家名ヲ繼承スルノ謂ニシテ家督相續ニ於ケルカ如ク家名ト遺産トヲ併セテ繼承スルモノニアラザルコト辯チ俟タサル可シ偶々本件係争ノ地所ハ親族ノ所有名義トナシ絶家ノ爲メ之ヲ保管シツ、アリタリトスルモ上告人ハ其絶家ヲ再興シタルカ爲メ當然之ヲ取得スルノ權利ナキハ勿論絶家ノ親族ト雖モ之カ讓與

ハ、決議ヲ爲シ得ヘキモノニアラス左レハ、縦シヤ被上告人カ本件係争ノ地所ヲ取得シタル原因ハ上岡カ
 ヲ、不法行爲ヨ基因セリトスルモ上告人ハ其地所ノ上ニ何等ノ權利ヲ有セサルカ故ニ被上告人ニ對シ
 之カ取戻ヲ請求シ得可キモノニアラス又廢絶家ノ再興ト雖モ廢絶シタル家ニ何等ノ縁故ナキ者ニ對シ
 之ヲ許容ス可キモノニアラス必スヤ本分家同家又ハ親族ノ關係ヲ要スルコトハ民法第七百四十三條ノ
 規定ニ依ルモ明カナリ而シテ戸籍法第一百五十五條第三號ハ此關係ヲ明カニセンカ爲メニ外ナラス又相
 續ハ戸主ヲ失ヒ若クハ家族ノ死亡シタルトキ直チニ開始スルモノニシテ本件前戸主ノ死亡ハ遠ク文政
 年間ニアルヲ以テ上告趣意及擴張論旨ハ共ニ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス
 明治三十四年十一月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○謀殺ノ件 明治三十四年第九五號
明治三十四年十一月十八日宣告

○判決要旨

(判旨第四點) 宣誓書ニ被告事件及ヒ宣誓ヲ爲シタル年月日ノ記載ナ
 キモ不法ニ非ス
 (判旨第七點) 刑事上ノ證據ハ證人ノ意見タルト否トニ關セズ罪證ニ
 供スルコトヲ得
 (判旨第十點) 判決ヲ爲スニ熟セサル場合ニ在リテ一旦終結ヲ告ケタ
 ル辯論ヲ再開スルハ相當ノ措置ナリトス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 宮城控訴院
 被告人 市毛卯之次郎 辯護人 磯部四郎
 高木益太郎 宮古啓三郎

右謀殺被告事件ニ付明治三十四年五月二十三日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告
 ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
 上告趣意ノ第一點ハ原院ハ自分ニ對シ養母スエチ謀殺シタリト事實ヲ認定シテ有罪ノ判決ヲ言渡シタ
 ルハ蓋シ事實ニ副ハサル違法ノ判決ナリ何トナレハ自分ニ於テ養母スエニ對シ何モ怨恨ナキハ勿論平
 被告事件等ノ記入ナキ宣誓書○證人ノ意見○辯論ノ再開

素養母ヨリ慈愛ヲ受ケ行末ハ養母所有ノ財産ヲ讓與セラルヘキ境遇ナルコトハ該一件書類ニ散見セリ凡ソ人ヲ謀殺セシニハ實ニ忍耐スヘカラサル非常ノ原因ナカルヘカラス世間謀殺ヲ爲ス原因ハ色情ノ怨恨若クハ財産ノ争奪ヨリ起ルコト有リト雖モ本件ノ如キハ事實上何モモ色情若クハ財産ニ關シテ毫モ恩アル養母ニ對シ謀殺ヲ行フ必要原因ナシ故ニ他ノ兇行者ノアルコト知ルヘキナリ然ルニ原院ハ此等ノ重要疑問ニ對シテ更ラニ審理解決ヲ與ヘス漫然有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ審理不盡擬律ニ錯誤アル不法ト思量スト云フニ在レトモ

〇事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ專屬スルモノナレハ之レニ對スル論難ハ上告ノ理由トナラス

辯護人磯部四郎擴張書第一點ハ原判決ハ刑事訴訟法第二百八條及第七十七條ニ違背シタルモノナリ即チ明治三十四年五月七日ニ作成セラレタル原公判始末書ヲ閱スルニ公ニ辯論ヲ爲シタルコト若シ公開ヲ禁シタルトキハ其事由且被告人ハ身體ノ拘束ヲ受ケスシテ出廷シタリヤ否ヤヲ記載セサルヘカラサルニ何等ノ記載ヲナサ、リシハ之レ法律ニ違背シタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

〇該始末書ノ末尾ニ本件ハ終始裁判ヲ公行シ且被告人ノ拘束ヲ爲サストアリテ本論旨ハ謂レナシ」其第二點ハ原院判決ハ左記ノ無効ノ訊問調書ヲ斷罪ノ資料トナシタル違法ナリ(一)參考人川島アキ第二回ノ豫審訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモノ一件記録中川島アキナルモノ、第一回豫審訊問調書ナルモノアルコトナシ然ラハ第二回トアルハ第一回ノ誤ナリ果シテ然ラハ該調書ハ訊問調書ナ

附第四點

ルノ正式ヲ備ヘサルノ違法ノ調書ナリト信スト云フニ在レトモ

〇記録四三四丁ニハ川島アキノ第二回豫審調書アリテ本論旨モ謂レナシ(二)證人松原馬吉ノ宣誓書ニハ只單ニ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フトアルモ如何ナル事件ノ證人トシテ宣誓チナシタリヤ且宣誓チナシタル年月日ノ記載ナシ之レ刑事訴訟法第二百二十三條ニ違背シタルモノナリト云フニ在レトモ

〇宣誓書ニ何々事件及ヒ其年月日ヲ記載スヘシト規定アルニアラサレハ其記載ナキヲ以テ違法ノ宣誓書ト云フヲ得ス(三)證人吉川民三郎ノ豫審調書ニ證人氏名自署ノ部ニ吉川民三郎ノ三ノ一字ヲ挿入シタルニ不拘之ニ認印ヲナサ、リシハ刑事訴訟法第二十一條ニ違背シタル無効ノ調書ナリト信スト云フニ在レトモ

〇證人ノ自署シタル氏名中挿入ノ個所アリテ之レニ認印ナシトテ違ハ官吏ノ記載ニ係ハルモノニアラサレハ前記ノ法條ヲ適用シ無効ノ文書ト云フヲ得サレハ本論旨モ相立タス」其第三點ハ原判決主文ニハ公訴費用ハ被告ノ負擔トストアレトモ其費用ノ全部ナリヤ一部ナリヤ且其負擔スヘキ金額ノ記載ナシ之レ刑事訴訟法第二百一條第一項ニ違背シタルモノト信スト云フニ在レトモ

〇單ニ公訴費用トアリテ其幾部ナルカヲ示サ、レハ費用ノ全部タルコトハ知ルヲ得ヘシ又其金額ノ如キハ記録ニ依リ容易ニ知ルヲ得ヘキモノナレハ之ヲ詳記セサルモ不法ト云フヲ得ス

同擴張書(第二回)ノ要旨ハ原判文六葉「證人松原馬吉カ當時卯之次郎衣裳ニ附着シタル血痕ハスニ枕元ニアリタル唐紙ニ附着シタル血痕ト同シシテ散點シタル趨勢アルカ如ク認メタル旨供述セ

判事第七點

ルニ依レハ被告カ當公廷ニ於テ辯解スル如ク該衣類ノ血痕ハ被告カ豫審判事檢證ノ際スエノ死體ヲ取
 扱ヒタルカ爲メ又ハ被告ノ云フカ如ク雪隠ニテハタリノ音ヲ聞キ付テスエ宅ニ入り死體ヲ摩シ
 タル爲メ附着シタルモノト認メノヨリハ却テ被告ハ血液迸出ノ場合ニ之ニ接近シタルコトアルカ爲メ
 其衣類ニ散點シタルモノト認メサルヲ得ス」トアルニヨレハ原院判文ハ證人ノ意見ヲ採用シテ犯罪事
 實ヲ認定シタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ〇刑事上ノ證據ハ證人ノ意見タルト否トニ關セ
 ス之ヲ罪證ニ供スルコト素ヨリ妨ケアルコトナシ故ニ原判決ハ不法ニアラス』辯護人高木益太郎ノ辯
 明書ハ本件ニ付キ鑑定人本間包三ヨリ水戸地方裁判所判事黒田文八郎ニ宛テ法醫學的鑑定書ナルモノ
 ナ提出シタル日時ハ實ニ明治三十年一月二十六日ナルコトハ該鑑定書ニ押捺シアル同裁判所ノ受付印
 ニ徴シ明白ナリ而シテ其當時ニ於ケル本件ノ被告ハ市毛卯之次郎同ハツノ兩名(卯之次郎ハ同月二十
 日拘留トナリハツハ同月二十五日其共犯トシテ起訴セラル)ナルニ鑑定人本間包三ハ只被告卯之次郎
 トノ間ニ於ケル身分如何ヲ問查セラレ同人ニ對スル關係ニ就キ宣誓シタルノミニシテ其鑑定書提出ノ
 前日既ニ被告ノ頭數増加シタルニモ不拘豫審判事ハ鑑定人ニ對シ更ニ増加シタル被告トノ間ニ於ケル
 身分如何ヲ問查セス又其關係ニ就キ宣誓ヲナサシメザリキ是故ニ右鑑定ハ適式ノモノト認ムヘカヲサ
 ルモノナルニ原院カ之ヲ適式ノ書類ト看做シ有罪ノ證據ニ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇
 該鑑定書ヲ查スルニ裁判所ノ受付ハ所論ノ如キ日附ナルモ鑑定ヲ命ジ宣誓ヲ爲サシメタルハ明治三十

年一月二十日ニシテ該鑑定書ヲ作成シタルハ同月二十五日ナリトス既ニ作成ノ日ニシテ一月二十五日
 ナル上ハ良シ裁判所ノ受付ハ其翌二十六日ナリトスルモ其作成ノ日附ニ付何等ノ影響ヲ及ボスヘキ謂
 レアラサルナリ左レハ市毛「ハツ」カ本件ノ被告トナリタル該鑑定書ノ作成ト其日ヲ同フスルモ鑑定人
 カ「ハツ」ノ起訴セラレタルノ事實ヲ知得シタル後之レヲ作成シタルト認ムヘキノ證ナキノミナラス其
 起訴ハ果シテ作成ノ以前ニ係ルモノト確認スルヲ得サルモノナレハ所論ノ如ク證據ヲ「ハツ」ノ起訴ニ
 置キ該鑑定書ヲ不適式ノモノト論争スルヲ得ヌ故ニ本論旨ハ其理由ナシ
 辯護人宮古啓三郎辯明書ノ第一ハ原判決ヲ閱スルニ證人松原馬吉ノ證言ヲ採テ斷罪ノ證憑ト爲セリ然
 ルニ同人ヲ證人トシテ呼出スコトハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ依リタルモノニ非スシテ公廷ニ於テ
 決定シタルモノニ非ス而シテ一件記録中同人ヲ證人トシテ呼出スコトノ原院ノ決定書ナルモノヲ發見
 セスサレハ原院ニ於テ適法ニ松原馬吉ヲ證人トシテ取調ヘタルモノト云フコト能ハサレハ原判決カ之
 ナ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇原公判始末書一二八五丁ヲ閱スルニ裁判長ハ
 云々評議ノ上松原馬吉ヲ取調フル爲メ次回ニ續行スル旨ヲ告ケ云々トアリテ馬吉ヲ證人トシテ喚問ス
 ヘキ旨ノ告知アル上ハ該證人ノ訊問ヲ以テ不適式ト云フヲ得ス』其第二ハ原院公判始末書ヲ閱スルニ
 一回辯論ヲ閉テ判決ヲ言渡スコトニ至リタルニ更ニ之ヲ再開シ其再審理ノ後被告人ニ對シ死刑ノ判決
 ナ與ヘタルモノナリ然ルニ刑事訴訟手續上一旦閉テタル辯論ヲ再開スルコトヲ得ルヤ否ヤ明文ナキ以

上ハ再開シ得ヘキモノニ非スト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ原判決ハ刑事訴訟手續ニ違背スルモノナリト云フニ在レトモ○一旦終結ヲ告ケタルモ未ダ判決ヲ與フルニ熟セサル場合ニアリテ再ヒ辯論ヲ開始スルハ相當ノ措置タルコト勿論ナルノミナラス法律上之レヲ禁シタルコトノ規定アルコトナシ故ニ辯論ヲ再開セシテ以テ訴訟手續ニ違背セシモノト云フヲ得ス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十一月十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○財産脱漏ノ件

明治三十四年十一月十九日宣告

○判決要旨

被害者カ被告人ニ對シ被告事件ニ原因スル訴訟ヲ民事裁判所ニ提起スルモ贓物ノ返還損害ノ賠償(刑事訴訟法第二條)ヲ請求スルニア

ラサレハ被害者ハ被告事件ニ付キ證人タルノ資格ヲ失フコトナシ

(參照) 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス(刑事訴訟法第二條)

第一審 福岡地方裁判所小倉支部 第二審 長崎控訴院

被告人 小西庄三郎

外一名

右財産脱漏事件ノ控訴ニ付明治三十四年十月五日長崎控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ棄却シタル判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨第一ハ告訴人杉野初藏ハ被告ニ對シ被告兩人間ノ船舶賣買ヲ虛偽ノ行爲ニ出テタルモノト爲シ即チ家資分散ノ際脱漏ノ目的ニテ爲シタル賣買ナリト主張シ民事裁判所ニ出訴シタルモノナリ故ニ初藏ハ本件ニ付證人ノ資格ヲ有セサルモノナルニ原院カ同人ノ豫審調書ヲ採テ證據ト爲シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○杉野初藏カ假令ヒ所論ノ如ク民事裁判所ニ出訴シタリトスルモ右ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ裁判所ニ請求シタルニ過キスシテ刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還損害ノ賠償ヲ請求シタルモノニアラサルヲ以テ原院カ豫審ニ於テ右初藏ヲ證人トシテ訊問シタル調書ヲ採テ證據ト爲シタルハ不法ノ判決ニアラス

第二ハ第一二審裁判所カ證人訊問ノ申請ヲ排斥シ告訴人ノ供述各被告人ノ供述中金額ノ差異アルカ如

キ些末ノ事項ヲ採テ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第二百十九條ノ法意ニ違反スル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○證據ノ判斷竝ニ證人訊問ノ必要ナルヤ否ヤヲ甄別セテ許否ヲ決スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ證人訊問ノ申請ヲ排斥シ原院文列記ノ證據ニ依リ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不當ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十四年十一月十九日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○毆打創傷ノ件

明治三十四年十一月十九日第一五二八號
明治三十四年十一月十九日宣告

○判決要旨

會テ鑑定シタル事項ニ關シ訊問ヲ爲スモ其訊問事項ニシテ判斷ヲ聽クニアラサルトキハ證人ト爲スニ於テ妨ナシ

第一審 神戸地方裁判所姫路支部 第二審 大阪控訴院
被告人 鶴鷹彌三吉

右毆打創傷被告事件ニ付明治三十四年十月十三日大阪控訴院ニ於テ原判決ヲ取消ス被告ヲ重禁錮一年二月ニ處ス押收ノ息杖及鎌ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスル旨言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
上告趣意書ハ理由ニ不備アリ刑法第三百一條第一項ハ毆打創傷シテ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタルモノハ云々ト總括の規定ナルヲ以テ刑ヲ科セント欲セハ疾病休業ノ時間ハ明記セサルヘカラス何ントナレハ三十日間ト五ヶ年トノ二ツノ疾病休業セシメタルモノアリト假定センニ何レモ單ニ疾病休業二十日以上ニ至ラシメタルモノト事實ヲ認定スルノミニテハ刑期ノ長短ト罪ノ輕重トノ因テ分ル、所ヲ知ルニ由ナシ然ルニ原院ハ此點ヲ無視シ唯醫師高橋謙一郎カ現時ノ容體ハ頗ル輕易ナルヲ以テ今後信用アル醫師ノ治療ト親愛ナル家庭ノ獎勵トニ依レハ或ハ二週間許ニシテ能ク體力ヲ恢復シ勞働ニ從事スルヲ得ルニ至ランカト鑑定セルニモ拘ハラス漫然二十日以上ノ疾病休業ニ至ラシメタルモノト認定シ其疾病休業ノ期間ヲ明確ニ認定セス以テ長期ノ刑罰ヲ科シタルハ理由不備ニシテ所謂刑事訴訟法第二百六十九條第九號ニ該當スル裁判ナリトスト云フニ在リ○然レトモ刑法第三百一條第一項ニ人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能

ハサルニ至ラシメタル者ハ云々ト規定シアリテ二十日以上ナルニ於テハ均シク同條ヲ適用スヘキモノナレハ原判文上創傷ノ爲メ疾病休業二十日已上ニ至ラシメタルモノトノ理由ヲ明示シタル上ハ其疾病休業ノ時間ヲ子細ニ之ヲ示スノ要ナシ他ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ判斷事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス

辯護人高木益太郎辯明書ハ鑑定人高洲謙一郎ハ曩ニ豫審判事ニ對シ一旦鑑定書ヲ提出シタルモ第一審公判々事ハ右鑑定人ノ鑑定ハ未タ明白ナラサルモノト認メ更ニ同人ヲ鑑定事項ニ就キ訊問シタル處鑑定人ハ豫審ノ鑑定書ニ付更正ノ申立ヲナシタル事跡ハ原判決證據説明ノ部ニ「第一審始末書（明治三十四年七月二十六日公判始末書）ニ問其鑑定書中第一葉即命令ノ部四行ニ此者ノ身體ヲ檢シテトアリ裏面ノ二行二葉ノ二行ニ「鶴鷹彌三吉」トアリ是レハ此者ヲ檢診シタル爲メ鑑定書中左様ノ記載シタルカ此時證人ニ被告ヲ指示セリ答夫レハ誤記ナリ「鷲尾松彌」ナリ第一葉ノ四行ニ「此者」トアルモ同様松尾ヲ指シタルモノナルヲ以テ訂正セン間同葉裏面ノ七行目ニ右願頂部トアルハ夫レニ相違ナキヤ答之レモ誤記ニテ左願頂部ノ間違故訂正セントノ裁判長ト高洲謙一郎トノ問答記載」トアルニヨリ明瞭ナリ如斯豫審ニ於テ爲シタル鑑定事項ニ付公判ニ於テ更ニ訊問ヲナス場合ニハ之ヲ證人トシテ訊問スヘキヤ將テ鑑定人トシテ訊問スヘキヤノ點ニ付テハ刑事訴訟法第百八十九條ノ豫審ニ於テ鑑定ヲナシタル鑑定ハ更ニ呼出スコトヲ得トノ規定ニ基キ尙ホ鑑定人トシテ訊問スヘキコト勿論ナリ而シテ鑑定人

トシテ訊問スヘキモノナル以上ハ之レニ公平且誠實ニ鑑定スヘキ旨ノ宣誓ヲナサシムルコトヲ要ス然ルニ第一審裁判所ハ謙一郎ニ對シ證人タルノ宣誓ヲナサシメタルノミニテ鑑定人タルノ宣誓ヲナサシメタルコトナク且ツ其訊問ニ對スル供述ハ徹頭徹尾豫審ニ於ケル鑑定書ヲ更正スルノ申立ニ外ナラザレハ固ヨリ證人トシテ供述スヘキ事項ニアラス故ニ前記ノ供述ハ公判ニ於テ適式ノ宣誓ヲ爲サ、ル結果成立シタルモノナレハ合法ノ證據方法ト認メ難シ然ルニ原院カ右ノ部分ヲ適法ノ證據方法ト認メテ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院カ高洲謙一郎ニ對シテ爲シタル訊問ハ同人カ會テ鑑定シタル事項ニ關スルモ其實同人カ自ラ爲シタルコト及ヒ其見タルコトニ付キ訊問シタルモノニシテ之カ判斷ヲ聽キタルモノニ非ラサルヲ以テ原院カ之ヲ證人トナシ證人ニ付テハ宣誓ヲ爲サシメタルハ相當ナリトス

同追申書ハ原判決カ有罪ノ證據ニ採用セシ豫審ニ於ケル高柳謙一郎ノ鑑定書ニハ前記ノ如ク第一鑑定ノ物體ヲ誤リテ被害者鷲尾松次郎ヲ加害者鶴鷹彌三吉ト記載シ第二創傷部分ヲ右願頂部ナルニ左願頂部ナリト記載シアリマニ其後公判ニ至リ右ノ誤記ヲ發見シテ鑑定書ノ文字ニ訂正ヲ加ヘタルコト明白ナリ然レトモ一旦正當ニ成立シタル豫審記録ハ假令公判々事ノ命令ニ出ツルト雖モ其文字ニ刪正ヲ施スコトハ法律ノ許サ、ル所ナリ然ルニ原院ハ右ノ違法ニ變更ヲ加ヘタル鑑定書ノ記載ヲ其儘證據ニ採用シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○豫審ニ於テ作成シタル鑑定書ノ文字ヲ訂正シタルハ稍

允當ナラサルモ之レガ爲メ該鑑定書カ無効ニ歸スヘキモノニアラサルヲ以テ原院ガ之ヲ證據ニ供マ
ルハ不法ト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十四年十一月十九日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○竊盜及贓物故買ノ件

明治三十四年十一月二十一日宣告
明治三十四年十一月二十一日宣告

○判決要旨

第一審判決ノ不當ニシテ控訴ノ理由アルコトヲ認メタルニ拘ハラ
ス之ヲ取消サ、ルハ不法ナリ

(参照) 控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法
第二百六十六條第一項)
第一審 秋田地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 川越 熊藏 辯護人 高木益太郎
外一名

右熊藏ニ對スル竊盜貞助ニ對スル贓物故買事件ニ付明治三十四年十月二日宮城控訴院ニ於テ言渡シタ
ル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

被告熊藏上告趣意ノ第一ハ原判決ニハ被告ハ德藏福治重藏等ト共謀シ竊取シタリトアレトモ何人ノ申
立ニ基キ斯カル斷定ヲ下サレタルモノナルカ云々ト云ヒ」其第二ハ被告ハ本件ニ關係シタルコトナシ
單ニ證人伊助ノ申立ニ被告カ加功シタルカ如キ申立アルモ右ハ決シテ信ヲ措クニ足ラヌ云々ト云ヒ」
其第三ハ被告及重藏ハ共ニ輕罪四犯ニシテ共謀ナリトセハ同等ノ刑ヲ科スヘキニ原判決茲ニ出テス刑
期ニ差等ヲ付シタルハ不法ナリ云々ト云フニ在レトモ○原判決ヲ見ルニ種々ノ證據ヲ説明シテ事實ヲ
認定シアリテ右第一ノ論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ判斷ニ對スル不服ニ外ナラス第二ノ
論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨ニ對スル非難ニシテ第三ノ論旨亦其職權ニ屬スル刑期ノ量定ニ
對スル不服ニシテ總テ上告適法ノ理由トナラス

被告貞助辯護人高木益太郎辯明ノ趣旨ハ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニヨルトキハ控訴ニ理由ア
リトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲナスヘントノ規定アリ而シテ上告人柏原貞助ハ曩キニ秋田
地方裁判所大曲支部ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケタルニ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルヨリ原院ハ其審判ヲ遂ク

控訴理由アルニ原判決ヲ取消サ、ル判決

ルニ至リタルモノナルニ原判決主文ニハ單ニ被告貞助ヲ重禁錮三月罰金六圓監視六月ニ處ストノミア
 リテ第一審判決ヲ取消ス旨ノ記載ナシ(原判決主文ノ部參照)而シテ假令下級裁判所ノ判決ト雖モ荷
 モ一旦其宣告アリタル以上ハ法定ノ原因アルニアラサレハ猥リニ變更セラルヘキモノニアラス故ニ上
 級裁判所タル原院ニ於テ檢事ノ控訴ヲ理由アリトナストキハ原判決ヲ取消ス旨宣告ヲ下スヘキ筋合ナ
 ルニ原院ノ舉措茲ニ出テサリシハ法則ヲ適用セサル不法アルモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ第
 一審判決ハ被告貞助ニ對シテハ無罪ヲ言渡シタルニ檢事ノ控訴ニ係リ原院ハ審理ノ末被告ニ對シ重禁
 錮三月罰金六圓監視六月ニ處シアリ其判決理由ニ於テ檢事ノ控訴ノ理由アル旨ヲ說示シアリテ第一審
 判決ノ不當ナルコトヲ認メタルコト明カナルモ其判決中何レノ部分ニ於テモ其不當ナル第一審判決ヲ
 取消スヘキ旨ノ記載アルコトナシ而シテ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ控訴ヲ理由アリトスルト
 キハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲ス可シトアリテ控訴ノ理由アル場合ニハ明カニ原判決ヲ取消サル
 ヘカラス故ニ原院判決ハ右ノ規定ニ違背シタル不法ノ判決ニシテ全部破毀ヲ免カレサルモノトス既
 此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノト認メタル以上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明セス
 右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
 被告能藏ノ上告ハ之ヲ棄却ス
 被告貞助ニ對スル原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ函館控訴院ニ移ス

明治三十四年十一月二十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事石賀廉造立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十四年十一月二十五號
 明治三十四年十一月二十二日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 因テ官私ノ文書云々ノ法則(刑法第三百九十條第二項)ハ
 詐欺取財罪ヲ犯スニ因テ官私ノ文書ヲ偽造行使シタル場合ニ適用
 スヘキモノニシテ詐欺取財罪ヲ犯シタル後偽造ノ文書ヲ行使シタ
 ル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

(參照) 因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ
 從テ處斷ス(刑法第三百九十九條第二項)

(判旨第三點) 控訴セサル相被告ハ一審判決確定ト共ニ該判決ニ基キ
 當然一審ニ於テ生シタル裁判費用ヲ負擔ス故ニ二審判決ガ一審ノ

文書偽造ト詐欺取財○公訴裁判費用ノ負擔

相被告ニ對シ裁判費用ノ負擔ヲ定メサルモ控訴被告ニ何等利害ヲ生スルコトナシ從テ控訴判決ニ於テ控訴被告ニ對シ公訴裁判費用全部ノ負擔ヲ言渡スモ不法ニ非ス

第一審 岡山地方裁判所高梁支部 第二審 大阪控訴院

被告人 金山定二郎 外一名

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十四年十月十一日大阪控訴院ニ於テ言渡タル判決ニ對シ原院檢察長大島貞敏及被告兩名ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

檢察長大島貞敏上告趣意書ハ原院認定ノ事實ニ依レハ被告兩人ハ共犯人伊藤賴之助ト共謀シ被告定二郎カ安田喜作ヨリ受取リシモ既ニ無効ニ歸セシ宛名保證人ナキ金二百圓ノ預リ證書ニ宛名ヲ伊藤賴之助保證人ト金山勝太郎中村彌三郎ト記載偽造シ之ヲ根據トシテ賴之助ヨリ喜作ニ對シ金二百圓請求ノ訴訟ヲ提起シ喜作ノ欠席セシニ依リ勝訴ノ判決ヲ受ケ強制執行ノ末其請求金額ヲ騙取シ該偽造證書ヲ喜作ニ交付シタルモノニシテ其金額騙取ノ以前ニ偽造證書ヲ被害者又ハ第三者ニ提示シタル事實ナシト雖モ之ヲ偽造セシハ詐欺取財ノ手段ニ供スルノ意思ニ外ナラサルハ明瞭ニシテ且金額ト引替ニ交付セシモノナレハ刑法第三百九十條第二項ニ所謂詐欺取財ヲ爲スニ因テ私文書ヲ偽造シタルモノナルコ

判旨第一點

トハ一點ノ疑團ナカルヘシ然ルニ原院ニ於テハ別個獨立ノ犯罪ト爲シ刑法第百條ヲ適用セルハ實ニ失當ノ判決ト云ハサルヲ得ス故ニ原判決ヲ破毀シ更ニ第一審判決ノ如ク刑法第三百九十條第二項ニ依リ一罪トシテ相當ノ處分有之度シト云フニ在レトモ○刑法第三百九十條第二項ニ「因テ官私ノ文書」云云トアルハ詐欺取財罪ヲ犯スニ因テ官私ノ文書ヲ偽造行使シタル場合ヲ云フ然ルニ原院文書ニハ強制執行ノ末請求金額ヲ騙取シ該偽造證書ヲ喜作ニ交付シタルハ金額ヲ騙取シタルハ強制執行ニ基キタルモノニシテ證書ノ行使ハ騙取ノ以後ニ在リト認メタルモノナリ故ニ本件ニ於テハ文書ノ偽造ハ詐欺取財罪ヲ犯ス以前ニ在リト雖モ其行使ハ詐欺取財罪ヲ犯シタル後ニ在ルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ詐欺取財罪ト文書偽造行使罪ハ全ク別個ノ犯罪ナルヲ以テ原院カ刑法第百條ヲ適用シタルハ相當ナリトス

被告兩人ノ上告趣意書ハ原判決ハ法律ニ違背シタル不法アリ追テ擴張書ヲ以テ辯明スヘシト云フニ在リ而シテ其辯明書第一ハ原審ニ於テ被告事件ヲ詐欺取財ナリト判定セルニ拘ハラス被告等カ詐取セル金額ヲ明記セサルハ違法ナリ豫審終結決定書ニヨレハ被告等ハ安田喜作ヨリ金二百圓及訴訟費用執行費等金三十六圓二十九錢五厘ヲ領收セルモノナリ然ルニ原院ニ於テ「被告等ハ本年四月九日強制執行ノ上喜作宅ニ於テ請求金額ヲ受取リ其證書ヲ喜作ニ返還シタルモノナリ」ト判定セルヲ以テ被告等ハ幾何ノ金員ヲ騙取セシモノナリヤ明ナラス凡ソ詐欺取財ノ罪ヲ斷スルニ當リテハ其犯罪ニヨリ如何ナ

ル物品ヲ取得セシモノナリヤ幾何ノ金員ヲ詐取セシモノナリヤチ明確ニスヘキヤハ論ヲ待タサルコトナルニ原審カ此點ヲ判決ニ明示セザリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ其前段ニ被告ハ安田喜作ニ對シ二百圓ノ請求訴訟ヲ提起シテ云々後段ニ強制執行ノ末請求金額ヲ騙取シトアリテ被告カ騙取シタル金額ハ右請求シタル二百圓ナルコト明瞭ナレハ上告ハ其理由ナシ」第二ハ原審ニ於テ公訴裁判費用ノ全部ヲ上告人兩名ニ連帶シテ負擔スヘシト判決セルハ違法ナリ本件被告人ハ第一審ニ於テハ上告申立人及伊藤頼之助ノ三人ニシテ共有罪ノ判決ヲ受ケ上告人等ハ此判決ニ對シ控訴ヲ爲シ有罪ノ判決ヲ受ケタルモノナレハ公訴裁判費用ハ第一審ニ於テ生セシ分ニツキテハ上告申立人ノ外頼之助ト三人連帶ニテ負擔スヘシ第二審ニ於テ生セシ部分ニ限リ上告申立人等ニ於テ負擔スヘキモノナルニ原院ニ於テ公訴裁判費用全部ハ上告申立人等ノ連帶義務ナリトシ第一審ニ於テ生セシ費用ハ伊藤頼之助ト連帶支拂スヘキモノナリト定メザリシハ失當ナリト云フニ在レトモ○頼之助ニ對スル第一審判決ハ既ニ確定シタルモノナレハ第一審ニ於テ生シタル裁判費用ハ該判決ニ依リ同人ニ於テ當然之ヲ負擔スヘキモノナルヲ以テ原院カ上告人ノ控訴ニ付キ更ニ頼之助ノ負擔スヘキ旨ヲ定メサルモ上告人ニ對シ何等ノ利害ヲ生セサルモノトス依テ原院カ公訴裁判費用全部ヲ上告人ノ連帶負擔トノミ判示シタルモ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

判例第三點

明治三十四年十一月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十四年十一月二十五日第一七號
明治三十四年十一月二十二日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第七十條ノ法則中ニハ裁判所書記ノ署名捺印ノコトヲ包含セス從テ豫審終結決定書ニハ裁判所書記ノ署名捺印アルヲ要セス

(參照) 前條ノ決定豫審終結決定ニハ第七十六條ノ規定ニ從ヒ被告人ノ氏名等ヲ明示ス可シ(刑事訴訟法第七十條)

總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ(刑事訴訟法第七十六條)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

豫審終結決定書ノ書記ノ署名捺印

被告人 長村市三郎 外二名 辯護人 岡崎正也 佐藤直二郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十四年九月三十日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告市三郎辯護人佐藤直二郎被告五市郎同喜二郎ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告市三郎辯護人佐藤直二郎上告趣意書第一點ハ原院ノ認定セシ事實ニ依レハ南清太郎ノ債權ハ市三郎長男榮太郎ニ對スルモノ而シテ南清太郎ノ爲メ差押ヲ受ケ競賣シ去ラレタル財産ハ實際依然トシテ市三郎ノ所有ニ屬シ從テ該賣得金モ亦タ實質上長村市三郎ニ復歸セサルヘカラサル理合トス唯市三郎等田夫ノ意ニ南清太郎ト右ノ道理ヲ論争スルヲ欲セス偶々假裝債權ニ仍テ配當ヲ要求シ之ヲ回收スルノ一策ヲ利便ト誤信シタル結果ハ南清太郎所屬ノ賣得金ヲ詐取シタル如キ形狀ヲ醸出セシト雖モ是實ニ表形ノミ其裏實ハ假裝債權ノ一策ヲ構シテ不當ニ奪去セラレツ、アル市三郎自己ノ金額ヲ回收セシノミ曷ソ他人ノ財物ヲ騙取スト爲スヘケンヤ而シテ原院ハ判文ニ長男榮太郎モ亦タ南清太郎ヨリ金五十圓ヲ借用セルコトヲ發見シ云々能ク該債務ハ實際榮太郎ニ歸屬セル眞像ヲ觀取シナカラ強制執行ノ一段ニ至リテ其形式ヲ主トシ理正ニ市三郎ニ復歸スヘキ賣得金ヲ南清太郎ノ所得ナリトシ市三郎ノ之ヲ回收シタル行爲ヲ目シテ詐欺取財罪ヲ構成ストノ論斷ヲ下シタルハ即チ是罪ト爲ラサル事實ヲ認定シナカラ之ニ罰條ヲ加ヘタル不法アル判決ト爲サ、ルヲ得スト云ヒ」被告五市郎上告趣意書ノ第一ハ

原院ハ上告人ト市三郎ト共謀シ虛偽ノ債權證書ヲ作り之ヲ以テ南清太郎ノ市三郎ニ對スル有體動産差押ニ照查手續ヲ請求シ競達吏ヨリ競賣代金中ノ幾分ヲ騙取シタリト云フモ原院ノ云フカ如クモ競達吏ノ差押ヘタルハ市三郎ノ財産ニシテ上告人ハ市三郎ノ承諾ヲ得テ競達吏ヨリ之ヲ受取リタル筋合トナルヲ以テ騙取即チ不法ニ獲得シタル事實アルナシ然ルニ原院カ詐欺取財ニ問擬シタルハ不法ナリ第二ハ競達吏カ差押ヘタル市三郎ノ有體動産競賣代金ヲ配當スヘキ債權者ハ南清太郎ト上告人ノ二人アルノミ而シテ原院ノ認定シタル事實ニ依レハ南清太郎ハ市三郎ノ長男榮太郎ニ對スル貸金ノ辨濟ヲ得ンカ爲メ市三郎ノ有體動産ヲ差押ヘタリト云フニ在リ果シテ然ラハ債務者以外ノ第三者ノ財産ニ對シ強制執行ヲ爲セタルモノナルカ故其差押ハ已ニ不法ナリ從テ南清太郎ハ競賣代金ヲ得ヘキ權利アル者ニアラサルカ故競賣代金ハ依然市三郎ニ歸屬スヘキ筋合ナリ此市三郎ニ歸屬スヘキ競賣代金ヲ同人ノ承諾ヲ得テ上告人カ競達吏ヨリ受取リタルハ犯罪ヲ組成セサルハ炳然タリ此點ニ關シ原院カ南清太郎ニ於テ榮太郎ニ對スル債權ニ付市三郎ノ有體動産ヲ差押ヘタルハ何故ニ合法ナルヤヲ示サスシテ當然合法ナルモノト爲シ以テ上告人ニ詐欺取財ノ罪アリト判示セラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告等三名ハ共謀シテ虛偽ノ債權ヲ作爲シ以テ競達吏カ被告市三郎長男榮太郎ノ債權者タル南清太郎ノ債權ノ爲メ差押ヘタル被告市三郎ノ有體動産競賣代金ヲ騙取シタル事實ナレハ縱令ヒ其差押ハ不當ナリトスルモ適法ノ手續ニ依リ之カ解除ヲ請求セスシテ詐欺ノ手段ヲ行ヒ以テ其財産ノ競

賣代金ヲ騙取シタルモノナレハ其所爲ハ則チ詐欺取財ノ罪ヲ構成スルモノト云ハサル可カラズ故ニ原
院カ被告等ノ所爲ヲ認メテ詐欺取財ト爲シ之ヲ處罰シタルハ相當ニシテ右論旨ハ總テ其理由ナシ
被告五市郎ノ上告趣意書第三ハ執達吏ヨリ配當ヲ受クヘキモノハ清太郎ト上告人ノ二人ノミ若シ本件
ニ於テ詐欺取財カ成立スルモノトセハ南清太郎カ其債權ニ對シ受クヘキ金額ヲ上告人カ虛偽ノ債權ヲ
以テ横取りシタリト云フ金額ニ對シテノミ成立スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原院ハ上告人カ清
太郎ノ債權ヲ何程害シタルヤヲ明示セズシテ漫然競賣代金中ヨリ虛偽ノ債權ニ依リ七十四圓八十五錢
二厘ヲ騙取シタリト判示シタルハ理由ヲ附セサル不法アルモノトスト云フニ在レトモ○原判決ニ依レ
ハ被告五市郎ハ自己カ真正ニ有スル債權六十六圓ニ對シテ配當要求ヲ爲シタルニ非スシテ虛偽ノ債權
タル二百五十圓ニ對シ配當要求ヲ爲シ以テ七十餘圓ヲ騙取シタル事實ナレハ右金額ハ全ク詐欺ノ手段
ニ依リ之ヲ騙取シタルヤ明カナリ而シテ縱令ヒ南清太郎ノ債權額ハ競賣代金ノ全額ニ達セズシテ内幾
部ハ被告市三郎ニ復歸スヘキモノトスルモ苟モ執達吏ノ保管中ニ於テ執達吏チ欺キ之ヲ騙取スルニ於
テハ詐欺取財ノ罪アルチ免カレサルチ以テ本論旨亦理由ナシ
被告喜二郎上告趣意書ハ原院カ認定シタル事實ニ徴スレハ詐欺取財ノ罪ニアラスシテ我カ刑法上罪ト
シ罰セサル所謂詐欺免債務ト稱スヘキ所爲ナリトス何チカ詐欺免債務ト云フ則チ債權者南清太郎ノ金
五十圓債權ノ取立ニ對シテ之レカ辨濟額ヲ少ナカラシムルノ手段ニシテ換言スレハ債權者チシテ債務

全部ノ取立ヲ爲サシメスシテ成ルヘク之レカ債務ノ辨償ヲ免脱セント欲スル消極的ノ行爲ナレハナリ
抑モ我カ刑法ニ於ケル詐欺取財罪ヲ構成スルニハ第一詐欺ノ所爲アルコト第二取財ノ事實アルコトチ
要スルモノナレハ苟モ第二ノ要素タル取財テウ文字ハ被告人若クハ他人チシテ或ル他ノ者ヨリ或ル金
錢財物ヲ取得スル則チ積極的ノ行爲ナカルヘカラス今ヤ本件ノ事實ニ依レハ金七十四圓八十五錢二厘
チ執達吏ノ手ヨリ騙取シタリトアリト雖モ其騙取セラレタルモノナキチ如何セシ何ントナレハ執達吏
ハ法律ノ規定ニ依リ活動セル一ノ物體ト見做スヘキモノナレハ被害者ト稱スヘキモノニアラサレハナ
リ之チ要スルニ本件ハ刑法第三百八十八條ニ掲記セラレタル虛偽ノ債務云々ニ該當スル犯罪ト同一ノ
事實ナルモ家資分散ノ際ニアラサルチ以テ同條チ適用スルコト能ハサルヨリ牽強附會シテ以テ刑法第
三百九十條第一項チ不當ニ適用シタル不法ノ判決ナリト云ヒ」同擴張書第一ハ凡ソ私權チ侵害シタル
犯罪行爲ニハ必ラスヤ之レカ被害者ナカルヘカラスハ論チ俟タス今ヤ原判決チ閱スルコト下ノ如キ事
實チ認定セラレタリ曰ク(金七十四圓八十五錢二厘チ村松執達吏ノ手ヨリ騙取シタリ)云々トアリテ
恰モ執達吏カ被害者ノ如ク解釋シ得ラルヘシト雖モ本件ノ場合ニ於テハ決シテ執達吏チ以テ被害者ト
指示スルコト能ハサルヘシ何トナレハ執達吏カ競落代金チ占有セルハ果シテ何人ノ爲メコト占有セルモ
ノナルヤチ論究スルニ執達吏カ金員チ占有スルハ即チ代理占有ニシテ債權者南清太郎ト虛偽ト稱スル
債權者惠坂五市郎(相被告人)兩名ノ爲メ占有セシモノナレハ此占有者ノ手ヨリ取受シタル金員ハ縱令

ト虚偽ノ債權者トナルモ法律ノ效果即チ脱落代金配當表ニ依リテ當然執達吏ノ手裡ヨリ流出スルモノナレハ如何ニ占有者カ之ヲ引渡サ、ラント欲スト雖モ力能ク之ヲ支フルコト能ハサルモノナレハ從テ騙取ト云フヲ得サレハナリ是ニ依リ之ヲ見レハ執達吏ヲ被害者ト指示スル能ハサルヘシ之ニ反シ南清太郎ヲ以テ被害者トセンカ清太郎ノ債權ハ五十圓ニシテ之ニ對スル配當金ハ十八圓八十八錢七厘ナレハ之カ殘餘ノ部分三十一圓十一錢三厘ヨソ或ハ被害ノ金員ト指稱スルヲ得ルカノ如クナリト雖モ原判決ニ記スル所ハ金七十餘圓ヲ騙取シタルモノトセラレタルヲ以テ全ク四十三圓七十三錢九厘ハ實ニ被害者ナキノ金員ナリトス夫レ如此詐欺取財ノ犯罪ニシテ其詐取シタル金員ニ被害者ノ存在スルナキハ刑法實施以來十數年間未ダ曾テ之レアラサル奇怪ナル現象ナリトス蓋シ原判決ハ我刑法上罰シ能ハサル即チ法ニ正條ナキ犯罪ヲ處罰セント欲スルカ故ニ以上ノ如キ奇怪ナル結果ヲ見ルニ至ルヘシ要スルニ前判決ハ被害者ニアラサル者ヲ被害者トシタル不法アル判決ナリトスト云ヒ」第二ハ假リニ數歩ヲ讓リ原判決全部ノ意味ヲ解釋シテ以テ被害者ハ執達吏ニアラス南清太郎ナリトセンカ清太郎ノ爲メニ占有スル執達吏ノ金員ハ若干ナリヤト尋繹スルニ金十八圓八十八錢七厘ニシテ其餘ノ七十四圓八十五錢二厘ハ五市郎ノ爲メニ代理トシテ占有セルモノナレハ實質上南清太郎カ騙取セラレタル被害ノ點ナキニ至ルヘシ茲ヲ以テ原判決カ認定シタル事實トスルモ詐欺取財ヲ構成セストノ理由ヲ以テ無罪ヲ宣告スヘカリシニ事茲ニ出テサルハ則チ罪トスヘカラサル事實ヲ罪トシテ不當ニ法律ヲ適用シタル不法

ノ判決ナリトスト云フニ在レトモ○執達吏ハ法律ニ規定シタル手續ニ依リ差押ヘタル財産ヲ競賣シ其代金ヲ保管スル者ナルニ被告等ハ已ニ被告市三郎辯護人及ヒ被告五市郎ノ上告趣意書ニ對シ説明シタル如ク詐欺ノ手段ヲ以テ執達吏ヲ欺罔シ之ヲ騙取シタル者ナレハ執達吏ハ則チ直接ノ被害者ニシテ債權者亦間接ニ其害ヲ受クヘキヤ明カナルヲ以テ詐欺取財罪ヲ構成セスト云フヲ得ヌ故ニ右論旨ハ總テ其理由ナシ

被告五市郎辯護人岡崎正也ノ擴張書第一點ハ本件豫審終結決定書ハ裁判所書記ノ署名捺印ヲ欠ク不法アリ刑事訴訟法第七十條ニヨレハ「豫審終結決定書ニハ第七十六條ノ規定ニ從ヒ被告人ノ氏名等ヲ明示スヘシ」トアリテ同條ノ規定ヲ援用セラレタリ今同條ノ規定ニヨレハ「總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業住所ヲ記載スヘシ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサル時ハ容貌體格等ヲ明示スヘシ又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及裁判所書記署名捺印スヘシ」ト規定セリ今本件豫審終結決定書ヲ見ルニ右ノ法條ニ反シ裁判所書記ノ署名捺印ヲ欠キタルモノニシテ本件豫審ハ未ダ終結セズ然レハ之ニ對シ第一第二審ノ判決ヲ下シタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第一項第五ニ違背スル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第七十條ノ規定中ニハ裁判所書記ノ署名捺印ノコトヲ包含セサルヲ以テ豫審終結決定書ニハ裁判所書記ノ署名捺印ヲ要セサルノミナラス假リニ論旨ノ如ク之レヲ要ストスルモ斯ル形式ノ瑕瑾ノ爲メ豫審終結決定ノ確定ヲ妨グルモノニ非ス故ニ本件豫審

終結決定ハ已ニ確定シタルヲ以テ之ヲ否難シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
 同第二點ハ本件ハ法律上犯罪ヲ構成スルモノニ非ス刑法第二百八十八條第一項ニヨレハ家資分散ノ際
 虚偽ノ負債ヲ増加シタルモノハ云々ト規定シ家資分散ノ場合ニ於テ虚假ノ負債ヲ増加シタル時ニ於テ
 尙且家資分散ニ干スル犯罪トシテ處斷セラル、ニ過キス果シテ然リトセハ本件ノ場合ニ於テ詐欺取財
 ナリテ間擬セラレタルハ立法ノ精神ニ非ス何トナレハ家資分散ノ際前示ノ事實有之タルモノトスルモ
 二月以上四年以下ノ重禁錮ヲ以テ處斷セラル、ニ過キスト雖モ家資分散前ニ於テ前示ノ事實有之タル
 場合ニ於テ刑法第三百九十條ノ規定ヲ適用シ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ
 以テ處斷セラレ家資分散ノ場合ニ於ケル刑期ヨリ重キ詐欺取財ヲ以テ間擬スルハ法ノ精神ニ非サルナ
 リ本件ニ付キ原院カ認メタル事實ハ單ニ虚偽ノ債權ヲ以テ配當要求ヲ爲シタルニ止マリ債務者ハ家資
 分散ノ狀況アルモノニ非サレハ之ニ對シ詐欺取財ヲ以テ處斷スル能ハサルハ明ニシテ又家資分散ニ干
 スル法則ヲ適用スルヲ得ス當然法律上罪トナラサルモノト思料スト云フニ在レトモ○本件被告等ノ所
 爲ハ單ニ虚偽ノ負債ヲ増加シタルノミニ止マラス進テ金錢ヲ騙取シタル事實ニシテ其詐欺取財罪ヲ構
 成スヘキ事ハ被告本人ノ上告趣意ニ對シ前已ニ説明シタルヲ以テ右説明ニ依リ本論旨ノ理由ナキコト
 ナ了解スヘシ
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ總テ之ヲ棄却ス

明治三十四年十一月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○酒造税法違反ノ件

明治三十四年十一月二十五日第一一八號
 明治三十四年十一月二十二日宣告

○判決要旨

鑑定人ニシテ民事原告人又ハ被告人ノ後見ヲ受シヘキ者ニアラサ
 ルコト訊問ヲ待タスシテ自ラ明カナル場合ニ在リテハ豫審判事ハ
 特ニ此點ノ調査ヲ爲スヲ要セス從テ其處措ハ違法ニ非ス

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 柏木林平 辯護人 田所欽一郎

右酒造税法違反事件ノ控訴ニ付明治三十四年十月七日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨ
 リ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書第一點ハ原院カ證人池上惣太郎ノ第一回竝ニ第二回ノ豫審調書ヲ證據トシテ採用セラレタ

鑑定人ノ身分關係ノ調査

ルハ違法ナリ何トナレハ右第一回第二回ノ證言ハ第三回豫審ニ於テ取消サレタル部分ニ屬スルモノナレハナリト云フニ在レトモ○證據ノ取捨及ヒ判斷ハ事實承審官ニ任セラレタルモノナレハ證人池上惣太郎カ假令第三回豫審ニ於テ第一二回ノ證言ヲ取消シタリトスルモ其何レカ信憑スヘキ證言ナルヤヲ判斷シ之ヲ取捨スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ第三回豫審調書ヲ證據ニ採用セス第一二回豫審調書ヲ採用シタルハ違法ニアラス

第二點ハ原院カ酒造ニ付密造シ得ラレサル方法ヲ以テ密造シタル如ク判斷シタルハ違法ナリ何トナレハ原院カ認定ノ如キ事實ニアツテハ到底密造ノ出來得ヘキモノニアラサレハナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス

辯護人田所欽一郎上告趣意擴張書第一點ハ本件ニ付キ被告カ犯罪ノ用ニ供シタリトノ嫌疑ヲ以テ押收セラレタル自己ノ所有ノ鑿ハ一個ニアラスシテ二個ナリ是レ一件記録中稅務屬富田欽吾外三名カ告發書ト俱ニ當該檢事局ニ送附シタル「目錄」ノ中第二號第三號(證據物件差押目錄、保管證)同第十四號第十五號(差押目錄、保管證)ニ徵シ明瞭ナル所也(二件記録中他ニ裁判所ヨリ鑿ヲ押收シタル事蹟ナク從テテ鑿ノ押收目錄ナルモノ絶テ存在セス)去レハ原院ニ於テ苟モ右押收セル二個ノ鑿ニ就テ内一個ヲ犯罪ノ用ニ供シタルモノト認メ從テ之レカ沒收ノ言渡ヲ爲サントスルニハ必スヤ犯罪ノ用ニ供セズト認メ從テ還附ノ言渡ヲナシタル他ノ鑿ト其識別ヲ爲スヘキ表章ヲ指示セサル可ラサル筋合ナル

○恰カモ押收物件中ニハ鑿テウ物件カ只ダ一個ヨリ存在セザリシモノ、如ク其判決主文ニ漫然「押收物件中鑿一個ハ沒收シ其他ハ差出人ニ還附ス」ト判決シ如何ナル鑿ヲ沒收セシモノナルヤヲ識別セス亦其判決理由トシテ鑿ヲ犯罪ノ用ニ供シタルト認メタル點ニ付テハ單ニ「夜中之ヲ他ニ運搬シ又ハ自宅地下ノ大鑿中ニ隠匿シテ云々」ト説明セシ而已ニシテ二個ノ鑿中如何ナル鑿カ犯罪ノ用ニ供セラレタルト認メタルヤヲ説明セス是レ(第一)ニ不確定ノ刑ヲ言渡シ(第二)判決ノ理由ヲ缺キタル瑕瑾アル裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○本件ニ關シ押收セラレタル鑿ハ二個アリト雖モ被告カ犯罪ノ用ニ供シタル鑿ハ被告自宅ノ地中ニ在ルモノナルコトハ原院判決事實理由ニ「又ハ自宅地下ノ大鑿中ニ隠匿シテ前記ノ造石數ニ對スル査定ヲ免レタリ」ト判示シタルニ依リ明瞭ニシテ其地中ニ在ル鑿カ第十四號差押目錄ニ記載セル鑿ナルコトハ同目錄ニハ「一瓶一個但第十三號桶ノ下埋メタル儘云々」ト掲ケアルニ第二號差押目錄ニハ單ニ瓶一個トノミ記載シタルニ依リ判明ナレハ原院カ沒收シタル鑿ハ第十四號差押目錄ニ記載セル地中ノ鑿ナルコトハ毫モ疑ナキノミナラス原院判決ハ其理由ニ於テ缺クル所ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第二點ハ刑事訴訟法第三百三十六條ニヨリ鑑定ニ準用シタル同法第二百一十一條ニハ「豫審判事ハ云々及ヒ第二百二十三條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フ可シ」ト規定シアリテ豫審判事カ成規ノ問ヲ爲スコトイテ故サテ其一ヲ畧スルカ如キ越權ノ行爲アルヲ許シアラス然ルニ一件記録中鑑定人坂本喜與門大

住又平ノ鑑定書ニ添附セル當該豫審判事ノ鑑定人訊問調書ヲ見ルニ同一訊問調書中一ハ活版一ハ筆記ニテ何レモ(問)右被告事件ノ民事原告人ノ親族後見人雇人同居人ニアラスヤ(答)ナシトアリテ絶テ右兩名ノ鑑定人ニ對シ刑事訴訟法第二百二十三條第三末項ノ問民事原告人又ハ被告ノ後見テ受クル者ニアラスヤ否ヤノ問)ヲ爲シタル事蹟ナシ從テ右違法ノ手續ニヨリ作成セシメタル坂本喜代門大住又平連署ノ鑑定書ハ是レヲ無効ノ者ト謂ハサル可ラス然ルニ原院カ之ヲ採テ本件有罪ノ判斷材料ノ一ニ供シタルハ違法ナリト信スト云フコ在レトモ○坂本喜代門大住又平ノ訊問調書ヲ檢スルニ豫審判事ハ問ニ對シ喜代門ハ二十六年又平ハ五十二年ナリト答ヘタル旨記載アリテ其成年者ナルコトハ明カナルノミナラス若シ心神喪失者ナル以上ハ他ノ點ニ於テ鑑定人タルノ資格ナキモノナレハ同人等カ民事原告人又ハ被告人ノ後見テ受クヘキ者ナラサルコトハ訊問ヲ待タズシテ自ラ明カナル事實ナルヲ以テ豫審判事カ特ニ此點ヲ調査セサルモ違法ナリト云フヲ得ス故ニ坂本喜代門外一名ノ鑑定書ハ無効ニアラスルヲ以テ原院カ之ヲ斷證ニ供シタルハ違法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件止告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十一月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○葉煙草專賣法違反ノ件

明治三十四年第一五二〇號
明治三十四年十一月二十二日宣告

○判決要旨

煙草製造人ハ葉煙草專賣法第十九條ノ(五)ニ依リ毎年其免許ヲ受クヘキモノトス從テ無免許ニテ數年度製造シタルトキハ其年度毎ニ別罪ヲ構成ス

(參照) 煙草ノ製造又ハ葉煙草ノ賣買ヲ業トセムトスル者ハ毎年政府ニ申出テ免許ヲ受ケ左ノ免許料ヲ納ムヘシ其ノ業ヲ廢セムトスルトキハ其ノ際届出ヘシ(葉煙草專賣法第十九條五)

第一審 和歌山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 森本 儀助

右葉煙草專賣法違反被告事件ニ付明治三十四年十月九日大阪控訴院ニ於テ言渡タル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣意書第一ハ原裁判所ニ於テハ上告人カ明治三十三年三月十七日ヨリ明治三十四年二月二十四日迄ノ間繼續シテ葉煙草六十六貫百五十匁ヲ湊隣太郎ヨリ買受ケ之ヲ刻製シテ販賣シタル事實ヲ認メナ

數年度ニ跨ル無免許ノ煙草製造

カラ二個ノ犯罪アルモノトシテ各一罪ニ付罰金百圓ノ刑ヲ言渡サレタルモ思フニ原判決ニ認ムル如ク
 犯意繼續スル上ハ犯罪ノ時期二年度ニ涉ルモ一罪タル事勿論ニシテ納税ノ年度ニ區分アルモ之レカ爲
 メ犯罪ヲ區分スヘキ理ナク一罪ハ常ニ一罪ニシテ只其一年度ニ涉ル爲メ二年度ノ脱税アルトキハ
 其二年度ノ脱税高ヲ合算シ之レカ二倍若クハ五倍ノ罰金ヲ科スヘク三十三年ノ犯罪三十四年ノ犯罪ト
 區分スヘキモノニアラス故ニ原裁判所カ二罪ト認メ葉煙草專賣法第二十七條ヲ適用處斷シタルハ擬律
 ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○葉煙草專賣法ニ依レハ煙草製造人ハ毎年其免許ヲ受ク
 ヘキモノトス故ニ無免許ニテ數年度製造シタルトキハ其年度毎ニ別罪ヲ成スコトハ當然ニシテ意思ノ
 繼續ヲ以テ一罪トナスヘキモノニアラサレハ原院カ年度毎ニ罪ヲ爲スモノトシテ處斷シタルハ相當ナ
 リトス

第二原裁判所ニ於テハ上告人カ淺藤太郎ヨリ買受ケタル葉煙草ノ内六百五十匁ヲ淺藤太郎方ニ殘シ置キ
 其餘ノ葉煙草ヲ用ヒテ刻煙草五十五貫六百七十匁ヲ製造シ内五十五貫三十一匁一分ヲ賣却シタル事實
 ナリトシテ故ニ其殘刻煙草ハ六百三十八匁九分ナルコト算數上明ナルニ原判決ハ之ヲ六百四十三匁九
 分ト認メ尙又葉煙草殘六百五十匁ト認メナカラ判決主文ニハ葉煙草殘六百四十三匁九分ヲ沒收スト言
 渡サレタリ是明カニ前後矛盾スルモノニシテ所謂理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○
 原判決ニハ被告カ刻製シタル煙草ハ五十五貫六百七十五匁ニシテ其内五十五貫三十一匁一分ヲ賣却シ

タルヲ以テ被告宅ニ現存スル刻煙草ハ六百四十三匁九分ナリト認定アリテ算數上齟齬ノ點ナシ又判決
 原本ニハ葉煙草六百五十匁ヲ沒收スル旨ノ記載アリ若シ被告ニ下付シタル判決謄本ニ所論ノ如キ記載
 アラハ謄本ノ誤寫ニ外ナラサルヲ以テ原判決ノ瑕瑾トスルヲ得ス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十四年十一月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

○鑛業條例違犯ノ件

明治三十四年十一月二十五日第一五四七號
明治三十四年十一月二十二日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法上罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ被告ハ代人ヲ
 シテ出頭セシムルヲ得ヘキモ代人ヲ以テ上訴スルコトヲ認許シテ
 ル法條ナシ

第二審 福岡地方裁判所小倉支部

第二審 長崎控訴院

被告人 久良地寅次郎

代人ノ上訴

右鐵業條例違犯被告事件ニ付明治三十四年十月十一日長崎控訴院ニ於テ本控訴ハ之ヲ受理セスト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シテ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意ハ第一刑事訴訟ハ代人ヲ許サハル定期ナルヘシト雖モ同法第百八十三條同第二百十四條ニ罰金刑ニ該ル輕罪ナルトキハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキ規定アリ而シテ同法第二百三十六條ニ前章ノ規定ハ地方裁判所ノ輕罪公判ニ準用ストアリ同法第二百五十八條控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ストアリテ輕罪ノ罰金刑ニ代人ヲ許サレタルハ現行法ノ認ムル所ナリ而シテ其代理權ハ當該裁判所ノ召喚以後ニ制限セラレタルニアラス尤モ同法第二百四十三條同第二百四十四條辯護人若クハ法律上代理人カ獨立シテ上訴ヲ爲ス如キハ特ニ之カ明文ヲ要スヘキモ代人ニ委任シテ上訴ヲナシ得ルハ第二百十四條第二百三十六條第二百五十八條ノ規定アルヲ以テ之レカ明文ヲ要セス否明文ナキヲ當然ナリト信ス又本人ニ於テ爲シ得ル行爲ハ代人ニ依リ爲シ得ヘキハ一般法理ノ認ムル所而シテ罰金刑ノ如キハ事實ノ申立及ヒ辯論ヲ爲スヲ得ルヲ認メ居リ恰モ民事ニ於ケル代理委任ト異ナラサレハ控訴申立ニ限り代人ヲ許サ、ルノ理ナク又本人自ラ申立ヲ爲スト代人ニ依ルト其間何ノ相違カ之レアラソ要スルニ原院カ控訴申立ハ代人ニ委任シテ爲サシムルハ現行刑事訴訟法ノ認メサル所ナルヲ以テ違法ナルニ依リ控訴ヲ不適法トシテ却下セラレタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト信ス

ト云フニ在レトモ○刑事訴訟法上罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ被告ハ代人ヲシテ出頭セシムルヲ得ヘキモ代人ヲ以テ上訴スルコトヲ認許シタル法條ナシ故ニ本件ニ於テ被告ノ代人松井辰三郎ハ爲シタル控訴ノ申立ハ不適法ナルヲ以テ原院カ該控訴ハ之レヲ受理セスト判決シタルハ相當ナリトス

第二被告ハ辯護士松井辰三郎ヲ代人トシテ一審裁判所ニ出頭セシメタルモ審理中ハ更ニ辯護人届ヲ出ダシ而シテ同人ニ委任シテ控訴ノ申立ヲ爲シタルモノナレハ刑事訴訟法第二百十三條ニ依リ申立ト視ルヲ得ヘシ然ルニ原院カ普通代人ノ申立トセラレタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ查スルニ裁判長ハ松井辰三郎ニ問フ第一審ニ於テハ辯護人トシテ辯論ニ立會シタルカ將ダ代理人トシテ出廷シタルカ答最初辯護人届ヲ爲シ置キタルモ後代理人ノ届ヲ爲シ代理人トシテ出頭シ又判決モ代理人ニテ受ケタリトアリ其他辭任御届ト題スル記録ニ依ルモ右ト同一ナレハ本論旨ハ謂レナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年十一月二十二日於大審院第二刑事部公廷檢事奥宮正治立會宣告ス